

第82図 区画AB土壌出土遺物(11)

第19表 区画AB土壌出土遺物観察表(2)(第82図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版	
1	土製品	ミニチュア	器高 1.0	底径 3.5	8.2	ACIK	普通	橙	SK21	江戸在地系 蓋型成形 上面施軸		117-8	
2	土製品	鳩笛	[1.9]	[2.1]	0.7	2.6	AK	灰白	SK9	京都系 二枚型成形 施軸(透明・緑・黄)		117-6	
3	土製品	鳩笛	[1.2]	[4.0]	0.6	4.9	AK	良好	灰白	SK9	京都系 二枚型成形 施軸(透明) SK9-2と同一個体		117-7
4	土製品	泥面子	径 2.4		0.9	5.6	AHK	良好	にぶい橙	SK21	江戸在地系 一枚型成形 摩耗 雲母付着		122-11
5	土製品	芥子面	2.0	1.9	0.7	2.6	AHK	良好	橙	SK22	江戸在地系 一枚型成形		122-13
6	土製品	人形	2.4	2.1	1.0	3.4	AK	良好	橙	SK22	江戸在地系 大黒 一枚型成形 中実 雲母付着		117-9
7	土製品	人形	2.2	2.0	0.8	3.1	AK	良好	橙	SK22	江戸在地系 一枚型成形 中実		117-10
8	土製品	人形カ	[5.1]	[4.8]	0.7	14.4	AHK	良好	橙	SK22	江戸在地系 二枚型成形 中空		

第74図36～38は肥前系磁器である。37・38は高台が高い蛇ノ目凹形高台の皿で、輪花に成形される。37の内底面に松竹梅桜状文の染付がみられる。焼継痕がみられ、高台内に朱書きで焼継印が3箇所認められる。38は内面に型紙摺絵染付が施される。第22号土壌由来の混入であるか判断することが困難である。焼継痕がみられ、高台内に朱書きで焼継印が認められる。

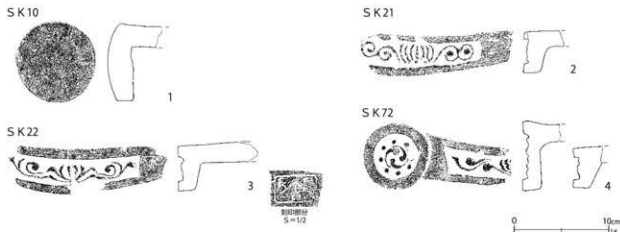
39は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形のそり皿である。内面に陰刻文がみられる。40は瀬戸美濃系磁器の型皿である。内面に型押陰刻文が

施文されるが軸が厚くなるためはっきりしない。

第75図43は肥前系磁器の鉢である。内側に段を有する輪高台状の台が付き、所謂盃洗に酷似する。栗桶宿での出土は稀である。三田系青磁等に認められる器形である。

第76図52は筒形の色絵水注である。外面に染付、赤と緑で上絵付が施される。

59は瀬戸美濃系陶器の備前写しの徳利である。体部に凹みを有する所謂ぺこかん徳利である。外面に柿軸が施軸され、底部は軸の拭き取りを行っ



第83図 区画AB土壙出土遺物(12)

第20表 区画AB土壙出土遺物観察表(3)(第83図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	5.2	[10.5]	2.6	[8.1]	7.8	AK	良好	灰白	SK10	饅頭瓦 銀化 燻す	
2	瓦	軒棧瓦	[4.4]	[16.3]	1.7	[5.6]	—	AK	良好	灰白	SK21	江戸式 瓦当面浅い 燻す	
3	瓦	軒棧瓦	[8.5]	[16.8]	2.1	[6.8]	—	ACBK	良好	灰白	SK22	大版式 銀化 燻す 刻印「長門」「舎」	123-16 124-14
4	瓦	軒棧瓦	[5.1]	[16.4]	2.3	[7.6]	7.1	AIK	良好	灰白	SK72	江戸式 右巻八連珠三巴文 燻す 雲母付着	

ている。

63は陶器の土瓶である。外面に糠白釉が施釉されていることから大塚相馬系陶器の可能性がある。弱く被熱する。

64は松岡系陶器の土瓶である。黒色粒子を多量に含むザラメ状の粗粒な胎土で、外面に鉄釉を施釉し、黒釉を流し掛けている。体部上位に段が付く。挿図は接点のない7片から図上復元した。

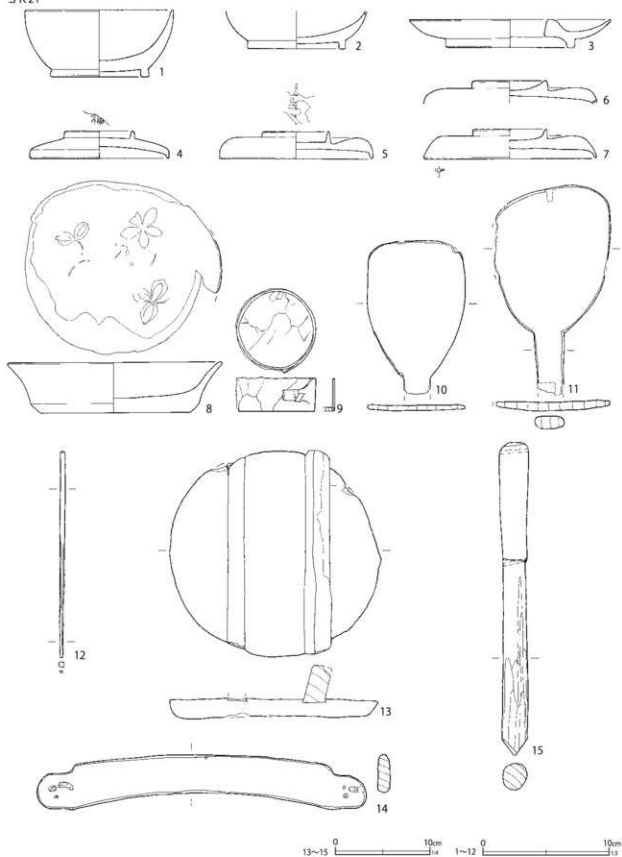
第77図65は陶器の青土瓶で、大塚相馬系陶器の可能性がある。外面に青緑釉が施釉される。頸部は緩やかに立ち上がり、注口部は「S」字である。弱く被熱し、外面露胎部に煤が付着する。66は萬古系陶器の急須である。胎土拓器質で口唇部に施釉・金彩を施し、外面に漢詩文が陰刻される。72は益子系陶器の播鉢である。柿釉を施釉し、内底面は放射状に密な描目がみられる。73は産地不詳陶器の香炉である。六角形で、内面上位と外面に白化粧、鉄絵を施し施釉する。口唇部は敲打による釉の剥落がみられる。74は瓦質土器の把手付き焙烙である。弱く燻し、外面に煤が付着する。把手に焼成前穿孔がみられる。75は

土師質土器の目皿である。鉢状で栗桶宿では稀な器形である。底部に焼成前穿孔が2箇所遺存し、底部はヘラナデ調整、内面は被熱により白色化している。

第78図76は瓦質土器の十能である。内面に刻印「○」、「岩崎」がみえる。電鍍にも認められる刻印である。胎土に角閃石が含まれるものにみられることから栗桶宿周辺の在地産と推定される。77は瓦質土器の丸火鉢である。底部はヘラナデ、口縁部にミガキ調整が施される。体部にはトビガンナ状文が施文され、表面は燻されている。78は瓦質土器の火鉢である。輪高台状の台が付く火鉢と考えられる。口縁部は折鐔状で、ミガキ調整が行われており、体部はスタンプ文をナデ消している。型成形の獅子頭が付く。内面下位には火箸による引っ掻き傷が無数にみえる。燻しにより表面は黒色である。

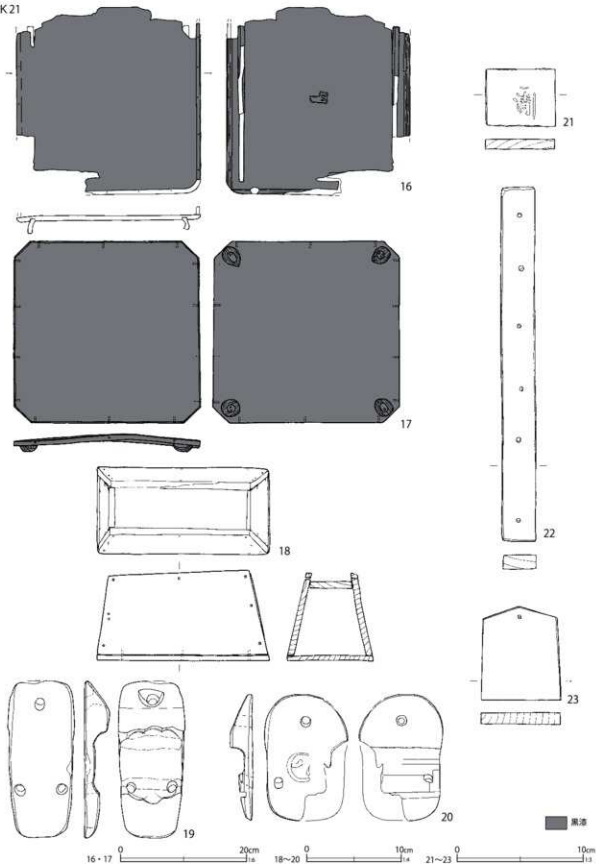
第79図79は瓦質土器の角火鉢である。底部、外面にシワ状痕がみられ、外面のシワ状痕を一部ナデ消している。80・81は土師質土器の丸底焙烙である。いずれも底部無調整でシワ状痕が残る。

SK21

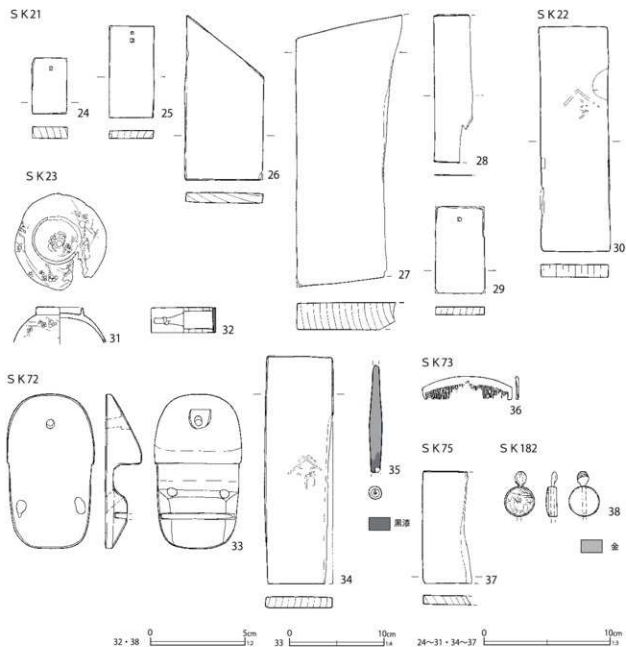


第84图 区画AB土城出土遗物(13)

SK21



第85图 区画AB土坑出土遗物(14)



第86図 区画AB土壌出土遺物(15)

80は体部に強いナデがみられ、口縁部が内傾し、底部の丸みは弱い。81は体部が開き、口縁部が肥厚する。底部の丸みは80より強い。破損部を接合補修した補修孔が3対あり、1対は銅線が巻きついて留めてある。82は瓦質土器の竈鏝である。底部断面は角形で、鏝下端部は丸みを帯びる。煤が付着する。83は焜炉等の付属品である所謂器台と推定される大型の瓦質土器である。表面はやや酸化焙焼成気味である。84は瓦質土器

の焜炉である。底部無調整の砂目底で、外面はスタンプ状施文後にミガキ調整を行っている。挿図では僅かに遺存していた窓部を推定復元した。五徳部と中筒は欠失しており、外筒との接続部が遺存している。85は瓦質土器で、火消壺の蓋である。上面は無調整で砂目が残る。

86～90は土師質土器で、86～88は焼塩壺、89・90は焼塩壺の蓋である。焼塩壺は栗橋宿では典型的な無印の左回転クロコ成形で、上部がや

第21表 区画AB土城出土土物観察表(4)(第84~86図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆桶	—	—	—	11.8	5.3	7.9	横木取り	SK21	内面赤漆 外面黒漆	127-1
2	木製品	漆桶	—	—	—	—	(3.0)	7.8	横木取り	SK21	内面赤漆 外面緑漆	
3	木製品	天目台	—	—	—	15.8	2.2	10.2	横木取り	SK21	内外面黒漆	127-2
4	木製品	漆桶蓋	—	—	つまみ径 5.1	10.8	12.2	—	横木取り	SK21	内外面赤漆 口縁とつまみ縁黒漆 つまみ内黒で「福」	127-3
5	木製品	漆桶蓋	—	—	つまみ径 5.7	13.5	2.4	—	横木取り	SK21	内外面赤漆 高台内黒で文様	127-4
6	木製品	漆桶蓋	—	—	つまみ径 5.6	—	1.8	—	横木取り	SK21	内外面黒漆	
7	木製品	漆桶蓋	—	—	つまみ径 5.8	13.6	2.3	—	横木取り	SK21	内外面黒漆 つまみ縁と口縁金 内面赤で「中」	127-5
8	木製品	漆鉢	—	—	—	(16.8)	4.0	11.8	横木取り	SK21	内外面黒漆 内面赤で文様 口縁炭化	
9	木製品	曲物	—	—	—	6.2	2.7	6.0	板目	SK21	内面から外面に硬化した紙付着	127-6
10	木製品	杓子	[12.1]	7.7	0.4	—	—	—	板目	SK21		
11	木製品	杓子	[16.5]	[9.0]	0.6	—	—	—	板目	SK21	裏面一部炭化	127-7
12	木製品	箸	16.2	0.4	0.4	—	—	—	削出し	SK21	全面赤漆 上部突出 下半面取り	
13	木製品	蓋	32.5	33.0	—	—	5.5	—	板目	SK21	裏面炭化	
14	木製品	把手	4.0	34.7	1.4	—	—	—	板目	SK21	左右端に釘穴	
15	木製品	不明品	33.1	2.6	2.8	—	—	—	削出し	SK21	木釘穴 2	
16	木製品	膳	[30.0]	29.4	—	—	4.1	—	板目	SK21	裏面焼印 全面黒漆	127-8
17	木製品	膳	29.1	29.9	—	—	2.9	—	板目	SK21	黒漆 蓋み有	127-8
18	木製品	箱杖	9.3	18.3	—	—	9.3	—	板目	SK21	一部炭化	
19	木製品	下駄	16.5	6.5	—	—	2.6	—	板目	SK21	削り下駄	
20	木製品	下駄	13.3	8.4	—	—	2.4	—	板目	SK21	削り下駄 表面焼印「㊦」	
21	木製品	木札	4.4	5.5	0.8	—	—	—	板目	SK21	焼印「雷」	
22	木製品	木札	28.0	2.7	1.2	—	—	—	板目	SK21	表面黒書	
23	木製品	木札	7.3	6.3	0.9	—	—	—	板目	SK21	表裏面黒書 孔 1 得模駒形	143-1
24	木製品	木札	4.4	2.8	0.9	—	—	—	板目	SK21	表裏面黒書 孔 1	143-2
25	木製品	木札	7.2	3.5	0.6	—	—	—	板目	SK21	表裏面黒書 孔 1	143-3
26	木製品	木札	12.9	6.3	0.8	—	—	—	板目	SK21	表面黒書 側板転用	143-5
27	木製品	木札	21.4	[8.4]	2.1	—	—	—	板目	SK21	樽の蓋の転用	143-6
28	木製品	経木	11.5	[3.1]	0.05	—	—	—	板目	SK21	表裏面黒書	143-7
29	木製品	木札	6.8	3.9	0.6	—	—	—	板目	SK21	表面黒書 孔 1	143-9
30	木製品	木札	17.8	5.4	1.0	—	—	—	板目	SK22	焼印「へ」に「口」	
31	木製品	漆桶蓋	—	—	つまみ径 3.7	—	(2.9)	—	横木取り	SK23	内外面赤漆 金で文様 つまみ縁金	127-9
32	木製品	曲物	—	—	—	3.4	1.3	3.4	板目	SK23		
33	木製品	下駄	16.3	9.3	—	—	[3.9]	—	板目	SK72	削り下駄	
34	木製品	木札	18.0	5.4	0.9	—	—	—	板目	SK72	焼印「金」	
35	木製品	浮子	[8.5]	1.0	1.0	—	—	—	板目	SK72	赤漆 黒漆 下部の孔に銅金属	
36	べっ甲製品	髷	7.1	1.8	0.2	—	—	—	—	SK73	剥離激しい	
37	木製品	木札	8.8	[3.9]	0.7	—	—	—	板目	SK75	表面黒書	144-6
38	木製品	髷	[2.4]	1.6	0.6	—	—	—	板目	SK182	茶漆で絵 耳かき部裏面金	128-16

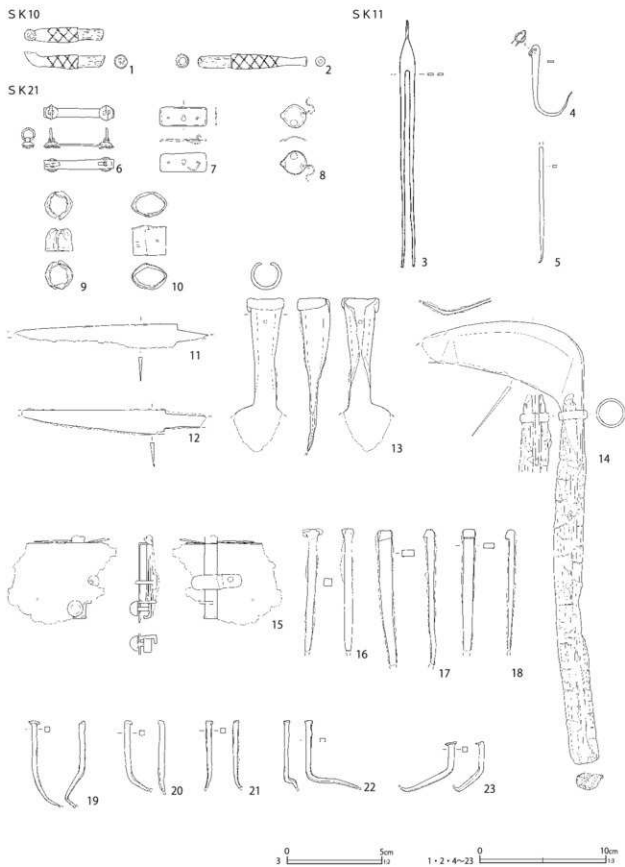
や反るようには開口する筒形である。蓋は断面形が逆台形を呈し、これも栗橋宿出土製品の大きな特徴である。

88を除き、いずれも類似した胎土であるが89・90には白色針状物質が含まれる。雲母を含む粉質胎土であるため、所謂江戸在地系土器に類似するが混入物が多く、典型的な江戸在地系土器

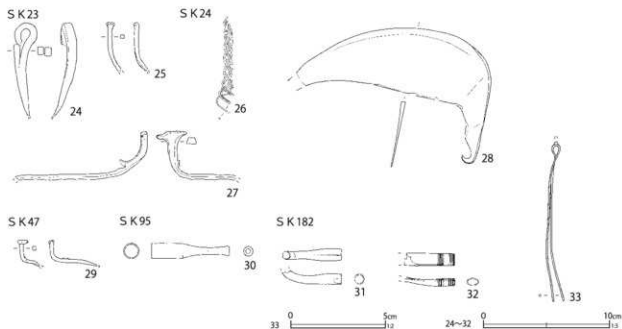
とは異なる。

第82図1はミニチュアの蓋である。胎土に細粒な雲母を含む江戸在地系で、型造りである。4は江戸在地系の泥面子である。摩耗しており、文様は不明瞭である。

第83図2は、江戸式に類似する軒棧瓦である。瓦当文様は中心弁七枚に渦巻唐草文で、瓦当面は



第87图 区画AB土城出土遗物(16)



第 88 図 区画 AB 土壙出土遺物 (17)

極めて浅い。

第 84 図 1 は漆椀で、2 と同形である。4 は漆椀蓋である。全面赤漆で口縁部とつまみ縁が黒である。つまみ内に「福」の文字が書かれる。5～7 は漆椀蓋で、肩部が盛り上がる器形である。6・7 はつまみ中央が挿鉢状に窪み、5 と異なる。7 は内面に赤で「中」の文字が書かれている。8 は漆鉢である。底面と体部境の角が明瞭である。口縁部が炭化している。内外面は黒漆塗りで、赤色で花の文様が描かれる。9 は曲物である。内面から外面にかけて硬化した黒色の紙が付着している。漆による硬化と考えられる。10・11 は杓子で、いずれも柄部が欠損している。11 は柄の軸がやや左に寄る。12 は赤漆塗りの箸である。上部が突出する。断面形は方形で、下半は面取りがされている。13 は蓋で、鍋蓋と考えられる。裏面全体が炭化している。把手は上部に向かって開くように取り付けられている。第 85 図 16 は膳で、全面黒漆塗りである。側板の一边が残存し、木釘と漆で固定されている。脚部は二列である。底板の角は丸く作られ、裏面に記号状の焼印が押されている。17 は胡桃足膳である。側板は残存せず、

底板側面に木釘と漆で固定した痕跡が残る。底板は四隅が落とされる。胡桃の脚は 4 箇所、接地面は平坦に加工される。18 は箱枕である。漆の痕跡は確認できない。高さ 9.3 cm で小型である。19・20 は剃り下駄である。19 の前歯・後歯には半円形の工具で加工された痕跡が残る。20 は後歯のみ差し込む形になっている。台の平面形は角の丸い長方形である。表面に「㊦」の焼印が押される。21 は木札である。「蒲」の焼印が押される。22 は板状の製品で、穴が 6 箇所穿たれる。表面に「口藏国[]」の墨書が残る。23 の木札には「雲龍水」の墨書が残る。第 86 図 24 には「傘」の墨書が残る。

第 87 図 6・7 は銅製の煙草入れ金具である。6 は袋の揚げ受けにつく金具で、7 は袋の前金具の裏金である。11・12 は鉄製の刀子である。11 は著しく刃こぼれている。13 は鉄製十能である。本来は木柄が付く。栗橋宿では瓦質土器の十能が多く、金属製は稀である。15 は鉄製錠前である。引き出しの錠前で、施錠した状態である。16～23 は鉄製の釘で、16・19～23 は頭巻釘、17・18 はさっぱ釘である。

第22表 区画 AB 土壌出土遺物観察表 (5) (第87・88図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ[4.3] 小口径1.1 重さ5.5	SK10	雁首 火皿欠失 雁字残存	
2	銅製品	煙管	長さ6.0 小口径1.1 口付径0.8 重さ6.0	SK10	吸口 雁字残存 1と同一具	
3	銅製品	簪	長さ13.0 幅0.8 厚さ0.1 重さ4.1	SK11	玉欠失	
4	銅製品	鉤金具	長さ5.6 幅0.5 厚さ0.1 重さ2.6	SK11	径9mmの提摺付	
5	銅製品	ケガキ針	長さ[9.1] 幅0.3 厚さ0.2 重さ5.0	SK11	先端の形状から推定	
6	銅製品	標草入れ金具	縦1.2 横5.6 高さ1.7 重さ5.1	SK21	袋の提子受け金具	
7	銅製品	標草入れ金具	縦1.5 横3.7 厚さ0.03 重さ1.2	SK21	袋の前金具の裏金	
8	銅製品	不明	縦[2.3] 横2.7 厚さ0.05 重さ1.0	SK21		
9	銅製品	不明	縦[2.2] 横2.2 高さ[1.8] 厚さ0.03 重さ2.1	SK21		
10	銅製品	不明	縦2.0 横2.8 高さ2.4 厚さ0.03 重さ3.0	SK21	薄い銅板を筒状に回し、一方の先端はややすぼまる	
11	鉄製品	刀子	長さ[15.4] 刃長[12.5] 刃幅1.9 背幅0.2 重さ20.8	SK21	刃こぼれ著し茎先欠損	
12	鉄製品	刀子	長さ[14.6] 刃長[11.3] 刃幅1.9 背幅0.3 重さ24.3	SK21	刃先・茎先欠損	
13	鉄製品	十徳	長さ[12.2] 幅[3.8] 厚さ0.2 重さ57.7	SK21	木柄十徳 柄差込部のみ残り本体は大半欠失	
14	鉄製品	鎌	長さ35.2 刃長[12.9] 刃幅4.9 背幅0.2 重さ109.9	SK21	木柄付 刃先端曲がり欠損 口金径2.3cm 目釘欠失	
15	鉄製品	錠前	縦[7.0] 横[8.6] 厚さ最大2.1 重さ43.6	SK21	引出しの錠前 錠錠状態	
16	鉄製品	釘	長さ[9.8] 幅0.6 厚さ0.6 重さ20.3	SK21		
17	鉄製品	釘	長さ[10.8] 幅1.0 厚さ0.5 重さ26.7	SK21		
18	鉄製品	釘	長さ[9.7] 幅0.8 厚さ0.4 重さ19.3	SK21		
19	鉄製品	釘	長さ[6.8] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.9	SK21		
20	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.8	SK21		
21	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.2	SK21		
22	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.4 厚さ0.3 重さ5.2	SK21		
23	鉄製品	釘	長さ4.0 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.0	SK21		
24	鉄製品	環釘	長さ[7.4] 幅0.5 厚さ0.7 重さ19.3	SK23		
25	鉄製品	釘	長さ[3.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.9	SK23		
26	銅製品	不明	縦[7.5] 横1.4 厚さ0.1 重さ3.1	SK24	2本1組の銅線3本を編み込む	
27	鉄製品	釘	長さ[10.5] 幅0.8 厚さ0.5 重さ14.7	SK24		
28	鉄製品	鎌	刃長[15.4] 刃幅5.2 背幅0.3 重さ84.1	SK24	刃先欠損	
29	鉄製品	釘	長さ[3.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.5	SK47		
30	銅製品	煙管	長さ6.2 小口径1.2 口付径0.8 重さ12.5	SK95	吸口	
31	銅製品	煙管	長さ[4.7] 小口径0.8 重さ3.7	SK182	雁首 火皿欠失	
32	銅製品	煙管	長さ[4.0] 小口径0.9×0.6 重さ2.9	SK182	雁首 火皿側欠失	
33	銅製品	簪	長さ[8.4] 厚さ0.1 重さ1.1	SK182		

第90図5は軽石製の磨石で、表面は自然面、裏面は磨りによる平坦面である。6は緑色を呈する流紋岩製砥石である。下端面に櫛歯状の工具痕が残り、側・裏面に刃幅の広い工具痕による削り痕がみられる。7は白色の流紋岩製砥石である。使用によるすり減りでサイコロ状を呈する。8は粗粒凝灰岩製の切石材である。両面にツルハン状工具痕がみられ、表面は工具痕周囲が粗割状を呈する。裏面は摩耗している。

第22号土壌 (第69・80・82・83・86図)

F7-B・C6グリッドに位置する。第19号土壌より古く、第21号土壌より新しい。平面形は重複により不詳である。検出長軸2.25m、短軸0.75m、深さ0.22mを測り、長軸方位はN-68°-Eを指す。

覆土には植物質と炭化物が含まれ、第7層には炭化材がみられる。第10層には薄く炭化物が堆積する。推定廃絶期は19世紀後葉である。

第80図92～95に陶磁器、第82図5～8に土製品、第83図3に瓦、第86図30に木製品を

図示した。

第80図93は瀬戸美濃系磁器の端反形環である。外面に酸化コバルト染付を施す。体部の立ち上がり部は丸みを帯びる。95は産地不詳陶器の行平鍋である。柿軸を施軸し、体部中位は拭き取りを行っている。外面は単刃状のトビガンナ施文である。

第82図5は江戸在地系の芥子面である。一枚型成形で、獅子の意匠である。6は大黒を模した人形で、江戸在地系である。中実の一枚型成形で、離剤の雲母が付着する。7は江戸在地系の人形で、一枚型成形で意匠は不詳である。8は江戸在地系の人形と推定され、中空の二枚型成形の可能性がある。葉脈状の陰刻文がみられる。

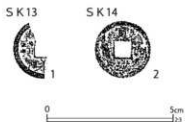
第83図3は大阪式に類似する軒棧瓦で、唐草文は一部江戸式である。銀化がみられ、胎土には角閃石が含まれる。刻印「長門」、「倉」がみられる。

第86図30は木札である。屋号の焼き印がみられるが、「へ」の下は判読できない。

第23号土壌 (第69・80・86・88・90図)

F7-B6グリッドに位置する。第24号土壌より古く、第1号杭列と重複する。平面形は隅丸方形で、長軸1.9m、短軸1.85m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-25°-Wを指す。

粘質土と砂・砂質土が互層になった斜め堆積であり、日光道中側からの廃棄が推定される。推定廃絶期は19世紀後葉である。



第89図 区画AB土壌出土遺物(18)

第23表 区画AB土壌出土遺物観察表(6)(第89図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図取
1	銅製品	銭貨	径23.3 厚さ1.0 重さ[0.9]	SK13	寛永通寶(新)2/3欠	
2	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.4 重さ2.6	SK14	寛永通寶(古)	

第80図96・97に陶磁器、第86図31・32に木製品、第88図24・25に金属製品、第90図9に石製品を図示した。

第80図96は肥前系磁器の粗製碗で、外面に染付文字「板」がみえる。「板」とは『絵図』にみえる「年寄/庄兵衛」の屋号「板屋」を指す。栗橋宿跡の各地点で同様の染付銘の碗や皿が出土している。

第86図31は漆碗の蓋である。内外面に赤漆を塗布し、金で文様を描く。輪高台状のつまみ縁に金で彩色する。

第88図25は鉄製の頭巻釘である。

第90図9は軟質な角閃石安山岩製の砥石で、石質は砥石に利用される流紋岩や凝灰岩に似る。右側面に段を有するノコギリ状工具痕がみられ、段上には刃幅の広い工具痕と推定される削り痕がみられる。裏面にはチョウナ状工具と推定される刃幅の広い工具痕が残る。

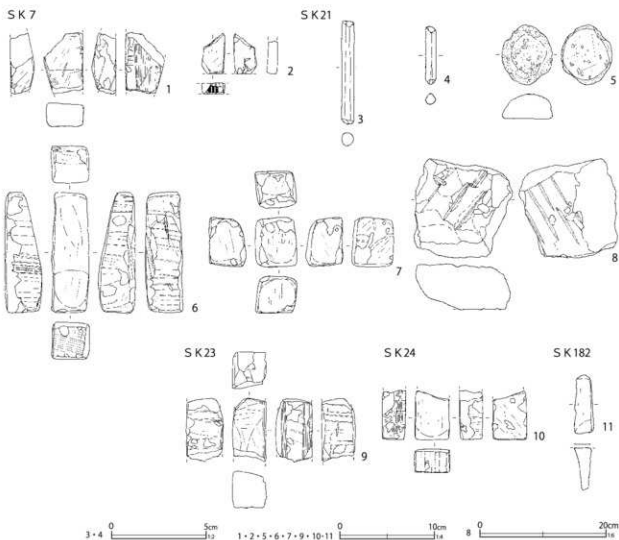
第24号土壌 (第69・80・88・90図)

F7-B6グリッドに位置する。第23号土壌より新しく、第1号杭列と重複する。平面形は楕円形で、検出長軸2.55m、短軸2.15m、深さ0.45mを測る。長軸方位はN-74°-Eを指す。

覆土は砂質土と砂を主体としており、砂質土と砂もしくは砂を多量に含む土が互層になっている。第9層には多量の植物質が含まれる。網籠状製品が出土しており、遺構図に記載しているが遺存状態が悪く、現地調査で回収することができなかった。推定廃絶期は第23号土壌とほぼ時期差がないが、19世紀後葉である。

第80図98~104に陶磁器類、第88図26~28に金属製品、第90図10に石製品を図示した。

第80図101は瀬戸美濃系磁器の急須で、外面は酸化コバルト染付である。焼継痕がみられ、底



第90図 区画AB土壌出土遺物(19)

第24表 区画AB土壌出土遺物観察表(7)(第90図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[6.5]	[4.1]	[2.6]	90.8	流紋岩	SK7	側面幅広工具痕 裏面ノコギリ痕 砥面2 表・裏面刃物痕あり 被熱(剥落)	
2	石製品	砥石	[4.3]	[2.5]	1.2	19.0	ホルンフェルス	SK7	側面ノコギリ痕 砥面2 裏面刃物痕あり	
3	石製品	石筆	5.5	0.6	0.6	5.0	滑石(灰)	SK21	両端使用	
4	石製品	石筆	3.1	0.5	0.6	1.8	滑石(灰白)	SK21	両端使用	
5	石製品	磨石	6.4	5.4	3.0	33.7	軽石	SK21	自然面遺存 使用面1	140-3
6	石製品	砥石	12.8	4.0	3.9	358.4	流紋岩(緑色)	SK21	側・裏面幅広工具痕 下部部櫛歯状工具痕 砥面4(摩耗2)裏面刃物痕あり	139-13
7	石製品	砥石	5.2	4.4	3.9	151.1	流紋岩	SK21	砥面6	
8	石製品	切石材	[15.8]	[15.9]	[7.1]	2181.8	凝灰岩(粗粒)	SK21	両面ツルハシ状工具痕(表面粗割状 裏面摩耗)	138-3
9	石製品	砥石	[6.7]	3.6	3.9	152.4	角閃石安山岩	SK23	裏面幅広工具痕 右側面ノコギリ痕 側面削痕 砥面2	
10	石製品	砥石	[5.2]	[3.7]	2.5	94.3	流紋岩	SK24	側面丸ノミ痕カ(刃こぼれ状)・削痕・刃物痕多数 砥面3	
11	石製品	砥石	[6.3]	[2.0]	[4.9]	64.7	砂岩(細粒)	SK182	砥面1	

部に朱書きで焼継印がみられる。102は産地不詳陶器の坏である。型成形で外面は陽刻文である。外面に白土を塗り、施軸している。所謂地方窯系陶器と考えられる。

第90図10は流紋岩製砥石である。側面に歯状工具に類似する削り痕がみられ、刃こぼれした丸ノミ状工具で成形した可能性がある。

第25号土壌 (第69図)

F7-C6グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.05mである。長軸方位はN-14°-Wを指す。

出土遺物は極めて少なく、図示し得るものがなかった。推定廃絶期は19世紀後半である。

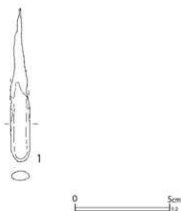
第26号土壌 (第68図)

F7-B・C6グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸0.7m、単軸0.45m、深さ0.1mを測る。長軸方位はN-30°-Wを指す。

上層は砂質土で、下層は粗粒な土に多量の炭化物が含まれる。出土遺物は少量で、図示し得るものがなかった。推定廃絶期は19世紀後半である。

第45号土壌 (第69図)

F7-B6グリッドに位置する。第46号土壌 SK21



第91図 区画AB土壌出土遺物(20)

第25表 区画AB土壌出土遺物観察表(8)(第91図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	骨製品	ブラシ	[8.1]	1.0	0.5	3.9	SK21		142-13

より新しい。平面形は隅丸長方形で、検出長軸0.9m、短軸0.5m、深さ0.1mを測る。長軸方位N-20°-Wを指す。

しまりの強い砂質土の単層で、出土遺物は極めて少なく、図示し得るものがなかった。推定廃絶期は19世紀後半である。

第46号土壌 (第69図)

F7-B6グリッドに位置する。第45号土壌より古く、第47号土壌より新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸1.15m、短軸0.85m、深さ0.1mを測る。長軸方位はN-19°-Wを指す。

しまりの強い砂質土の単層で、出土遺物は極めて少なく、図示し得るものがなかった。推定廃絶期は19世紀後半である。

第47号土壌 (第69・88図)

F7-B6グリッドに位置する。第46号土壌より古い。平面形は隅丸長方形で、検出長軸0.65m、短軸0.55m、深さ0.2mを測る。長軸方位はN-41°-Wを指す。

砂質土主体で、中層に貝類が多量に含まれるが、遺存状態が悪い。出土した貝はオオタニシ1点と種別不明の貝1点である。出土遺物は極めて少なく、第88図29に鉄製の頭巻釘を図示した。最新期の陶磁器は、瀬戸美濃系磁器陽刻文型皿と陶器のトビガンナ施文行平鍋である。推定廃絶年代は19世紀後半である。

第72号土壌 (第70・81・83・86図)

F7-B6グリッドに位置する。第73・75号土壌と重複する。平面形は不整形で、長軸2.3m、短軸1.0m、深さ0.35mを測る。長軸方位はN-23°-Wを指す。

覆土は炭化物を含むシルト質土と炭化物層からなり、炭化物層はパイプたばこ状の木片で構成されている。推定廃絶年代は19世紀後半である。

第81図105～107に陶磁器、第83図4に瓦、第86図33～35に木製品を図示した。

第81図105は瀬戸美濃系磁器の坏である。高台内側に段が付き、内面は江戸絵付けで「㊦」と書かれる。外面は酸化コバルト染付である。107は大塚相馬系陶器の碗である。手捻り成形の所謂雅物碗で、胎土に鉄分と考えられる粒径の大きい黒色粒子が多量に含まれる。焼成により軸越しに黒色粒子の斑状模様が浮かぶ。

第83図4は江戸式の軒棧瓦である。第86図33は削り下駄で、後歯は差し込む形になっている。裏面の前壺周辺にくぼみが作られる。34は木札で、「翁」の焼印が押されている。

第73号土壌 (第70・81・86図)

F7-B6・7グリッドに位置する。第75号土壌より古く、第12号土壌より新しい。さらに、第72号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、検出長軸3.65m、短軸2.3m、深さ0.3mを測る。長軸方位N-72°-Eを指す。

シルト質土主体で、炭化物と木質を含む。第11層の最上部に砂粒が薄く堆積する。出土している常滑系陶器の大甕は第二面第337号土壌出土の本体と接合する。推定廃絶期は19世紀後葉である。

第81図108に瀬戸美濃系磁器の爛徳利、第86図36に木製品の櫛を図示した。

第75号土壌 (第70・86図)

F7-B6・7グリッドに位置する。第73号土壌より新しく、第72号土壌と重複する。平面形は不整形で、長軸1.7m、短軸1.5m、深さ0.4mを測る。長軸方位はN-86°-Eを指す。

覆土は炭化物と木片を含む細粒な砂を主体とする。小礫を含む最下層には多量の木片が廃棄されている。出土遺物は少量だが陶磁器の個体資料が豊富である。第86図37に木製品の木札を図示した。

第95号土壌 (第70・81・88図)

F7-B6・7グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-71°-Eを指す。

覆土はシルト質土主体で、上層に屑・チップ状木片が多量に廃棄されている。木片以外の出土遺物は極めて少ない。推定廃絶期は19世紀後半以降である。第81図109に陶器、第88図30に銅製煙管の吸口を図示した。

第81図109は産地不詳陶器で、内面露胎であることから香炉と推定される。褐色の極めて硬質な胎土で、外面に鉄軸がかり、志都呂系陶器に類似する。内面には布目疳痕がみられる。

第180号土壌 (第71・81図)

F7-B7グリッドに位置する。第100号土壌より新しく、第9・181号土壌と重複する。平面形は不整形で、検出長軸2.0m、短軸1.8m、深さ0.5mを測る。長軸方位はN-70°-Eを指す。

最上層に炭化物が多量に含まれ、最下層に炭化物と灰の混合層が堆積する。北側にテラス状に段が付き、「T」字形を呈する。多くの土壌と重複することから、2基の土壌との重複も考えられるが、一括出土遺物に明確な時期差を示唆するようなまとまりはみられなかった。推定廃絶期は19世紀後半以降である。

第81図110・111に陶磁器を図示した。110はヨーロッパ系軟質磁器の坏である。本国ではティーボウル(Tea Bowl)と呼称されるもので、受け皿であるソーサーとセットで喫茶に使用される器種である。

内外面に銅版転写染付で草花文が絵付けられる所謂プリントウェアである。焼成時に酸化コバルトを意図的に軸に流れ込ませ、絵付けを滲ませるフロウ・ブルー(滲み手)と呼ばれる技法がみられる。

高台量付には極小の窯道具痕(スパー痕)が3箇所みられ、高台中央には円形の縁線が1条巡る。

また、滲みにより不明瞭だが、高台内に文字状の絵付けがみられる。

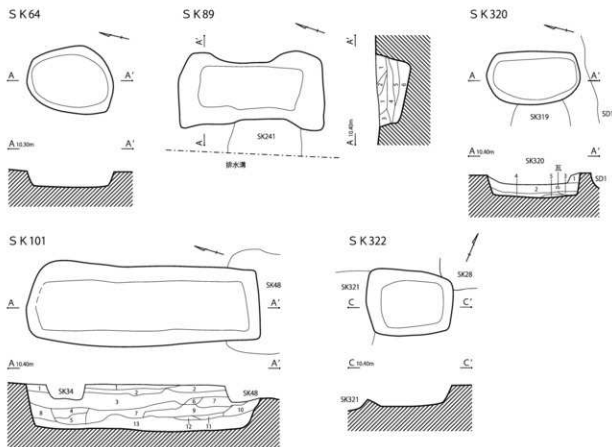
ヨーロッパ製のプリントウェアは銅版転写の原盤である銅版画の売買を複数カ国、複数企業間で行われるため、生産企業を示す銘鑑や刻印がなければ生産地は判断しがたい。しかし、オランダ・マーストリヒトのベトルス・レグー社では日本向

けに既存の器種をアレンジし、小坏、德利、蓋付き碗・鉢等を生産・輸出していることが指摘されている（長久 2011）。そのため、ある程度生産地を特定できるケースもある。本製品も口径が小さいことから坏の範疇に含まれるため、オランダ産の可能性も指摘できる。なお、長崎市出島阿蘭陀商館跡では、マーストリヒト産と推定される盃が

第 26 表 第一面区画 AC 土壌一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	採回
1	F7-C6	隅丸長方形	1.40	1.15	0.50	N-74°-E	SK91より新	104
2	F7-C6	楕円形	0.95	0.55	0.10	N-74°-E	SK91より新	104
3	F7-C6	円形	0.60	0.55	0.10	N-43°-E	SK78・91より新	104
4	F7-C6	隅丸長方形	0.75	0.50	0.10	N-65°-E	SK78より新	104
5	F7-C6	不整隅丸長方形	1.05	0.60	0.25	N-70°-E	SK6・65より新	104
6	F7-C6	隅丸長方形	1.00	0.85	0.25	N-20°-W	SK5より古 SK65より新	104
28	F7-C6	隅丸長方形	1.40	0.85	0.30	N-87°-E	SK29より新 SK322と重複	104
29	F7-C6	隅丸長方形 (1.30)	1.10	0.30	N-25°-W	SK28より古	104	
30	F7-C6・7	隅丸長方形	1.65	0.80	0.30	N-17°-W		104
31	F7-C6・7	不明	(0.35)	0.65	0.25	N-14°-W		104
32	F7-C6・7	隅丸長方形	1.10	0.85	0.45	N-74°-E	SD1と重複	104
34	F7-C7	隅丸長方形	0.85	0.60	0.25	N-88°-E	SK101より新	104
35	F7-C7	楕円形	0.80	0.70	0.20	N-79°-W		104
36	F7-C7	楕円形	1.35	0.95	0.50	N-2°-W	SK42より古 SK43と重複	105
42	F7-C7	不整隅丸方形	1.50	1.45	0.35	N-19°-W	SK36より新 SK43と重複	105
43a	F7-C7	不整形	2.45	1.65	0.30	N-12°-W	SK43bより新 SK36・42と重複	105
43b	F7-C7	不整形	(1.55)	0.70	0.30	N-12°-W	SK43aより古 SK36・42と重複	105
44	F7-C6	隅丸長方形	1.40	1.10	0.60	N-84°-E	SK65と重複	106
48	F7-C7	隅丸長方形	1.65	1.10	0.20	N-73°-E	SK49・101より新	105
49	F7-C7	隅丸長方形	0.85	0.65	0.20	N-75°-E	SK48より古 SD1と重複	105
62	F7-C7・8	隅丸長方形	(1.65)	1.15	0.20	N-70°-E	SK63と重複	105
63	F7-C7	円形	1.05	1.00	0.50	N-70°-E	SK62と重複	105
64	F7-C7	楕円形	1.40	1.10	0.25	N-10°-E		92
65	F7-C6	不整隅丸長方形	4.35	1.50	0.60	N-18°-W	SD32・焼土遺構4・SK5・6より古 焼土遺構2a・SK44・78と重複	106
78a	F7-C5・6	不整形	(4.20)	2.15	0.95	N-74°-E	SK3・4より古 SK91より新 SD32・SK65・90と重複	106
78b	F7-C5・6	不整形	(2.20)	(0.60)	0.40	N-74°-E	SK78aより新 SK65と重複	106
89	F7-C6	不整隅丸長方形	2.30	1.20	0.55	N-18°-W	SK241と重複	92
90	F7-C6	不整形	(3.10)	1.00	0.30	N-12°-W	SK78・SD1と重複	106
91	F7-C6	不整形	(2.55)	1.35	0.45	N-18°-W	SK1・2・3・78より古	106
101	F7-C7	隅丸長方形	3.70	1.25	0.75	N-16°-W	SK34・48より古	92
214	F7-B・C・8	不明	2.15	(0.80)	0.25	N-23°-W		105
241	F7-C5・6	不明	(0.65)	1.15	0.55	N-73°-E	SK89と重複	106
260	F7-C6	楕円形	0.80	0.70	0.35	N-41°-E		105
319	F7-C6	楕円形か	(0.90)	1.00	0.15	N-76°-E	1号埋桶より古 SK320・323と重複	105
320	F7-C6	隅丸長方形	1.50	0.85	0.40	N-14°-W	SK319と重複	92
321	F7-C6	隅丸長方形	1.40	(1.15)	0.45	N-28°-W	SK322・323と重複	105
322	F7-C6	隅丸長方形	1.40	1.05	0.35	N-70°-E	SK28・321と重複	92
323	F7-C6	隅丸長方形	1.45	0.90	0.60	N-17°-W	SK319・321と重複	105



- SK 89
- 1 暗黄褐色土 砂質
 - 2 黒褐色土 木片多量
 - 3 黒褐色土 褐色土粒多量
 - 4 黒褐色土 粘質土 炭化物含む
 - 5 暗灰褐色土 粘質土 木片多量
 - 6 暗灰褐色土 粘質土
- SK 101
- 1 黒褐色土 砂質 炭化物・黄色粘土少量
 - 2 灰褐色土 シルト質 黄色粘土少量 砂粒含む(3層より混入)
 - 3 黄褐色土 砂質 細粒
 - 4 灰色土 粘土質 粘性極強 細かい木質片含む

- 5 黄褐色土 粘土質 粘性極強 細かい木質片含む
- 6 黄色土 粘土質
- 7 褐色土 粘土質 細かい木質片(φ5~20mm)含む
- 8 暗灰色土 粘土質 木質少量
- 9 灰褐色土 粘土質 木質少量
- 10 明灰褐色土 粘土質 粘性極強 木質(木皮φ10~20mmの木片)多量 シルト質 粘性強
- 11 暗灰色土 粘性強
- 12 黒褐色土 シルト質 粘性強 木片・木皮(φ5~10mm程)多量
- 13 黄褐色土 シルト質 粘性強 樹皮・木材・木片(φ50mm以上)多量

- SK 320
- 1 暗灰褐色土 粘土質 炭化物少量
 - 2 灰褐色土 粘土質 木質・酸化鉄多量
 - 3 木質層 木質で構成される 炭分少量
 - 4 黄褐色土 砂質 木質を含む
 - 5 灰色土 粘土質 木質多量

第92図 区画AC土壌(1)

出土している(長崎市2002)。

111は産地不詳陶器で、土瓶の可能性のある袋物製品である。外面に青緑釉を施釉し、不明瞭な陽刻文がみえる。内面には櫛歯状工具ナデがみられる。

③区画ACの土壌(第92~136図)

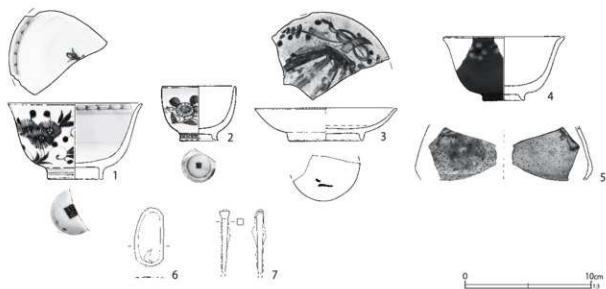
区画ACは第32号溝跡より南、第3号杭列・第1号溝跡より北に位置し、『絵図』にみえる「明地/清吉」、『営業便覧』にみえる「田口龍太郎」の区画である。『営業便覧』の時期には隣接する

区画ADを含めた一つの区画となっている。

土壌は38基検出された。うち、第32・49・90号土壌は第1号溝跡と重複し、第78号土壌aは第32号溝跡と重複する。

土壌は調査区中央より西側に密集し、激しい重複がみられる。おおむね長方形を呈する土壌が多く、土壌の長軸方向は日光道中と平行する傾向にある。

第26表に、位置・規模等の基本的な情報を示した。



第93図 第64号土壌出土遺物

第27表 第64号土壌出土遺物観察表(第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.5)	6.0	4.2	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
2	磁器	碗	(5.8)	4.3	2.8	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
3	磁器	皿	(11.1)	2.6	(5.8)	—	20	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面色絵(赤・緑・黒) 見込み蛇ノ目軸割 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 被熱	
4	陶器	碗	(9.4)	5.0	3.1	I	20	良好	灰	瀬戸美濃系 内面白化粧 内外面施釉 外面折枝梅花文	
5	陶器	土瓶	—	[3.9]	—	K	5	良好	灰	大塚相馬系 胎土砂鉄含む 外面灰釉・鉄絵(走馬) 外面上位凹ます	
6	銅製品	不明	縦4.6 横2.3 厚さ0.05 重さ2.6								
7	鉄製品	釘	長さ[5.1] 幅0.5 厚さ0.5 重さ3.7								

本区画で抽出した土壌は第64・89・101・320・322号土壌で、先行して第92図に遺構図、第93～103図に遺物図を示した。また、非抽出となった土壌は第104～106図に遺構図、第107～136図に遺物図を示した。

非抽出の土壌については、特徴的な土壌・遺物について記述していく。

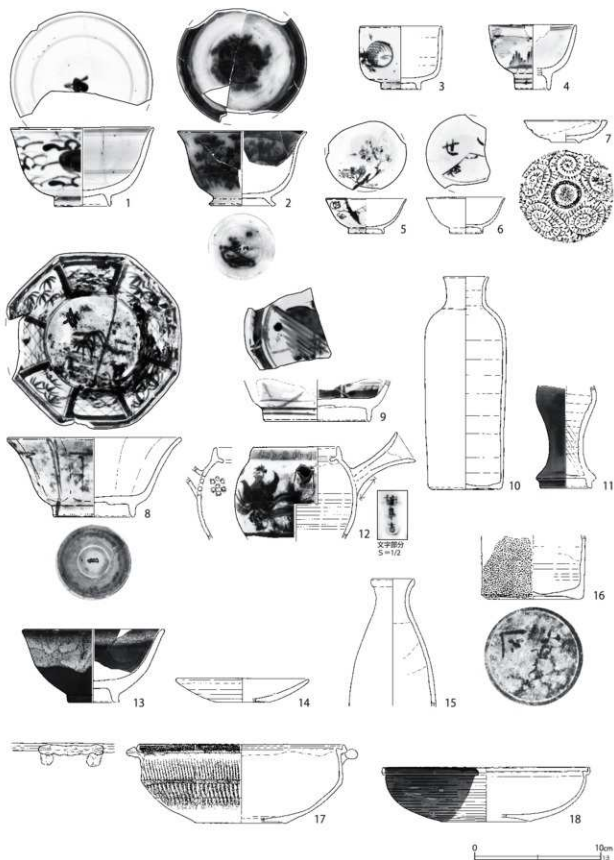
第64号土壌(第92・93図)

F7-C7グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸1.4m、短軸1.1m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-10°-Eを指す。第93図2の瀬戸美濃系磁器小碗が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は19世紀中葉である。

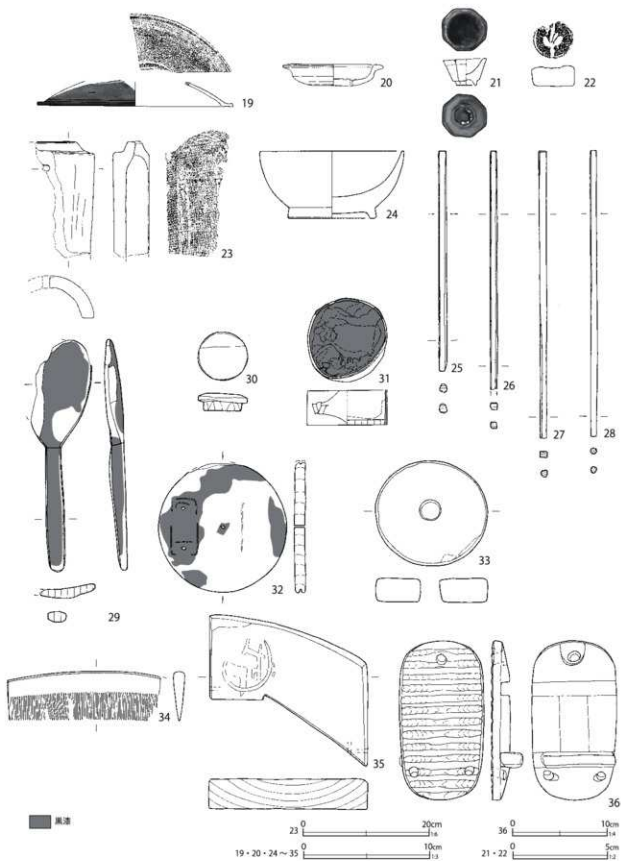
第93図に出土遺物を図示した。1は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。丁寧な染付で、口縁は

強く反る。2は瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗である。外面は線が細い丁寧な染付で、高台皿付には卵殻手環と同様の段が付く。3は瀬戸美濃系磁器の手塩皿である。内面は赤・緑・黒の色絵で、見込み蛇ノ目軸割がみられる。被熱しており、焼継痕と焼継印がみられる。

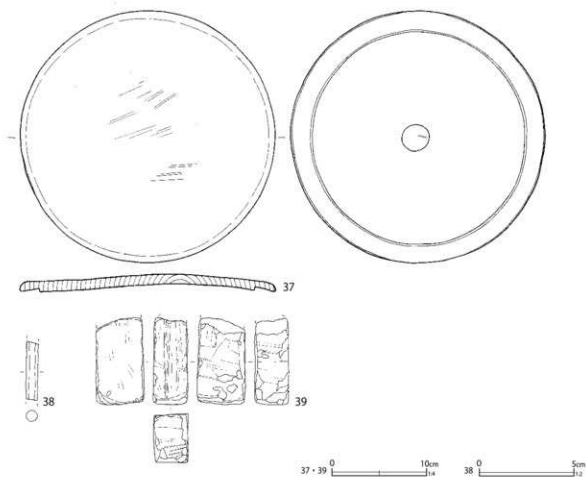
4は瀬戸美濃系陶器の端反形碗である。内面に白化粧、外面には白土と鉄で折枝梅花文が絵付けられている。栗桶宿での出土は少ない。5は大塚相馬系陶器の土瓶である。ソロバン形を呈し、外面上位に凹凸がみられる。胎土に粒径の大きい黒色粒子が多量に含まれ、表面にまだら模様浮かぶ。外面に大塚相馬系陶器に特徴的な走馬文の鉄絵がみられる。6は極薄の板状銅製品、7は鉄製の頭巻釘である。



第94图 第89号土壙出土遗物(1)



第95圖 第89号土壙出土遺物(2)



第96図 第89号土壇出土遺物(3)

第89号土壇(第92・94～96図)

F7-C6グリッドに位置する。第241号土壇と重複する。平面形は不整隅丸長方形で、長軸2.3m、短軸1.2m、深さ0.55mを測る。長軸方位はN-18°-Wを指す。

覆土は下層の粘質土主体で、第1層の砂質土に挟まれるように多量の木片がみられる。木片は第5層でも多量に出土している。出土している陶磁器は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏や湯呑形小碗を主体としており、陶器等を含め近代的な様相はみられない。型紙髹絵染付皿1点は混入と考えられる。推定廃絶期は19世紀後葉、具体的には1860～1870年代と考えられる。

第94～96図に出土遺物を図示した。第94図1は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。口縁部の

反りは弱く、高台内はやや深く削り込む。

2はオランダのマーストリヒトにあるベトルス・レグー社で生産された軟質磁器碗である。内外面に銅版転写染付をするプリントウェアであり、酸化コバルトを意図的に軸に流出させ、滲ませるフロウ・ブルー(滲み手)がみられる。内面には極小窯道具痕(スパー痕)が2箇所遺存している。また、高台が「ハ」字にひらくヨーロッパでは一般的な器形である。

滲みが強く転写パターンが不明瞭であるが、高台内の銘鑑から「チャイナ(1)」パターンとわかる。所謂シノワズリーなパターンで、19世紀のヨーロッパで流行した文様である。

ベトルス・レグー社で生産された400種に上るプリントウェアパターンと使用期間はオランダ

第28表 第89号土城出土遺物観察表(第94～96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	磁器	碗	11.2	6.2	(4.3)	—	60	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付		
2	軟質磁器	碗	10.0	5.9	4.9	—	50	普通	白	マーストリヒト産 ベトルス・レグー製 内外面施軸・銅版転写染付・フクロブルー 内面紫黒具痕2遺存 高台内刻印「R/2」裏銘「PR/PRIZE/1851/CHINA/12」	67-10 74-6	
3	磁器	碗	6.4	5.0	2.9	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付		
4	磁器	碗	(6.8)	5.1	(2.6)	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(弱)		
5	磁器	坏	(6.3)	2.8	2.8	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・上絵付(赤・黒・緑)		
6	磁器	坏	(6.1)	2.9	2.5	—	35	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面上絵付(青)「[い]七」[栗[]]	74-5	
7	磁器	紅皿	6.6	1.8	2.2	—	100	良好	灰白	肥前系 型成形 内外面施軸		
8	磁器	鉢	13.5	6.3	6.2	—	95	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内釘書き「一」内面釘書き「キ」		
9	磁器	鉢	—	[3.3]	(8.2)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 底部輪状に砂付着 焼継痕あり 内面釘書き「井」	74-8	
10	磁器	燗徳利	3.4	16.8	5.3	—	90	普通	白	瀬戸美濃系 外面施軸 頸部隆起線1条		
11	磁器	徳利	—	[8.1]	4.0	—	50	良好	白	肥前系 外面埋瑠璃		
12	磁器	急須	6.7	[8.5]	—	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 体部下位煤付着		
13	陶器	碗	11.0	5.8	3.7	I	70	良好	褐灰	内外面施軸・上位うろの輪流し掛け 内面ビン痕3煤付重痕		
14	陶器	灯明皿	10.4	1.9	4.2	K	50	普通	灰白	京都信楽系 内面施軸・ビン痕2遺存 外面上位タール状物質付着		
15	陶器	燗徳利	3.3	[10.0]	—	K	70	良好	灰白	外面青綠軸		
16	陶器	燗徳利	—	[5.1]	7.2	IK	10	良好	灰	外面絞肌軸 内面鉄軸 底部墨書「念」「小鳥屋」カ	74-7	
17	陶器	鍋	16.2	6.2	7.0	K	40	普通	灰白	外面上位トビガナ状施文 内面柿輪 把手手捻り 露体部煤付着		
18	陶器	鍋	(16.3)	4.3	(7.0)	IK	15	良好	黄灰	外面白軸ビラ掛け状 内面鉄軸 19の身		
19	陶器	蓋	—	[1.9]	15.6	IK	10	良好	灰白	上面白軸ビラ掛け状 内面鉄軸 18の蓋		
20	陶器	蓋	(6.6)	[1.7]	(3.8)	I	25	良好	灰赤	備前系 底部糸切痕 胎土拓磨質 上面胎土		
21	土製品	ミニチュア	2.3	1.4	1.1	AI	—	良好	明赤褐	江戸在地系 八角鉢 型成形 内面緑軸 外面上位施軸 弱く被熱 重さ3.8g	117-18	
22	土製品	泥面子	径2.3 厚さ1.1 重さ6.4			AHK	—	良好	橙	江戸在地系 一枚型成形 中実 摩耗 雲母付着	122-11	
23	瓦	丸瓦	長さ18.4 幅[9.9] 厚さ2.1 高さ[5.3]			AHK	—	普通	灰白	雲母付着 爐寸 穿孔1遺存		
24	木製品	漆碗	口径/径11.2 高さ5.3 底径6.8								横木取り 内面赤漆 外面黒漆	128-6
25	木製品	箸	長さ17.5 幅0.7 厚さ0.7								削出	
26	木製品	箸	長さ[18.9] 幅0.6 厚さ0.5								削出	
27	木製品	箸	長さ22.7 幅0.6 厚さ0.5								削出	
28	木製品	箸	長さ22.6 幅0.5 厚さ0.5								削出	
29	木製品	杓子	長さ18.3 幅[4.3] 厚さ0.8								榎目 全面黒漆	128-7
30	木製品	栓	径3.8 高さ1.4								板目	
31	木製品	曲物	口径6.4 高さ2.7								底板榎目 内面黒色付着 歪み有	128-8
32	木製品	燈灯	口径10.2 厚さ0.9								板目 底板 金具の痕跡 金具も出土するが接合せず 黒色物付着	
33	木製品	不明品	口径/径8.8 厚さ1.9								板目 中央に1.5cmの孔	
34	木製品	棚	長さ[12.1] 幅3.9 厚さ0.9								板目	
35	木製品	桶底板加工品	長さ11.9 幅12.6 厚さ2.4								板目 表面に文字か記号 側面に木釘3	
36	木製品	下駄	長さ16.8 幅9.0 高さ3.3								板目 陰印下駄 表面年輪が文様状に表れる	
37	木製品	曲物	口径/径26.9 厚さ1.1								板目 蓋 表面に傷 裏面焼印 歪み有	
38	石製品	石筆	長さ[3.1] 幅0.6 厚さ0.6 重さ1.6								滑石(白)	
39	石製品	砥石	長さ[9.2] 幅3.6 厚さ5.1 重さ328.0								流紋岩 側・裏面幅広工具痕 表面刀物痕 砥面2 被熱(一部黒化・剥落)	139-13

本国で明らかにされており、「チャイナ（1）」は1855～1895年である。

高台内には「R / 2」の刻印とベトルス・レグ一社の社章である王冠にスタッフオードノットの意匠が転写されている。社章の使用期間は1851～1880年である。社章内にはベトルス・レグの「PR」と「PRIZE/1851/CHINA/12」がみえる。「PRIZE」と対になる位置は転写の失敗で消えているが、「MEDAL」の文字が入る。社章右上の「12」や刻印「2」の意味は製造年月日等の可能性が考えられる。

「1851」は第一回ロンドン万博の開催年であり、ベトルス・レグ社はこの時にイギリスから最新式の印刷機器を導入し、自社製品の質を向上させるとともに、日本市場への本格参入を始めている。さらに、幕末開港期にあたる1859年にレグ社の商船を3隻日本へ送り込んでいる（長久2011）。したがって、本製品は1859年以降に日本国内へもたらされたものと考えられる。

3は肥前系磁器の湯呑形小碗である。高台は幅広くである。4は瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗で、高台が高い。弱く被熱する。

5・6は肥前系磁器の卵殻手坏である。5の内外面に赤・黒・緑で梅花文状の上絵付を施し、6は江戸絵付けで「[い]せ / 栗 []」と書かれる。いずれも高台に段が付かない輪高台である。7は肥前系磁器の紅皿である。型成形で、陽刻蛸唐草文が施文される。施文は口縁端部にまで及ぶ。体部下半と底部は露胎である。

8・9は肥前系磁器の八角鉢である。いずれも蛇ノ目凹形高台である。8は内面に笹文の染付がみられる。焼継痕が残るが、焼継印はみられない。見込みと高台内に釘書き「キ」、「一」がみられる。9は底部に輪状に砂が付着する。焼継痕が残るが、焼継印はみられない。見込みに釘書き「井」がみえる。「井」の文字は栗橋宿では類例が少なく、第1地点第10号土壌出土漆碗蓋、第3

地点第248号土壌出土の漆碗にみられる（埤埋文2018）。

10は瀬戸美濃系磁器の燭徳利である。無文で、頸部に線縁が1条巡廻る。同様の特徴は坏にも例があり、幕末期から明治時代初頭頃に多い。11は肥前系磁器の瓶子形御神酒徳利である。外面に瑠璃釉が施軸される。12は瀬戸美濃系磁器の急須である。把手下面に「梅口造」の染付銘がみられる。体部下位に煤が付着する。

13は産地不詳陶器の碗である。内外面に鉄釉を施軸し、上位にうのふ軸を流し掛けている。胎土は極めて硬質・厚手で、口縁部は弱く反る。内面に窯道具痕が3箇所、高台畳付に重ね焼き痕がみられる。14は京都信楽系陶器の灯明皿である。内面に窯道具痕が2箇所遺存し、外面上位にタール状の付着物がみられる。

15・16は産地不詳陶器の燭徳利で、15は外面に青土瓶と同様の青緑釉を施軸する。16は外面鮫肌釉、内面に鉄釉を施軸する。底部に墨書「余」がみえ、その横に「小島屋」と推定される墨書がみえる。類似する墨書資料が第1地点第25号土壌（第61図 315、埤埋文2018）で出土しており、「小口屋」と判読できる。

17は産地不詳陶器の両手鍋である。把手は手捻りで貼り付けである。内面は柿釉で、外面は複刃状トビガンナが施文される。露胎部には使用痕と考えられる煤が付着する。

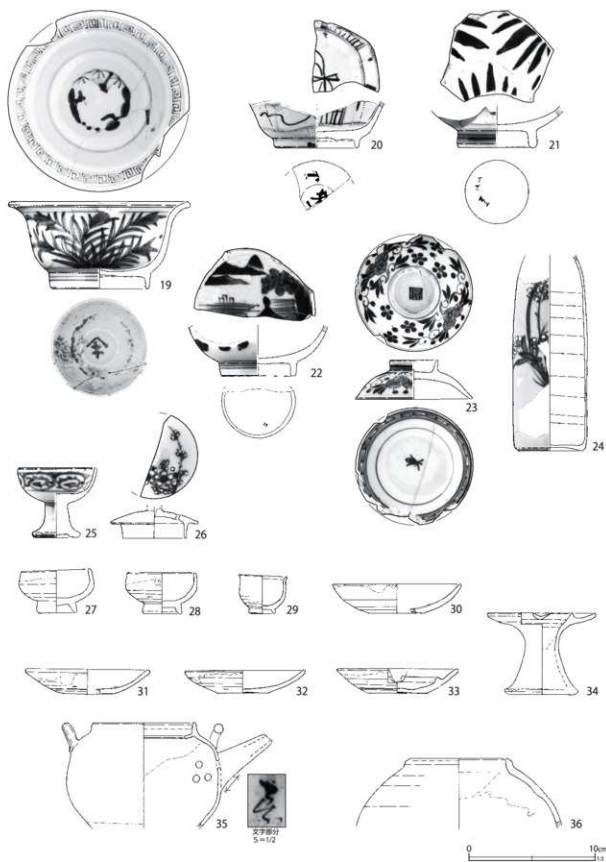
18・19は産地不詳陶器の鍋とその蓋である。同様の施文方法・調整からセットになるものと考えられる。18はいずれも内面全面に鉄釉、外面に白釉がピラ掛け状に施軸される。外面は大部分が露胎である。

20は備前系陶器の落し蓋である。胎土は炆器質で、底部に回転糸切痕が遺存する。上面に塗土状光沢がみられる。

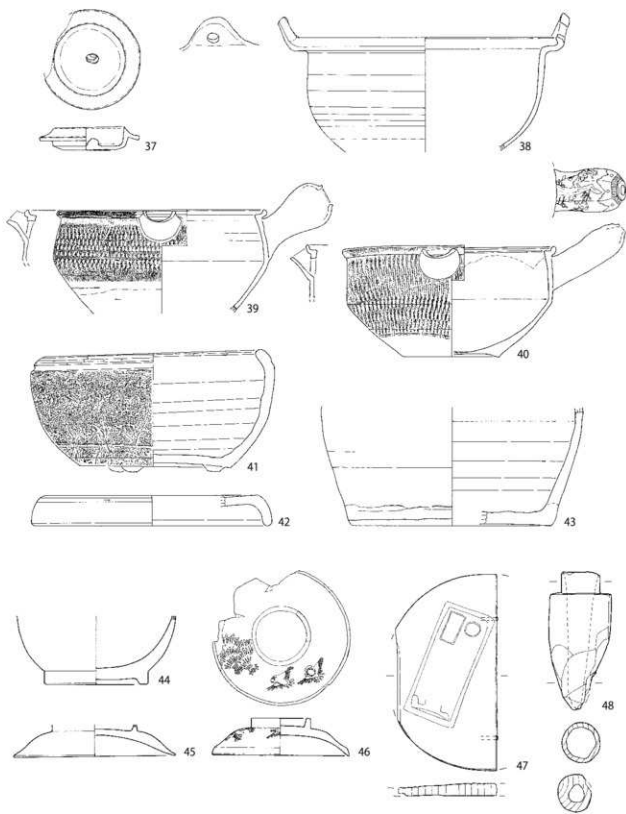
21・22は土製品で、21は江戸在地系のミニチュアである。型成形の八角鉢で、内面に緑釉が施



第 97 图 第 101 号土壙出土遗物 (1)

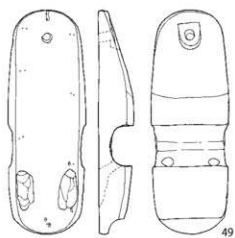


第98图 第101号土坑出土文物(2)

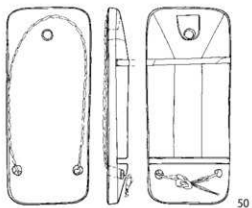


42・43 0 10mm 1/4 37~41・44~48 0 10mm 1/2

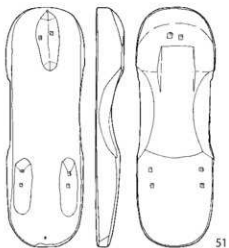
第99图 第101号土壙出土遗物(3)



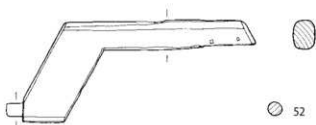
49



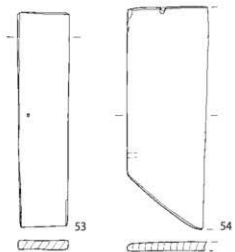
50



51

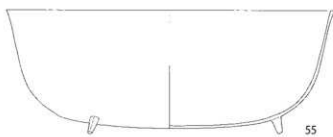


52



53

54



55



56

0 10cm
49-52 14

0 10cm
53-55 13

0 5cm
56 23

第100图 第101号土坑出土遗物(4)

第29表 第101号土質出土遺物観察表(第97~100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	10.6	5.6	(3.4)	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤・黒) 内面被熱	
2	磁器	碗	9.7	5.1	4.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
3	磁器	碗	(9.7)	5.2	(4.0)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼継痕あり	
4	磁器	碗	10.4	5.7	3.9	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
5	磁器	碗	10.5	6.1	3.6	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 内面上位陰刻文	
6	磁器	碗	(9.5)	5.1	(4.0)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・陰刻文・染付	
7	磁器	碗	(8.5)	4.6	3.1	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付 口紅	
8	磁器	碗	8.2	4.2	3.1	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 高台内露胎	
9	磁器	碗	(7.3)	6.0	(3.3)	K	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
10	磁器	碗	(7.3)	5.6	3.7	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 外面陰刻文	
11	磁器	碗	6.4	4.9	3.7	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
12	磁器	碗	(6.6)	5.0	(3.8)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
13	磁器	碗	7.2	5.2	3.2	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
14	磁器	坏	6.5	3.3	2.6	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 外面下位トビガンナ状施文	
15	磁器	坏	(6.4)	3.4	3.5	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上染付(青)	
16	磁器	坏	5.8	2.7	2.3	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上染付(青・金)	
17	磁器	皿	10.0	2.7	5.4	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅	
18	磁器	皿	(14.2)	5.0	8.5	—	75	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 底部煤付着	
19	磁器	鉢	13.9	6.9	7.6	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 高台内輪状重燒痕・釘書「全」	74-14
20	磁器	鉢	—	[3.7]	(6.4)	—	10	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	74-15
21	磁器	鉢	—	[3.3]	5.9	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼継印(赤)	
22	磁器	鉢	—	[4.0]	5.8	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
23	磁器	蓋	3.7	3.1	9.1	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
24	磁器	燗徳利	—	[15.4]	5.0	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付・白蓋	
25	磁器	仏飯器	6.0	5.6	3.2	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
26	磁器	蓋	—	[2.4]	(4.9)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 上・下面施軸 上面染付・白蓋	
27	陶器	坏	5.3	3.5	3.0	IK	100	普通	灰黄褐色	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
28	陶器	坏	5.2	3.2	2.9	EIK	95	良好	灰	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
29	陶器	坏	3.9	3.1	2.2	K	95	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸	
30	陶器	灯明皿	(10.0)	2.3	(4.2)	IK	20	良好	浅黄褐色	京都信楽系 内外面施軸 内面ピン板1遺存 外面上位煤付着	
31	陶器	灯明皿	(9.6)	[2.0]	(4.2)	IK	40	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位・底部軸抜き取り 体部輪状重燒痕	
32	陶器	灯明皿	9.3	1.8	4.0	IKL	100	良好	褐灰	内外面施軸 外面煤付着	
33	陶器	灯明皿	9.3	2.0	4.6	IK	90	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位・底部軸抜き取り 体部輪状重燒痕	
34	陶器	灯火具	4.5	6.4	5.0	IK	85	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸	
35	陶器	土瓶	7.9	[8.4]	—	K	70	良好	灰白	内外面施軸 外面白化粧 註口部下面向須文字	
36	陶器	土瓶	(7.1)	[5.5]	—	EIK	5	普通	にぶい・黄褐色	松原系 外面露胎	
37	陶器	蓋	—	1.8	4.1	K	85	良好	浅黄褐色	京都信楽系 上面施軸	
38	陶器	鍋	20.9	[9.0]	—	IK	60	普通	灰黄	内外面施軸 被熱 外面煤付着	
39	陶器	行平鍋	16.2	[10.2]	—	IK	80	普通	灰白	外面トビガンナ施文 内外面施軸 体部下位重燒痕・煤付着	
40	陶器	行平鍋	16.7	10.4	7.5	IK	85	良好	灰白	把手上下合二枚型成形 外面トビガンナ施文 内外面施軸 口縁部内面に列点状の重燒痕 裏体部煤付着	
41	瓦質土器	火鉢	16.9	9.6	11.8	EHK	70	普通	灰白	底部ヘラナデ 体部下位ケズリ 口縁部ミガキ 外面施文後ナグ消し 焼す	
42	瓦質土器	蓋	—	[3.2]	(24.6)	PHK	20	普通	にぶい・褐色	上面シワ状痕 体部上位ケズリ 焼す	
43	瓦質土器	火消蓋	—	[12.5]	(21.0)	CHK	35	普通	黄灰	砂目底 外面下端部ケズリ 焼す	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
44	木製品	漆碗	高さ [5.4]	底径 8.0						横木取り 内面赤漆 外面黒漆	
45	木製品	漆碗蓋	口径 12.6	高さ [2.5]						横木取り 内面赤漆 外面緑漆	
46	木製品	漆碗蓋	口径 10.8	高さ 3.0	つまみ径 (4.7)					横木取り 内面赤漆 外面赤漆 黒と金で文様	128-11
47	木製品	曲物	径 15.5	厚さ 1.0						板目 底板焼印「□」	
48	木製品	呑口	径 5.0	長さ 10.9	孔径 2.4					板目	
49	木製品	下駄	長さ 23.7	幅 7.2	高さ 3.8					板目 割り下駄 表面外周釘穴	
50	木製品	下駄	長さ 20.8	幅 8.9	高さ [2.3]					板目 陰印下駄	
51	木製品	下駄	長さ 25.4	幅 7.3	高さ 2.9					板目 無眼下駄	
52	木製品	不明品	長さ 10.7	幅 26.4	厚さ 2.3					板目	
53	木製品	木札	長さ 16.9	幅 4.1	厚さ 0.7					板目 表面墨書 孔 1	144-15
54	木製品	木札	長さ 17.5	幅 [6.4]	厚さ 0.7					板目 表面墨書 上部に孔 木釘 1	144-16
55	鉄製品	鍋	口径 26.0	器高 9.8	厚さ 0.3	重さ 330.9				三脚	
56	銅製品	銭貨	径 26.7	厚さ 1.1	重さ 3.2					文久永寶	

軸される。弱く被熱する。22は江戸在地系の泥面子である。型成形で、離剤の役割を果たす雲母が付着する。表面は摩耗しており、意匠は不明である。

23は釘穴と考えられる穿孔がある丸瓦である。江戸在地系の地瓦(丸・平・棧瓦)には江戸時代段階には釘穴がなく、江戸遺跡において軒瓦を除く丸瓦や棧瓦で釘穴を持つものは近代の所産とされる。しかし、地域によっては江戸時代から地瓦に釘穴を穿つものもあると指摘されている(金子2018)。23が軒丸瓦の可能性があるとともに、以上については留意しておきたい。

24～37は木製品である。24は漆碗で、内面赤漆塗り、外面黒漆塗りである。29は杓子で、全面黒漆塗りである。31は曲物である。側板が大きく歪んでいる。内面には、硬化した黒色の紙が付着している。漆により固まったものと考えられる。32は提灯底部の底板と考えられる。金具の痕跡が残る。側面には浅い溝が掘られている。34は櫛である。背の部分が直線的で、角に丸みがない。35は桶底板の転用品と考えられる。黒漆で、屋号の痕跡が残る。36は陰印下駄である。台の表面に横方向の浅い溝が掘られ、年輪が文様のように表れている。前壺裏面には挟りが作られる。37は曲物の蓋である。裏面に焼印が押されている。

38・39は石製品で、38は両端が欠失する白色の滑石製石筆である。39は白色の流紋岩製砥石で、2面の砥面があり、うち1面に溝状の使用痕がみられる。側面、裏面には刃幅の広い工具痕がみられる。被熱しており一部が黒色化、剥落している。

第101号土壌(第92・97～100図)

F7-C7グリッドに位置する。第34・48号土壌より古い。平面形は隅丸長方形で、長軸3.7m、短軸1.25m、深さ0.75mを測る。長軸方位はN-16°-Wを指す。

上層、下層は砂質土とシルト質土で構成されているが、中層は粘土質で、粘性が極めて強い。木片等の有機物が多量に含まれている。

出土陶磁器は19世紀中葉の製品が主体で、酸化コバルト染付篆書体文「木」の端反形碗(第97図7)と非掲載の酸化コバルト染付端反形環が最新である。1863年初鋳の文久永寶(第100図56)が出土している。また、自然遺物はモモの種子が1点出土している。酸化コバルト染付磁器が極めて少ないため、推定廃絶期は19世紀後葉、具体的には1870年代である。

第97～101図に出土遺物を図示した。第97図1は瀬戸美濃系磁器の色絵丸碗である。赤色の色絵で、細線で丁寧に描く。色絵は一部黒色化し、内面は一部被熱している。高台内の削り込みは深

い。2・3は瀬戸美濃系磁器の染付丸碗である。3の内底面にみえる染付文字は「成化年制」と推定される。3には焼継痕がみられる。2は厚手、3は薄手で高台内は深く削り込まれる。

4～8は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。4は口縁部の反りが極めて弱い。5は内面上位に陰刻文染付を施し、口縁部の反りが極めて弱く、厚手である。6は内外面に陰刻文染付を施し、口縁部は弱く反る。7は酸化コバルト染付で外面に篆書体「木」の文様を絵付けている。口縁部は弱く反る。最新期の陶磁器である。8は無文で高台内は露胎である。

9・10は瀬戸美濃系、11・12は肥前系磁器の湯呑形碗である。10は外面に陰刻文染付がみられ、高台畳付は幅広である。11は細線文の染付で小法量である。12は体部に鎬を施し、高台畳付は幅広である。13は瀬戸美濃系磁器の小碗である。

14～16は瀬戸美濃系磁器の坏である。14は端反形坏で、体部下位にトビガンナ状施文がみられる。高台畳付は幅広である。15・16は卵殻手坏で、高台畳付に段が付く。外面に染付、内面に江戸絵付けを施す。

17・18は肥前系磁器の内面一枚絵の皿である。18は高い高台の蛇ノ目凹形高台である。

第98図19は瀬戸美濃系磁器の染付鉢である。内底面に松竹梅環状文が絵付けられる。蛇ノ目凹形高台で、高台内に輪状の重ね焼き痕と屋号「傘」の釘書きがみられる。既報告である栗橋宿本陣跡区画Aの『絵図』にみえる「伊勢屋/質や/年寄/長次郎」（埤理文2019a）、第3地点区画Pの『営業便覧』にみえる「足袋小賣商/堀越茂吉」（埤理文2018）で使用されている屋号である。

20～22は肥前系磁器の鉢で、20は蛇ノ目凹形高台の八角鉢である。いずれも朱書きで高台内に焼継印がみえ、20・22には焼継痕もみられる。

23は瀬戸美濃系磁器の蓋である。端反形碗の

蓋で、丁寧な染付である。

27・28は瀬戸美濃系陶器の坏である。外面上位から内面にかけて灰釉が施軸されている。器高が低く、体部が屈曲するように外側へ張り出す特徴があり、19世紀後半にみられる器形である。

29は京都信楽系陶器の坏である。口縁は反り、極小サイズである。

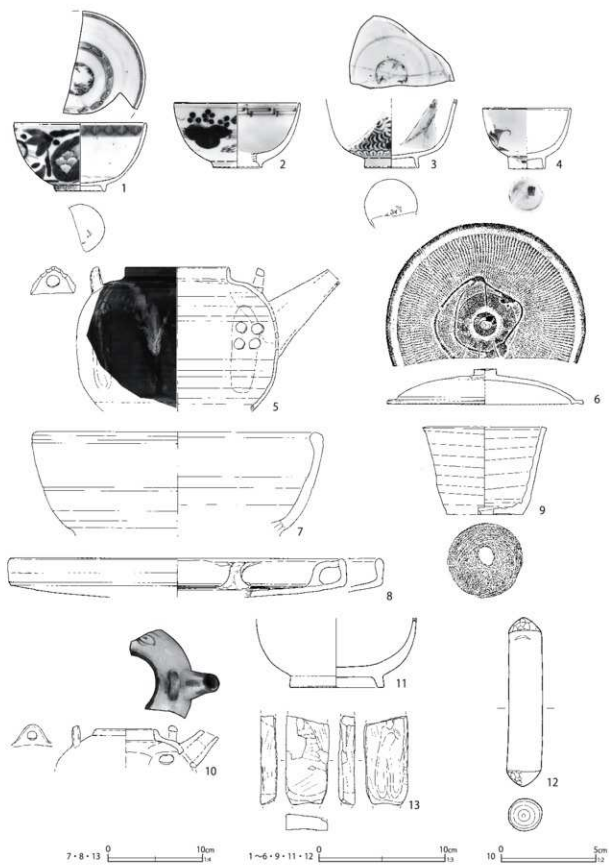
30～33は陶器の灯明皿である。30は京都信楽系で口縁端部から内面にかけて施軸され、外面の大部分は露胎である。内面に窯道具痕が1箇所遺存している。外面上位には煤が付着する。31は瀬戸美濃系で内外面に柿釉が施軸される。外面下位から底部にかけて釉の拭き取り痕がみられ、体部下位に輪状の直重ね焼き痕がみられる。32は地方窯系で、外面上位から内面に柿釉を施軸する。胎土はにぶい赤褐色で硬質である。33は瀬戸美濃系の所謂油受皿で、内外面に柿釉を施軸する。体部下位から底部にかけて釉の拭き取り痕跡がみられる。また、内面受部の切込みは「U」字状を呈し、体部に輪状の直重ね焼き痕が遺存する。

35は産地不詳陶器の白土染付土瓶である。鉄砲口状注口部の下部には染付文字「道八」がみえる。把手は環状である。36は松岡系陶器の土瓶である。外面は海鼠釉が施軸され、黒色粒子が多量に含まれる粗粒な胎土である。

第99図37は京都信楽系陶器の落し蓋である。上面は施軸され、上端部は露胎である。筒形水注の蓋の可能性が考えられる。

38～40は産地不詳陶器の鍋である。38は土瓶などにみられる型成形把手が付き、柿釉が施軸される。被熱しており外面に煤が付着する。39・40は柿釉トビガンナ施文の行平鍋である。39は蛸状把手で、40は二枚型成形で上下に合わせて成形している。

41は瓦質土器の火鉢である。口縁部にミガキ調整をいれる硬質瓦質で、体部下位にケズリ調整がみられる。体部はスタンプ文を施文した後、ナ



第101图 第320号土坑出土遗物

第30表 第320号土壙出土遺物観察表(第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.4)	5.4	(3.8)	K	20	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内使継印(赤)	
2	磁器	碗	(9.9)	5.2	(3.8)	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
3	磁器	碗	—	[5.5]	4.2	—	20	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内使継印(赤)	
4	磁器	碗	(6.8)	4.8	(2.8)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
5	陶器	土瓶	(8.0)	[11.5]	—	IK	20	普通	黄灰	内面上位・外面鉄軸 内面下位施軸	
6	陶器	蓋	—	2.8	15.4	EIK	70	良好	浅黄燈	外面トビガンナ施文 渦巻状のツマミ 内面臙脂色軸 上面白軸流し掛け	
7	瓦質土器	火鉢	(29.2)	[11.1]	—	CHK	40	普通	灰白	やや酸化腐蝕成 破損後被熱(黒化) 口縁部煤付着 SK319と接合	
8	土師質土器	焙烙	(35.0)	[4.1]	(35.4)	CEGHIK	15	普通	にぶい燈	砂目底 内底面円周状のナゲ	
9	瓦質土器	槌木鉢	9.1	6.9	6.1	IK	85	普通	灰	底部糸切痕(左) 煤す	
10	陶器	ミニチュア	(3.0)	[2.1]	—	I	10	良好	黄灰	土瓶 型成形 外面白土染付 重さ108g	
11	木製品	漆碗	高さ[5.3]	底径7.2						横木取り 内側赤漆 外側黒漆	
12	木製品	すりこぎ	長さ13.3	径2.6						芯持材	
13	石製品	砥石	長さ[9.5]	幅4.6	厚さ1.7	重さ123.6				流紋岩 表面幅広い工具痕 裏面溝状使用痕 砥面4遺存	

で消している。

42は瓦質土器の火消壺蓋である。上面は無調整のシワ状痕が残る。43は瓦質土器の火消壺である。底部は無調整で砂目が残る。

44～54は木製品である。44は漆碗である。内面赤漆塗り、外面黒漆塗り、やや大振りでである。45は漆碗蓋で内面赤漆塗り、外面は緑色漆塗りである。46は漆碗蓋である。内外面赤漆塗りである。稲束と雀が金で描かれる。肩は丸みがあり、口縁近くに稜が作られる。47は曲物の底板である。側面に木釘が残り、二枚以上をつないで底板にしていたと考えられる。48は呑口と考えられる。栗橋宿跡のこれまでの報告では、段のある呑口は無く、特殊である。上部に段が作られ、下部は削られて細くなっている。中央の穴は上部の径が大きく、下部は小さくなっている。49は削り下駄である。表面外周に釘固定痕跡が残る。表面後穴の周辺が大きく削られている。後歯から踵にかけて削りこまれる。50は陰卯下駄である。台の平面形は長方形である。51は無眼下駄である。前壺、後穴の位置に、鼻緒を留めた穴が作られている。木釘が残存する。53は木札である。54は木札で、曲物の蓋の転用と考えられる。

55は三脚の鉄製鍋である。

第320号土壙(第92・101図)

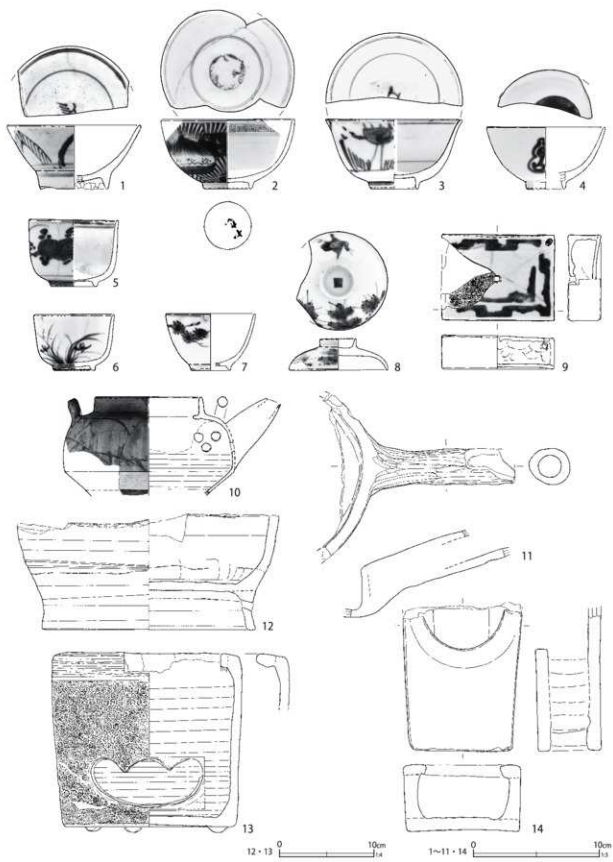
F7-C6グリッドに位置し、第319号土壙と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.5m、短軸0.85m、深さ0.4mを測る。長軸方位はN-14°-Wを指す。

粘土質な土が主体で、全体的に木質が多く含まれる。中層に砂、その上には木質層が堆積する。最上層には炭化物が含まれる。

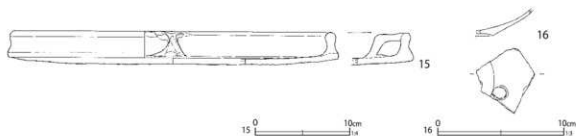
出土遺物は近代遺物が一切含まれず、瀬戸美濃系磁器の小碗(第101図4)が最新期の陶磁器である。また、第319・322号土壙出土陶磁器と接合関係にある。推定廃絶期は19世紀中葉である。第101図に出土遺物を図示した。

1は肥前系、2は瀬戸美濃系磁器の染付丸碗である。1は薄手で、焼継痕がみられ、高台内に朱書きで焼継印が認められる。3は肥前系磁器の端反形碗である。焼継痕がみられ、高台内に焼継印が認められる。4は瀬戸美濃系磁器の小碗で、最新期の陶磁器である。

5は産地不詳陶器の鉄軸土瓶である。把手は型成形で、体部を囲ます。6は産地不詳陶器の鍋蓋である。トビガンナ施文で、渦巻状のつまみが付く。内面は臙脂色の軸が施軸され、外面に白軸が流し掛けられている。



第102图 第322号土坑出土文物(1)



第103図 第322号土壌出土遺物(2)

第31表 第322号土壌出土遺物観察表(第102・103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.5)	5.1	(5.2)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 高台敲打痕 被熱	
2	磁器	碗	10.4	5.5	3.7	—	60	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼 継印(赤)	
3	磁器	碗	10.7	5.5	3.6	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
4	磁器	碗	(9.3)	4.9	(2.8)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面陰刻文	
5	磁器	碗	6.9	5.3	3.5	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
6	磁器	碗	6.2	4.4	3.2	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 SK320と接合	
7	磁器	碗	(7.0)	4.5	(3.0)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
8	磁器	蓋	2.8	2.5	7.7	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
9	磁器	水漬	長辺8.9 高さ2.7	短辺6.8 穿孔径0.4	—	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 下面内外市目痕 外面施釉(側 面一面露胎) 上面陽刻文・染付 煤付着	
10	陶器	土瓶	8.3	[7.8]	—	K	50	普通	灰白	外面施釉・白土染付 被熱・外面下位煤付着	
11	瓦質土器	十徳	長さ[13.2] 高さ[7.0]	幅[12.5]	—	ACIK	45	普通	灰黄	下面シワ状痕 把手ミガキ・中空 糠す	
12	瓦質土器	火鉢	—	[12.2]	22.6	CHK	80	普通	にぶい 橙・灰白	砂目底 やや酸化焙焼成 口縁部敲打痕・摩耗	
13	瓦質土器	煤炉	16.1	18.9	17.7	CHK	95	普通	橙	底部板状圧痕 外面上端・口縁部ミガキ 体部龜甲 文スタンプ施文をナデ消し	70-12
14	瓦質土器	風口	縦[11.5] 高さ5.3	横9.3	—	CHK	50	普通	浅黄橙	下面砂目 板作り成形 はげ酸化焙焼成	
15	土師質土器	焙烙	(33.4)	[3.4]	(34.8)	ACIK	30	普通	にぶい黄橙	底部シワ状痕・煤付着	
16	陶器	土瓶	—	[2.1]	—	I	5	良好	橙	吉見焼 胎土土質劣 細粒輝石含む 外面・底部漆 黒染軸 脚欠失	

7は瓦質土器の火鉢である。輪高台状の高い脚が付く火鉢であり、やや酸化焙焼成で橙色気味である。被熱により破断面は黒色化している。口縁部に使用による煤が付着する。第319号土壌と接合する。8は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整の砂目底で、丸みは弱く、扁平である。内底面に円周状のナデがみられる。7・8は角閃石を多く含み、在地産と推定される。

9は瓦質土器の植木鉢である。底部は左回転の糸切痕が遺存する。底部の穿孔は中心からややずれる。

10は産地不詳陶器で、白土染付土瓶のミニチュアである。型成形で胎土は硬質である。

13は白色の流紋岩製砥石である。砥面は4面

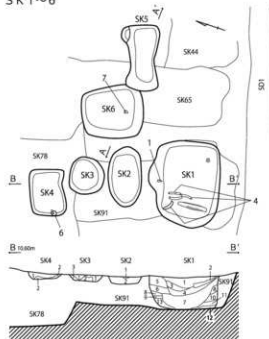
遺存し、表面には刃幅の広い工具痕がみられる。裏面には溝状の使用痕が2条みられる。

第322号土壌(第92・102・103図)

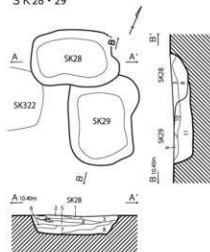
F7-C6グリッドに位置し、第28・321号土壌と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸1.4m、短軸1.05m、深さ0.35mを測る。長軸方位はN-70°-Eを指す。

出土陶磁器は19世紀中葉頃の製品が中心であり、非掲載遺物の瀬戸美濃系磁器の銅版転写染付燻徳利は重複遺構からの混入である。瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗(第102図6)と小碗(同7)が最新期の陶磁器である。第320号土壌と接合関係にあり、同時期の遺構と考えられる。推定廃絶期は19世紀中葉である。第102・103図に出

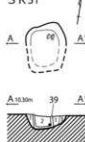
SK 1~6



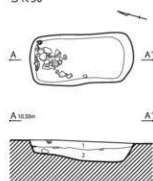
SK 28・29



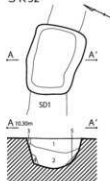
SK 31



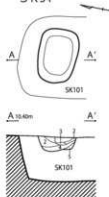
SK 30



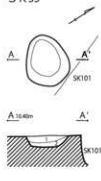
SK 32



SK 34



SK 35



SK 1

- 1 灰褐色土 炭化物粒子・褐色土粒子含む
- 2 灰褐色土 木質片多量
- 3 灰黄褐色土
- 4 黒褐色土
- 5 褐色土塊 (鉄土塊)
- 6 灰褐色土 砂質
- 7 黒褐色土
- 8 黒色土
- 9 灰褐色土 炭化物粒子含む
- 10 灰黄褐色土
- 11 灰褐色土
- 12 灰黄褐色土 粘土質 (下層との間層)
- 13 黒褐色土

SK 2

- 1 褐色土 酸化鉄
- 2 灰褐色土

SK 3

- 1 褐色土 酸化鉄多量
- 2 灰褐色土
- 3 灰褐色土 酸化鉄多量

SK 4

- 1 暗褐色土 酸化鉄多量
- 2 灰褐色土 植物質多量

SK 5 (1~3)・SK 6 (4, 5)

- 1 灰黄褐色土 粘土質
- 2 黒褐色土 粗粒 炭化物・酸化鉄含む
- 3 明灰色土
- 4 暗褐色土 酸化鉄多量
- 5 暗灰色土 酸化鉄極多量 (一部互相)

SK 28 (1~8)・SK 29 (9~11)

- 1 炭化物・酸化鉄主体層
- 2 灰黄褐色土
- 3 暗褐色土 炭化物含む
- 4 灰褐色土 焼土多量
- 5 灰褐色土 粘土質 焼土少量
- 6 灰褐色土
- 7 暗褐色土 木片多量
- 8 灰黄褐色土 砂質 黄褐色土含む
- 9 灰褐色土 粘土質
- 10 灰黄褐色土 粘土質
- 11 灰黄褐色土 粘土質 炭化物含む

SK 30

- 1 灰褐色土 砂質 炭化物多量
- 2 暗褐色土 褐色土・炭化物含む

SK 31

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土 粗粒
- 3 灰黄褐色土 砂質

SK 32

- 1 暗褐色土 砂質
- 2 暗灰色土 粘土質
- 3 灰色土 灰・土層・焼土多量
- 4 黒褐色土 粘土質
- 5 灰褐色土 酸化鉄

SK 34

- 1 黒褐色土 小礫含む
- 2 黒褐色土 粘土質
- 3 黒褐色土 焼土多量
- 4 灰褐色土 シルト質
- 5 黒褐色土

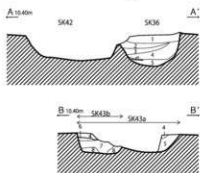
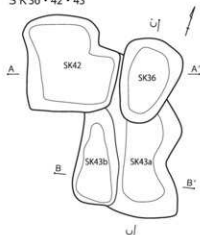
SK 35

- 1 黒褐色土 炭化物・陶磁器、木片多量
- 2 灰褐色土 砂質

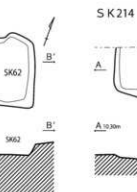
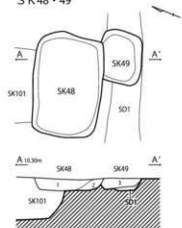


第104図 区画AC土壇(2)

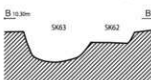
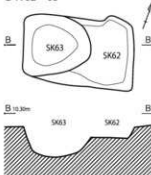
S K 36・42・43



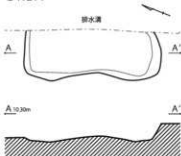
S K 48・49



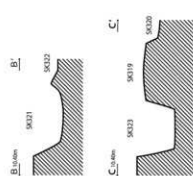
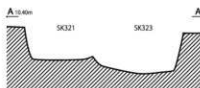
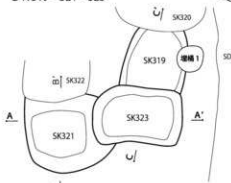
S K 62・63



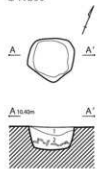
S K 214



S K 319・321・323



S K 260



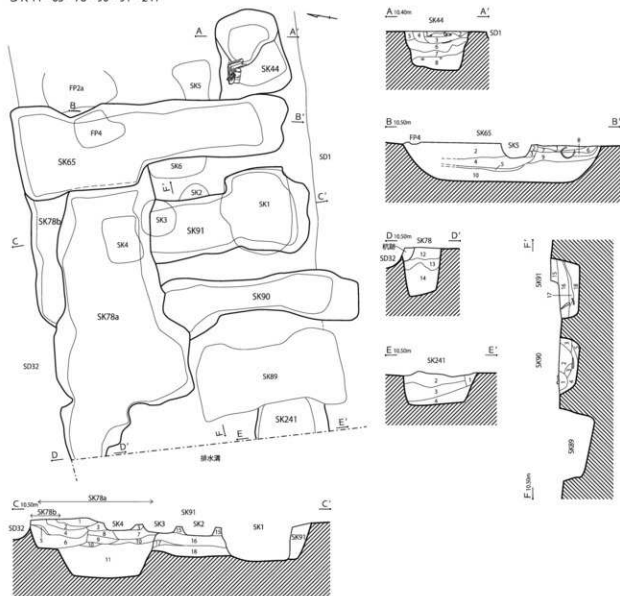
- S K 36
- 1 灰黄褐色土 灰分少量
 - 2 灰褐色土 粘土・木質多量
 - 3 暗灰色土 しまり強
 - 4 暗灰褐色土 砂質
 - 5 暗灰褐色土 粘土質 しまり強
- S K 43a (1～5)・S K 43b (6～8)
- 1 灰黄褐色土 炭化物多量
 - 2 灰褐色土 黄褐色土含む しまり強
 - 3 灰褐色土 黄褐色土含む 炭化物・糖化鉄含む
 - 4 灰黄褐色土 砂質
 - 5 暗黄褐色土 粘土質 炭化物粒子含む
 - 6 灰褐色土 粘土質
 - 7 暗灰色土
 - 8 黒褐色土

- S K 48 (1, 2)・S K 49 (3)
- 1 暗灰色土 木屑少量
 - 2 暗灰色土 炭化物少量
 - 3 暗灰色土 黄褐色土・粘土・炭化物少量

- S K 260
- 1 灰黄褐色土 炭化物粒子含む しまり強
 - 2 暗褐色土 黏結 木屑多量



第105図 区画AC土壇(3)



S K 44

- 1 雑土層
- 2 灰黄褐色土
- 3 暗灰黄褐色土
- 4 灰黄褐色土 砂質 炭化物・木質含む
- 5 灰黄褐色土 褐色土少量
- 6 暗黄褐色土
- 7 暗褐色土 粘土少量
- 8 灰褐色土 粗粒 木片極多量

S K 65

- 1 灰黄褐色土
- 2 灰褐色土 鉄分・炭化物多量
- 3 暗黄褐色土 砂質
- 4 灰褐色土
- 5 炭化物層
- 6 褐色土 木質片多量
- 7 暗灰黄褐色土
- 8 黑褐色土 木質片少量
- 9 暗灰褐色土 木片極多量
- 10 黄褐色土

S K 78 (1 ~ 14)・S K 91 (15 ~ 18)

- 1 褐色土 炭化物・酸化鉄分粒子多量
- 2 黄褐色土 砂質
- 3 灰土 砂質 酸化鉄分多量
- 4 黄土 砂質
- 5 暗灰色土 砂質
- 6 黑褐色土 砂質
- 7 暗灰色土 褐色土少量
- 8 灰黄褐色土 黄褐色土多量
- 9 灰褐色土
- 10 灰黄褐色土 砂質
- 11 黑褐色土 木片極多量
- 12 灰褐色土 褐色土含む
- 13 灰褐色土 褐色土混合土 酸化鉄多量 板材微量
- 14 黑褐色土 木片極多量
- 15 灰褐色土 炭化物・鉄分(褐色土)粒子含む しまり強
- 16 灰黄褐色土 砂質
- 17 黄褐色土 灰層
- 18 灰褐色土 炭化物・暗褐色土含む

S K 90

- 1 灰褐色土 粘土質 炭化物微量
- 2 灰褐色土 炭化物・褐色土含む しまり強
- 3 灰褐色土 砂質 褐色土多量
- 4 黑褐色土
- 5 灰色土 シルト質

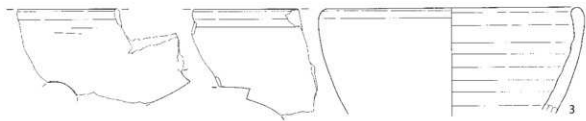
S K 241

- 1 暗黄褐色土 炭化物含む
- 2 灰褐色土 木質少量
- 3 暗褐色土 木質多量
- 4 暗灰褐色土 砂質 木質多量



第106図 区画AC土壇(4)

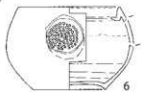
SK1



SK3



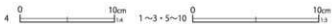
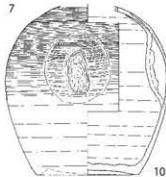
SK4



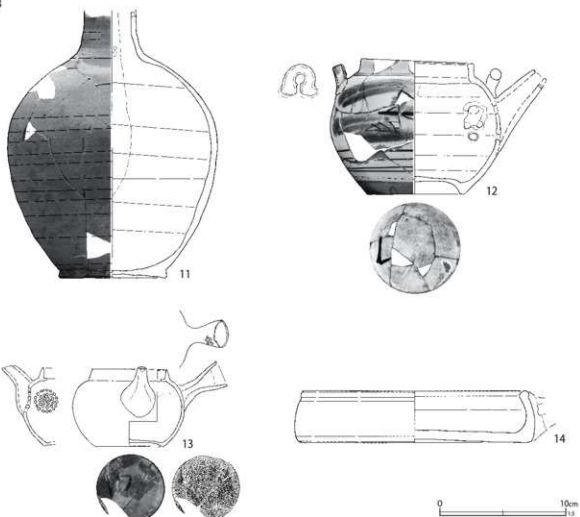
SK6



SK28



第107图 区画AC土壙出土遗物(1)



第108図 区画AC土壇出土遺物(2)

土遺物を図示した。

1は瀬戸美濃系磁器の広東碗である。高台を打ち欠いており、二次利用が考えられる。被熱している。3は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。高台内は深く削り込む。4は瀬戸美濃系磁器の丸碗である。内面に陰刻文染付がみられる。6は瀬戸美濃系磁器の湯呑形小碗である。高台畳付は幅広である。重複関係がないが、近接する第320号土壇と接合する。

9は瀬戸美濃系磁器の水滴である。型成形で、上面に陽刻文染付が施される。内底面、下面に布目痕がみられる。側面は1面が露胎である。

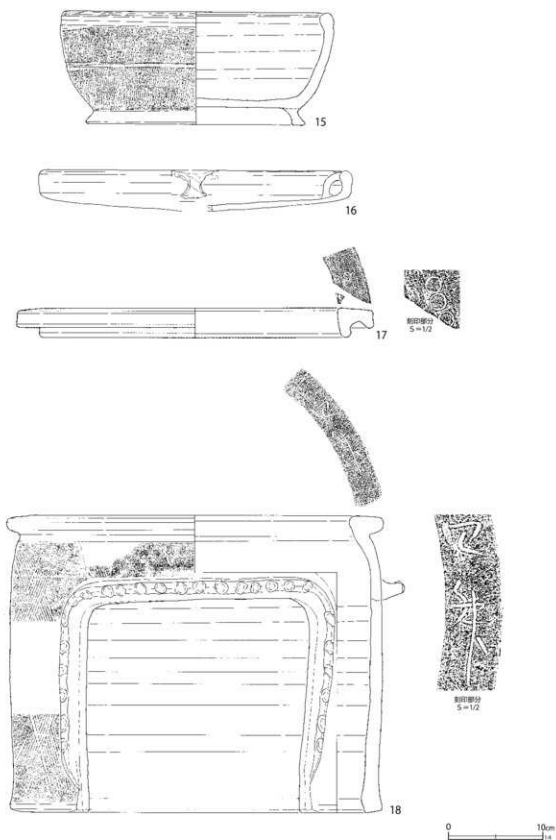
10は産地不詳陶器の白土染付土瓶である。被熱し、外面下位に煤が付着する。

11は瓦質土器の十能である。下面は無調整のシワ状痕が残り、把手は全面にミガキ調整を施す筒形である。表面は燻により黒色である。栗橋宿でみられる十能では極めて稀な製品である。

12は瓦質土器の脚付き火鉢である。底部は無調整の砂目底である。やや酸化焙焼成で表面は橙色気味である。口縁部は敲打痕と摩耗がみられる。輪高台状の脚部は低く、焼成前穿孔がみられる。

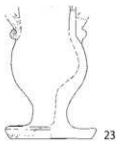
13は瓦質土器の焔炉である。中筒は欠失し、五徳が一部遺存する。底部に圧痕が残り、外面上端部と口縁部にミガキ調整が行われている。体部には亀甲文状のスタンプが施文された後ナデ消されている。

14は焔炉等と組み合わせで使用されたと考え

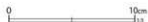


第 109 图 区画 AC 土坑出土遗物 (3)

S K 29

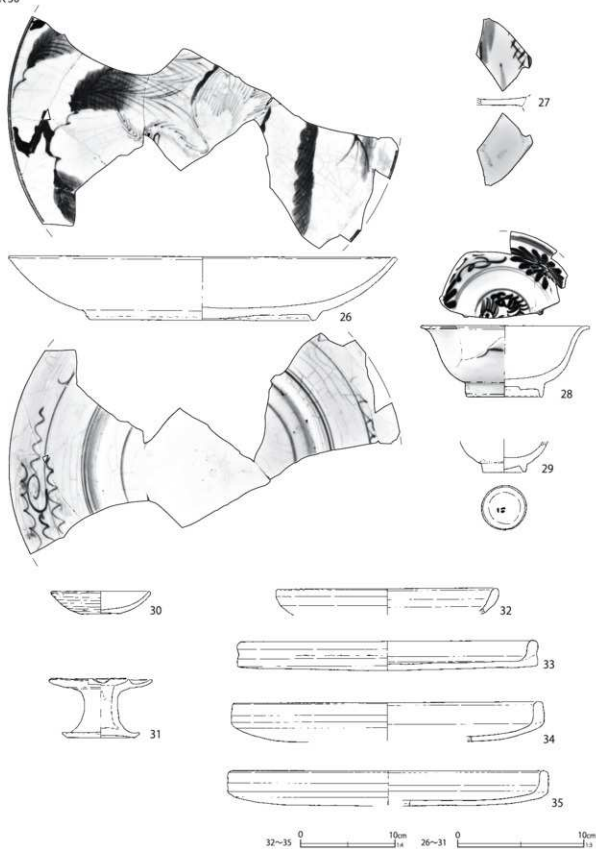


S K 30



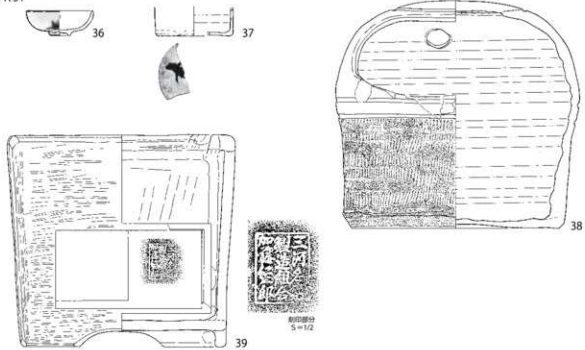
第110图 区画AC土坑出土遗物(4)

SK30

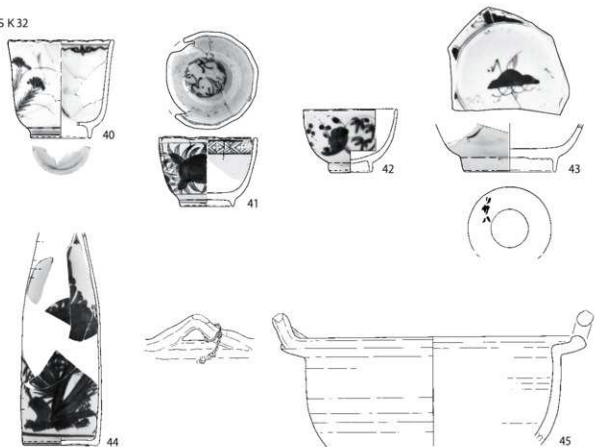


第 111 图 区画 AC 土壙出土遗物 (5)

SK31



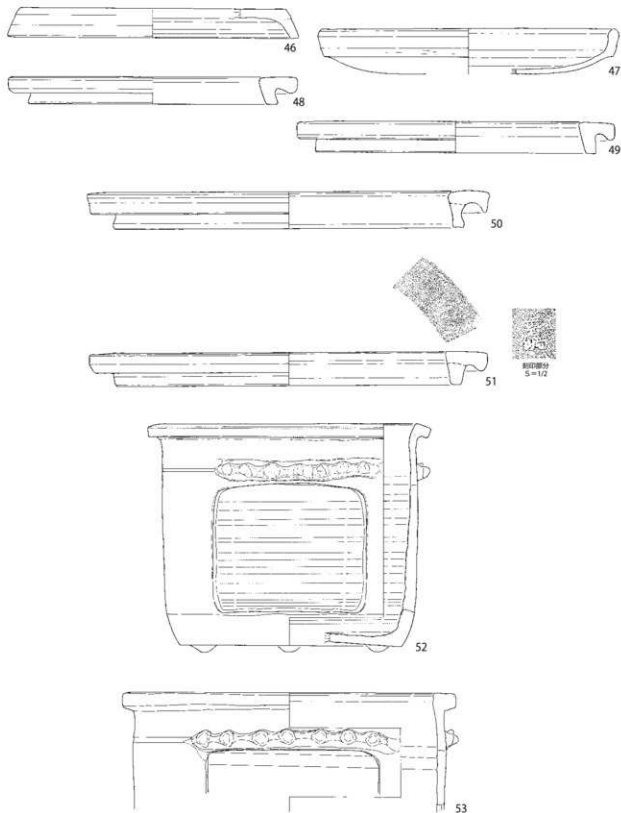
SK32



39 0 10cm 1.4 36~38・40~45 0 10cm 1.3

第112图 区画AC土坑出土遗物(6)

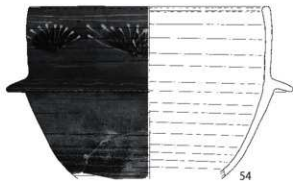
SK32



0 10mm

第 113 图 区画 AC 土壙出土遗物 (7)

S K 35

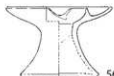


54

S K 36



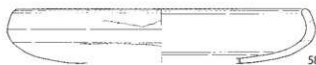
55



56



57



58

S K 42



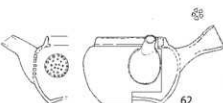
59



60



61



62



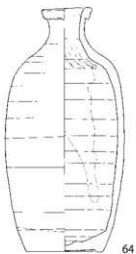
58 0 10cm 14 54~57・59~62 0 10cm 13

第114图 区画AC土坑出土遗物(8)

SK43

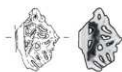


63

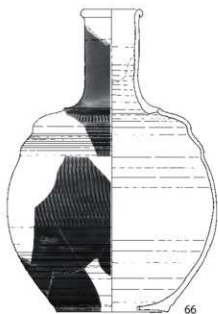


64

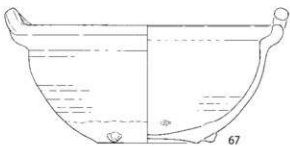
SK44



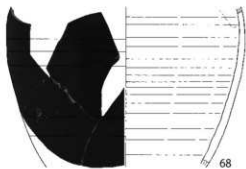
65



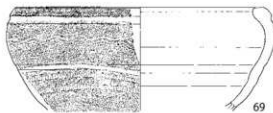
66



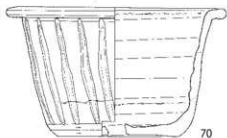
67



68



69



70

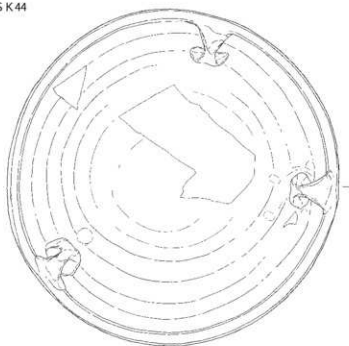


71

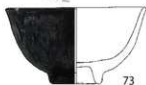
71 0 10cm 1:4 63-70 0 10cm 1:3

第 115 图 区画 AC 土壙出土遗物 (9)

SK44



SK62

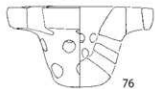
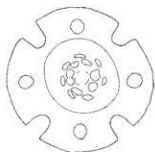


73

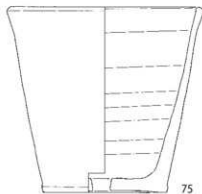


74

SK63



76



75

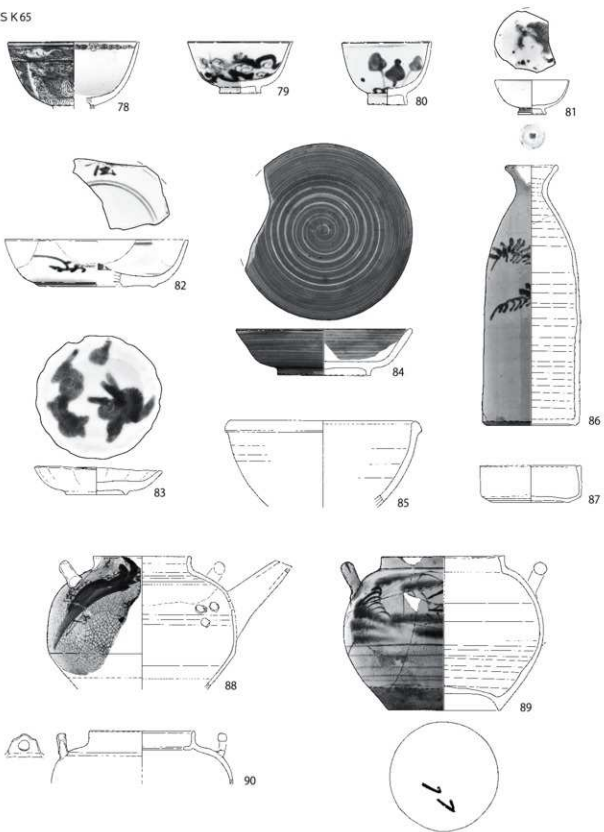


77

72 0 10mm 14
73~77 0 10mm 13

第116图 区画AC土坑出土遗物(10)

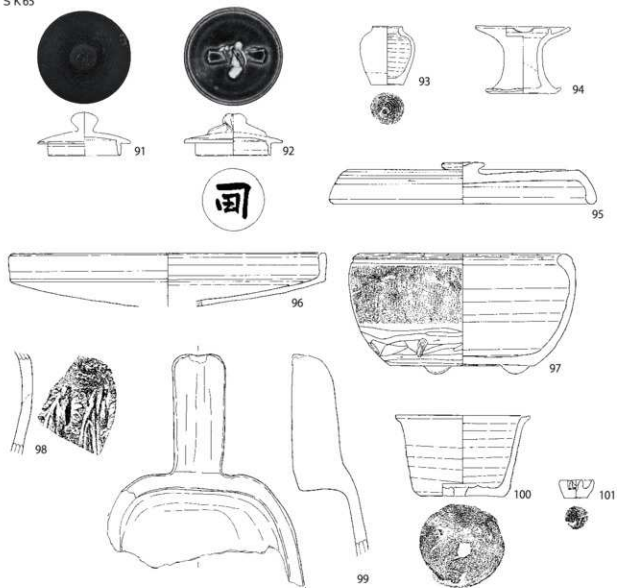
SK65



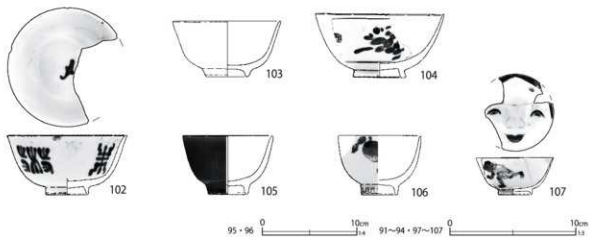
0 10cm

第 117 图 区画 AC 土坑出土遗物 (11)

S K 65

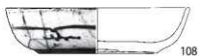


S K 78



第118图 区画AC土坑出土遗物(12)

SK78



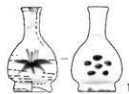
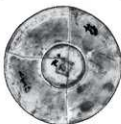
108



109



110



111



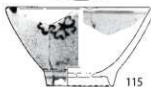
113



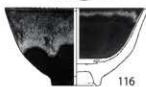
114



112



115



116

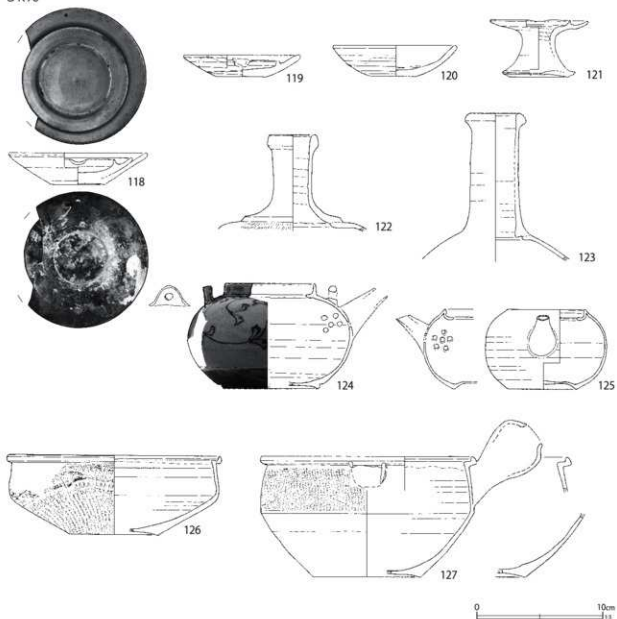


117



第119图 区画AC土坑出土遗物(13)

SK78



第120図 区画AC土壌出土遺物(14)

られる瓦質土器の風口である。板作り成形で、下面は無調整で砂目が遺存する。ほぼ酸化焰焼成で表面は橙色を呈する。栗橋宿では江戸在地系が多く、角閃石を含む在地産は稀である。

15は土師質土器の丸底焙烙である。底部は無調整のシワ状痕が残り、丸みは弱く、扁平である。内耳は1箇所遺存する。

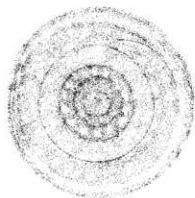
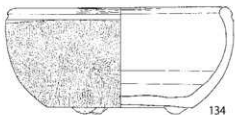
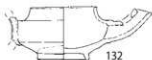
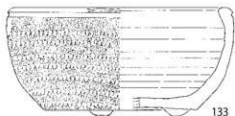
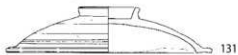
16は土器質胎土で、黒釉を施軸する陶器土版の底部である。吉見焼と考えられる。外面から底

部全面を黒釉で施軸する。

第65号土坑 (第106・117・118・127・128・130・131・134・136図)

F7-C6 グリッドに位置する。第32号溝跡、第4号焼土遺構、第5・6号土坑より古く、第2号焼土遺構a、第44・78号土坑と重複する。平面形は不整隅丸長方形で、長軸4.35m、短軸1.5m、深さ0.6mを測る。長軸方位はN-18°-Wを指す。

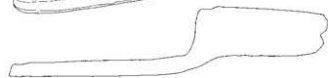
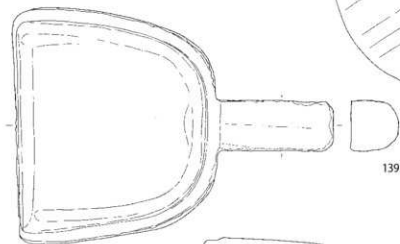
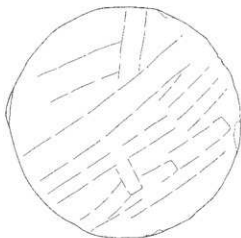
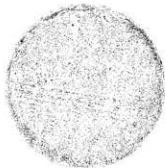
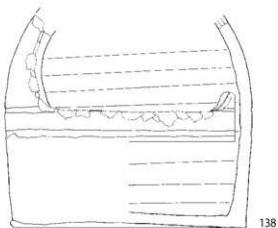
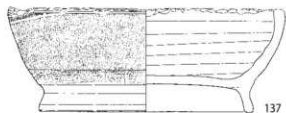
SK78



136 0 10cm 128~135 0 10cm

第121图 区画AC土壙出土遗物(15)

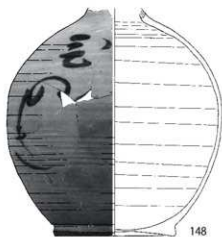
SK78



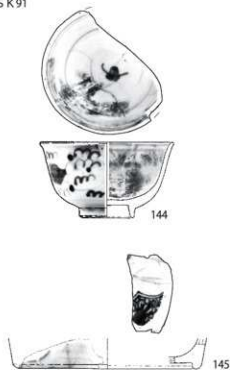
137 0 10cm 138~141 0 10cm

第 122 图 区画 AC 土坑出土遗物 (16)

SK90

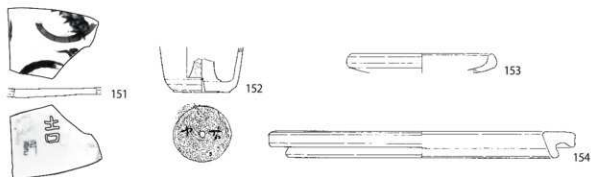


SK91

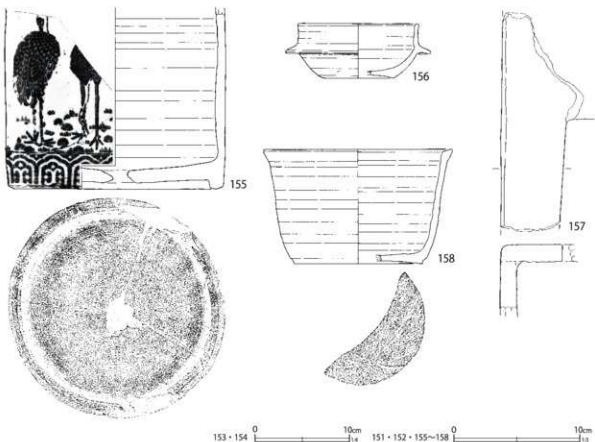


第 123 图 区画 AC 土坑出土遗物 (17)

S K 214



S K 260

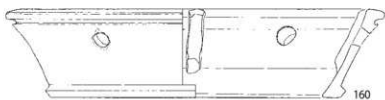


第124図 区画AC土壌出土遺物(18)

覆土は木質を多く含み、中層と上層に炭化物が含まれる。出土遺物と遺構の平面形、覆土の堆積状況から2時期の重複した長方形土壌と推定される。第2～5層は新しい土壌で、遺構北側に張り出している部分に対応する。第6～10層は下層の土壌と推定される。

出土遺物は19世紀中葉と後葉の陶磁器が混在している。酸化コバルト染付磁器が極めて少量で、型紙摺絵染付皿・碗が残存率50%を越えて出土しているほか、瀬戸美濃系磁器の染付小碗(第117図80)を主体としていることから近代陶磁器は混入である可能性が高い。推定廃絶期は19

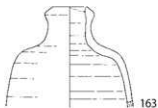
SK260



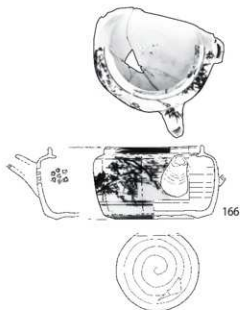
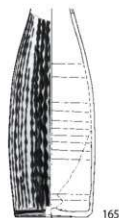
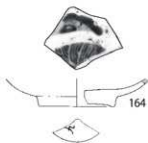
161・162 0 10cm 1:4 159・160 0 10cm 1:3

第125图 区画AC土壙出土遗物(19)

SK 319



SK 321



第126図 区画AC土壌出土遺物(20)

世紀中・後葉である。

第117・118図78～101に陶磁器類、第127図4・5・第128図7・8に土製品、第130図9に瓦、第131図1～11に木製品、第134図9に鉄製品、第136図5に石製品を図示した。

第117図82は肥前系磁器の五寸皿である。高台高が低い蛇ノ目凹形高台で、内面に染付文字「屋」がみえる。同様の皿が第6号建物跡(第34図2)にみられ、染付銘「吉田屋」と推定される。区画AFに位置する「旅籠屋/太左衛門」が所有していたものと考えられる。

第118図92は産地不詳陶器の鉄軸土瓶の蓋で

ある。紐状把手で、内面に墨書「田」がみえる。栗橋宿では初出の屋号である。区画ACは「明地/清吉」だが、出土文字資料と区画は必ずしも一致しないということを留意したい。

第131図1は漆碗で、被熱している。内外面赤漆塗りで、口縁部が金、高台縁が黒漆である。2は漆碗である。内面赤漆塗りで、外面黒漆塗りで、体部中央に線状の装飾が施される。3は蓋である。外面を削り文様がつくられる。上面の穴に銅の板を差し込み、つまみとしている。8は束子で、棕櫚の繊維で作られる。繊維は中心部と外周の二重であり、繊維紐で固定される。9は陰卵

第32表 区画AC土城出土遺物観察表(1)(第107~126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	13.4	2.9	7.5	—	80	良好	白	SK1	肥前系 内外面施軸・染付 内面釘書「中」No.4	71-9
2	陶器	甕	—	[8.5]	(11.3)	EHK	30	良好	灰白	SK1	葛子系 内外面施軸 内面跡2遺存 底部墨書「明治式拾八年〇〇…」の SK182 接合	71-10
3	瓦質土器	火鉢	(19.8)	[8.4]	—	CIK	30	普通	にんじょう	SK1	器口カ 体部凹込(意)あり 内面上位煤付着	
4	瓦質土器	甕罎	27.5	3.3	27.1	CI	100	普通	暗褐	SK1	煤す 上面・内面煤付着 No.1・2・3	
5	磁器	缸坏	4.7	1.4	1.2	—	55	良好	白	SK3	肥前系 型成形 内外面施軸	
6	陶器	急須	8.0	6.5	5.6	—	90	良好	明赤褐	SK4	粘土拓器質 底部布目痕 胎土中心部還元焼成 内外面施軸 被熱 No.2	
7	磁器	仏飯器	6.4	6.4	4.2	—	95	良好	白	SK6	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 No.1	
8	磁器	飯碗	10.0	5.4	3.9	—	55	良好	白	SK28	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面除刻文・染付 内面釘書「七」SK322 接合	
9	磁器	坏	7.1	3.1	2.6	—	50	良好	白	SK28	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
10	陶器	徳利	—	[11.1]	8.1	—	30	良好	褐灰	SK28	備前系 粘土拓器質 外面上位糸目状沈線 体部凹み2遺存・人形貼付 外面塗土 焼継痕あり 底部焼継印(赤)「□□□□/大黒」SK29・322 接合	71-19
11	陶器	徳利	—	[21.1]	8.3	IK	60	良好	灰	SK28	外面灰軸・須領 底部輪状重焼痕 SK29 接合	
12	陶器	土瓶	8.9	10.7	7.6	K	60	良好	浅黄橙	SK28	外面三彩・麻軸 底部白化斑・墨書 SK29 接合	
13	陶器	急須	5.8	6.1	5.4	—	75	普通	褐灰	SK28	萬古系 底部布目痕 体部透彫り 粘土拓器質 内外面施軸 底部墨書「ワ」	
14	土質土器	焙烙	17.6	4.1	17.8	CHI	60	普通	浅黄橙	SK28	砂目底 SK29 接合	
15	瓦質土器	火鉢	27.8	11.9	22.8	CHK	90	普通	にんじょう	SK28	砂目底 口縁部ミガキ 体部トビガンナ状施文 横す 口縁部縦打状割落 SK29 と接合	
16	土質土器	焙烙	(31.8)	[4.3]	(33.8)	CEHI	45	普通	浅黄橙	SK28	砂目底 内面中心部ランダムなナデ SK29 接合	
17	瓦質土器	甕罎	(30.6)	3.1	31.9	CEH	75	普通	灰黄	SK28	煤す 刻印「〇〇〇」被熱・煤付着 SK29 接合	
18	瓦質土器	甕	34.0	3.5	35.6	CHK	50	普通	にんじょう・黄灰	SK28	外面柳推状施文 煤す 口唇部へラ書き 内面被熱(割落) 接点のない2片から復元 SK29 と接合	71-20
19	磁器	皿	19.8	3.1	11.2	—	90	良好	白	SK29	肥前系 内外面施軸 内面染付 焼継痕あり 被熱 SK28 と接合	
20	磁器	皿	(22.7)	3.4	13.8	—	65	良好	白	SK29	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面紙摺染付 高台内ハリ支脚3あり SK28 と接合	
21	陶器	徳利	—	[6.6]	(6.4)	—	10	良好	灰白	SK29	肥前系 外面施軸 外面下位釘書「上」	72-1
22	陶器	燗徳利	—	[10.0]	—	K	5	良好	灰白	SK29	外面青緑軸 内面施軸	
23	陶器	花生	—	[10.5]	6.4	EHK	80	良好	灰白	SK29	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右)・墨書 内外面鉄軸 外面長石軸散らし	72-2
24	磁器	碗	(7.4)	6.1	4.0	—	50	良好	白	SK30	肥前系 内外面施軸・染付 口紅	
25	磁器	坏	—	[0.8]	2.3	—	20	良好	白	SK30	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上位付(青)	
26	磁器	皿	30.3	5.0	(17.5)	—	25	良好	白	SK30	肥前系 内外面施軸・染付 口紅 底部ハリ支脚2遺存 被熱(弱)カ	
27	磁器	皿	—	[0.7]	—	—	5	普通	白	SK30	肥前系 内外面施軸 内面染付 底部釘書	
28	磁器	鉢	12.6	5.6	(5.8)	—	45	良好	白	SK30	瀬戸美濃系 内外面施軸 内外面施軸・酸化コバルト染付	
29	陶器	碗	—	[2.5]	3.4	IK	15	良好	灰白	SK30	瀬戸美濃系 内外面灰軸 底部墨書「に」カ	
30	陶器	灯明皿	7.7	1.8	3.0	K	75	普通	灰白	SK30	京都信楽系 施軸(やや白濁) 口縁ターレット量付着	
31	陶器	灯火具	4.2	4.9	5.3	K	90	普通	灰白	SK30	京都信楽系 内外面施軸(白濁) 口縁歪む 最大径 8.2cm	
32	土質土器	焙烙	(23.2)	[2.7]	(22.6)	AEBI	20	普通	にんじょう	SK30	江戸在地系カ 砂目底 胎土粉質	
33	土質土器	焙烙	(30.8)	3.1	(31.8)	CHK	45	普通	灰白	SK30	砂目底 体部下位ケズリ 被熱(黒化)	
34	土質土器	焙烙	(32.6)	[4.1]	(33.2)	CHK	15	普通	にんじょう	SK30	砂目底 胎土中心灰白	
35	土質土器	焙烙	(32.8)	[3.7]	(32.6)	CHK	20	普通	灰白	SK30	砂目底 体部下端ケズリ 色調内面灰白・外面橙色	
36	磁器	坏	2.6	2.0	1.3	—	60	普通	白	SK31	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
37	陶器	燗徳利	—	[2.3]	(5.7)	K	5	普通	灰白	SK31	京都信楽系 外面施軸 底部墨痕	
38	瓦質土器	手焙烙	—	17.9	16.4	ACIK	75	普通	灰白	SK31	底部へラナデ 体部下端ケズリ・中位・上面ミガキ・下位トビガンナ状施文 煤す	
39	土質土器	硯が	22.8	22.3	21.3	AEBIK	40	普通	橙	SK31	三河産 外面ミガキ 意部刻印 意部は欠失のため推定	72-3
40	磁器	碗	(8.2)	7.7	(4.6)	—	40	良好	白	SK32	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼継痕あり	
41	磁器	碗	7.6	5.5	4.1	—	80	良好	白	SK32	肥前系 内外面施軸・染付	
42	磁器	碗	(7.3)	4.9	(3.2)	—	45	良好	白	SK32	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 焼継痕あり	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
43	磁器	鉢	—	[3.8]	7.0	—	25	良好	白	SK32	肥前系 内外面施軸・染付 高台内円筒状の重ね焼き 痕・焼継印(赤)	72-5
44	磁器	襷徳利	—	[16.8]	5.7	—	45	良好	白	SK32	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付	
45	瓦質土器	鍋	[23.0]	[10.6]	—	IK	15	良好	白	SK32	内外面施軸 把手に銅線巻付 目跡1あり 外面煤付着	
46	瓦質土器	蓋	—	[3.1]	(30.7)	AOHK	10	普通	橙	SK32	上面砂目 内面煤付着 火消巻の蓋	
47	土師質土器	焙烙	(30.8)	[4.8]	(30.6)	CEHK	50	普通	橙	SK32	砂目底 体部煤付着	
48	瓦質土器	電鐔	(24.6)	2.8	(26.2)	HIK	20	普通	白	SK32	横す	
49	瓦質土器	電鐔	(27.0)	3.3	(29.5)	CHK	15	普通	白	SK32	横す	
50	瓦質土器	電鐔	(37.2)	3.9	(36.8)	HIK	15	普通	褐色	SK32	横す 上面煤付着	
51	瓦質土器	電鐔	(33.3)	3.5	(36.0)	CHK	20	普通	褐色	SK32	横す 上面刻印「岩崎」内面煤付着	72-6
52	瓦質土器	電	27.0	24.1	23.4	CHI	80	普通	灰白	SK32	砂目底 外面下位ミガキ状のナゲ 内面上・下位煤付着	
53	瓦質土器	甕	34.0	[12.8]	(29.0)	CHI	40	普通	橙	SK32	横す 口縁部・内面煤付着	
54	陶器	羽釜	(18.7)	[13.5]	—	IK	25	良好	灰白	SK35	内外面灰軸 外面呉須絵・イッチン描き文 外面下位煤付着 口縁欠失部二次利用(摩耗)	
55	磁器	碗	(10.8)	[4.8]	—	—	10	良好	白	SK36	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
56	陶器	灯火具	4.3	5.6	5.8	IK	85	良好	灰白	SK36	京都信楽系 内外面施軸 最大径8.4cm	
57	陶器	蓋	—	[2.2]	(8.2)	IK	20	良好	灰白	SK36	上面施軸・白土染付・ビン痕1遺存 最大径(10.6)cm	
58	土師質土器	焙烙	(30.4)	[6.7]	—	CFHK	10	普通	橙	SK36	底部シワ状痕 体部煤付着	
59	磁器	蓋	—	2.4	5.5	—	100	良好	白	SK42	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 60の蓋	
60	磁器	急須	(6.2)	6.5	6.2	—	90	良好	白	SK42	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)50の身	
61	陶器	土瓶	(10.8)	[8.4]	—	K	20	良好	灰白	SK42	京都信楽系 外面施軸・鉄絵	
62	陶器	急須	5.3	6.3	4.5	—	100	良好	赤灰	SK42	萬古系 胎土佐器質 口縁・注口先端施軸 把手透かし彫り 外面イッチン描き文字「新炭煎/栗桶町/池谷商店」	
63	陶器	灯明皿	(9.0)	1.3	(5.2)	K	40	良好	白	SK43	内外面施軸 外面煤付着	
64	陶器	徳利	3.8	19.2	6.0	IK	60	良好	灰	SK43	瀬戸美濃系 外面灰軸	
65	磁器	葉筒	縦(4.9) 横(3.5)	—	—	—	5	良好	白	SK44	瀬戸美濃系 板作り成形 透かし彫り 内外面施軸 外面染付	
66	陶器	徳利	(4.4)	23.8	(8.8)	IK	40	良好	白	SK44	頸・肩部青緑釉流し掛け 体部鉄軸 肩・体部トビガンナ状施文	
67	陶器	鍋	21.0	10.6	8.0	K	90	良好	灰白	SK44	内外面施軸 内面目跡5 底部煤付着 被熱	
68	陶器	瓶類	—	[12.7]	—	EIK	20	良好	灰白	SK44	信楽系 外面黒鉄軸 内面施軸 胎土石英質	
69	瓦質土器	火鉢	(19.4)	[8.1]	—	CHI	10	普通	白	SK44	外面上位彫割状文・下位トビガンナ状施文 横す	
70	瓦質土器	植木鉢	16.0	10.2	9.6	CHK	65	普通	褐色	SK44	外面錫状施文・下位ケズリ 弱く横す	
71	土製品	形製土器	長さ[10.7] 径5.3	—	—	CHK	40	普通	灰白	SK44	内面シワ状痕 外面砂目 横す	
72	土師質土器	焙烙	33.8	4.2	34.6	CHK	90	普通	浅黄褐色	SK44	砂目底 内面同心円状のナゲ 底部端部・内面煤付着	66-11
73	陶器	碗	10.9	6.1	3.7	IK	95	良好	白	SK62	胎土極硬質 内外面鉄軸(上位うのふ輪流し掛け) 内面ビン痕3あり	
74	陶器	植木鉢	—	[3.8]	(8.0)	IK	10	普通	灰	SK62	外面緑褐色系軸	67-4
75	瓦質土器	植木鉢	(14.8)	14.6	(9.8)	GHUK	25	普通	明赤褐色	SK62	法汪酸化塩焼成 SK63と接合	
76	土師質土器	目皿	11.3	6.3	—	I	100	普通	淡黄	SK63	—	
77	瓦質土器	植木鉢	(24.4)	12.9	(18.5)	IK	60	普通	灰白	SK63	胎土中心黒褐色 横す SK62と接合	
78	磁器	碗	(10.2)	[5.3]	—	—	30	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施軸・色絵(赤)	
79	磁器	碗	8.2	4.1	3.2	—	95	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
80	磁器	碗	6.9	5.0	3.0	—	95	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面陰刻文・染付	
81	磁器	杯	(5.8)	2.7	2.2	—	40	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(赤・緑・黄・黒)	
82	磁器	皿	(14.4)	3.7	(9.0)	—	5	良好	白	SK65	肥前系 内外面施軸・染付「屋」被熱	67-5
83	磁器	皿	9.8	2.3	4.6	—	95	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押陽刻文・染付	
84	陶器	皿	13.8	3.7	7.2	IK	80	良好	灰白	SK65	瀬戸美濃系 内外面刷毛目軸(渦巻)	
85	陶器	鉢	(14.6)	[6.8]	—	EIK	10	良好	灰白	SK65	内外面施軸(海鼠軸ぎみ)	
86	陶器	襷徳利	(3.8)	20.5	7.1	IK	85	良好	灰白	SK65	京都信楽系 外面施軸・鉄絵	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
87	陶器	蓋物	(8.0)	2.9	5.9	I	30	良好	黄灰	SK65	内外面緑褐色系釉 口唇部鉄化粧	
88	陶器	土瓶	(7.6)	[10.5]	—	IK	50	良好	に灰増	SK65	外面白化粧・胎軸・鉄絵・白蓋 被熱・煤付着	
89	陶器	土瓶	9.7	12.2	8.6	IK	70	良好	に灰増	SK65	底部白化粧・墨書 外面胎軸・三彩文 SK44 と接合	73-15
90	陶器	土瓶	(8.2)	[4.2]	—	K	10	良好	灰白	SK65	外面灰軸	
91	陶器	蓋	—	3.4	5.6	K	95	良好	灰褐	SK65	上面鉄軸(鉄軸) 跨下輪軸重燒痕(径6.4cm) 最大径7.3cm	
92	陶器	蓋	—	3.3	5.8	K	95	良好	に灰増	SK65	上面鉄軸 下面墨書「面」 最大径7.8cm	
93	陶器	豆壺	(2.2)	4.6	2.6	K	75	良好	灰白	SK65	京都信楽系 底部離し糸切痕(右) 外面鉄軸 胎土微塵・硬質・光沢	
94	陶器	灯火具	4.0	5.3	5.1	I	95	良好	灰白	SK65	京都信楽系 内外面胎軸 底部重燒痕 被熱 最大径7.6cm	
95	瓦質土器	蓋	—	4.4	(27.4)	CHIK	80	普通	灰白	SK65	上面砂目 体部上位ケズリ 雄す	
96	土師質土器	焙烙	(33.0)	[5.6]	(33.2)	CHIK	30	普通	灰白	SK65	砂目底 体部内外面煤付着	
97	瓦質土器	火鉢	(16.0)	9.5	(11.4)	CHIK	50	普通	灰白	SK65	口縁部ミガキ 体部下位ケズリ 体部トビガンナ状施文 雄す	
98	瓦質土器	火鉢	—	[8.1]	—	CHIK	5	普通	灰白	SK65	外面スタンプ状施文 雄す	
99	瓦質土器	十徳	長軸 [18.3] 短軸 [15.7] 高さ6.0			CFHIK	95	良好	に灰増	SK65	下・側面シワ状痕 やや酸化塩焼成	
100	瓦質土器	植木鉢	(10.6)	6.4	6.6	AI	60	普通	灰白	SK65	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 雄す	
101	土師質土器	燗燗	2.6	1.4	1.8	AHIK	100	普通	に灰増	SK65	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 灯芯立端部煤付着	
102	磁器	碗	(9.4)	4.7	(3.2)	—	70	普通	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸・胎土	
103	磁器	碗	8.4	4.4	3.2	—	60	普通	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸 底部露胎	
104	磁器	碗	(10.0)	5.0	(4.0)	—	15	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸・色絵(赤・緑)	
105	磁器	碗	(7.0)	4.7	(3.0)	—	30	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内面・高台内胎軸 外面珪瑁釉 口紅	
106	磁器	碗	6.5	4.7	2.7	—	60	普通	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸 外面染付	
107	磁器	坯	6.1	2.9	2.6	—	60	普通	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸・上絵付(赤・黒・緑・黄)	
108	磁器	皿	14.4	3.6	9.3	—	85	普通	白	SK78	肥前系 内外面胎軸・染付 燒痕あり 高台内焼痕印(赤) 3あり 被熱(強)	73-18
109	磁器	皿	(14.8)	4.4	8.3	—	60	普通	白	SK78	肥前系 内外面胎軸 内面染付 口紅 高台内釘書「八」	73-19
110	磁器	皿	9.2	1.8	5.2	—	95	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸 内面型押陰刻文	
111	磁器	德利	1.4	6.7	2.8	—	95	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 外面胎軸・染付	
112	磁器	油壺	2.1	4.8	5.2	—	95	普通	白	SK78	瀬戸美濃系 上下二枚型成形 外面胎軸・上位型押陰刻状施文・染付	
113	磁器	香炉	8.7	5.1	3.9	—	80	普通	白	SK78	瀬戸美濃系 内面上位・外面胎軸 外面染付 底部墨書	73-20
114	磁器	香炉	—	[5.0]	(5.2)	—	25	良好	白	SK78	瀬戸美濃系 内面上位・外面胎軸 底部墨書	74-1
115	陶器	碗	11.6	6.2	5.2	K	60	普通	灰白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸・負須絵 底部二次穿孔1	
116	陶器	碗	(11.0)	6.1	3.2	I	55	普通	灰	SK78	胎土極硬質 内外面胎軸(上位うのふ軸流し掛け) 内面目跡3あり	
117	陶器	皿	13.6	3.0	7.2	IK	95	良好	に灰増	SK78	内外面胎軸(被熱白化) 内面須絵・ピン痕6遺存	
118	陶器	灯明皿	8.4	—	—	—	100	普通	淡黄	SK78	京都信楽系 内外面胎軸 外面ターム状物質付着	67-7
119	陶器	灯明皿	9.2	1.8	4.0	IK	100	普通	灰白	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸 外面下位・底部軸抜き取り輪軸重燒痕	
120	陶器	灯明皿	9.5	2.4	3.6	K	100	良好	灰褐	SK78	瀬戸美濃系 内外面胎軸 外面下位・底部軸抜き取り内面輪軸重燒痕(径4.7cm)	
121	陶器	灯火具	5.0	4.5	4.7	IK	95	良好	灰白	SK78	京都信楽系 内外面胎軸 最大径7.7cm	
122	陶器	德利	3.6	[7.6]	—	IK	5	良好	灰白	SK78	外面下位トビガンナ状施文・灰軸 頸部鉄軸	
123	陶器	德利	3.9	[11.7]	—	IK	15	普通	淡黄橙	SK78	内面上位・外面胎軸	
124	陶器	土瓶	(7.0)	8.3	(7.4)	K	30	良好	灰白	SK78	外面胎軸・鉄絵 露体部煤付着 SK89 と接合	
125	陶器	急須	6.2	6.3	5.4	K	70	良好	に灰増	SK78	胎土拓磨質	
126	陶器	鍋	(16.6)	6.3	(7.0)	—	30	良好	に灰増	SK78	外面トビガンナ施文・白軸流し掛け 内面顔脂色釉 露体部煤付着	
127	陶器	行平鍋	16.6	12.4	8.5	K	60	良好	灰白	SK78	外面トビガンナ状施文・粘軸 内面胎軸 被熱・煤付着 被熱により大きく歪む	
128	陶器	蓋	—	[2.4]	6.4	K	90	良好	灰白	SK78	上面青緑釉 被熱・下面煤付着 最大径9.5cm	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
129	陶器	蓋	6.4	1.7	3.4	I	95	良好	灰白	SK78	上面施釉 ツマミ欠失 底部二次穿孔(銅線付) 最大径7.9cm	
130	陶器	蓋	—	1.6	3.2	K	100	良好	灰白	SK78	底部糸切痕(右) 上面白土染付・施釉 被熱 最大径7.4cm	
131	陶器	蓋	4.7	3.6	16.2	I	90	良好	灰白	SK78	外面中位トビガンナ施文 外面柿輪散らし 内面柿輪	
132	陶器	カンテラ	5.0	4.2	3.9	IK	80	普通	灰白	SK78	京都信業系 内外面施釉 注口・磨胎部黒化	
133	瓦質土器	火鉢 (16.3)	8.6	(11.8)	CHK	35	普通	褐灰	SK78	口縁部ミガキ 体部スタンプ状施文 燻す		
134	瓦質土器	火鉢	16.8	8.5	11.5	CI	75	普通	灰白	SK78	口縁部ミガキ 体部トビガンナ状施文 燻す 胎土中心灰色	
135	瓦質土器	火鉢	17.0	7.5	13.0	HIK	55	普通	にぶ青	SK78	体部下位ケズリ やや酸化焙焼成 内面上位煤付着	
136	瓦質土器	火鉢	25.9	12.7	(22.3)	CHK	95	普通	灰白	SK78	砂目底 焼成前穿孔2あり やや酸化焙焼成 内面下位火箸傷	67-9
137	瓦質土器	火鉢	28.7	10.9	22.5	CIKM	95	普通	灰白	SK78	底部板状圧痕 口縁部ミガキ・最打痕 体部トビガンナ状施文 体部下位弱いケズリ 燻す	67-8
138	瓦質土器	手給り	—	[16.7]	18.4	CIK	60	普通	灰白	SK78	底部ヘラナゲ 燻す 胎土中心灰色 口縁部最打痕 底部周縁部摩耗	
139	瓦質土器	十能	長軸25.1 高さ5.6	短軸18.7		CHK	95	普通	灰白	SK78	下・側面シワ状痕 燻す 内面煤付着	
140	瓦質土器	香炉	—	[2.1]	(8.8)	AI	5	普通	灰白	SK78	江戸在地区 体部ミガキ 胎土粉質 燻す	
141	瓦質土器	榊木鉢	16.3	12.6	13.2	AK	80	普通	灰白	SK78	江戸在地区 底部ヘラナゲ 胎土粉質 燻す SK91と接合	
142	陶器	蓋	—	3.3	8.5	K	100	良好	灰黄褐	SK90	上面絞肌軸 143の蓋	
143	陶器	土瓶	9.8	12.2	8.0	IK	75	普通	灰白	SK90	外面絞肌軸 内面鉄軸 露胎部煤付着 142の身	
144	磁器	碗	10.4	6.0	4.0	—	50	普通	白	SK91	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面煤付着	
145	磁器	鉢	—	[2.4]	(14.0)	—	5	良好	白	SK91	肥前系 内外面施釉・染付 焼痕あり 高台内焼継印(赤)	
146	陶器	灯明皿 (8.2)	1.6	(2.8)	K	45	普通	灰白	SK91	京都信業系 内外面施釉 内面ビン線1遺存 被熱(一部黒化)		
147	陶器	灯火具	4.5	5.9	5.3	K	95	良好	灰白	SK91	京都信業系 内外面施釉 被熱 最大径8.5cm	
148	陶器	徳利	—	[18.0]	9.4	K	70	良好	灰白	SK91	外面灰釉・呉服絵 底部輪状重焼痕(径7.9cm)	74-9
149	陶器	土瓶 (7.0)	[4.4]	—	K	5	良好	灰白	SK91	大塚相馬系 内外面輪白釉		
150	陶器	蓋	8.7	2.9	4.6	IK	100	良好	灰白	SK91	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 最大径9.5cm	
151	磁器	皿	—	[0.7]	—	—	5	普通	白	SK214	肥前系 内外面施釉・染付 焼痕あり 下面釘書「吉」被熱	76-18
152	陶器	乗場	—	[3.6]	4.4	IK	60	普通	灰白	SK214	底部糸切痕(右) 内外面鉄軸 底部墨書	
153	土師質土器	焙烙 (14.8)	[2.0]	(15.4)	AHK	5	普通	にぶ青	SK214	砂目底		
154	瓦質土器	鐙蹄 (30.0)	2.8	(28.2)	CIK	20	普通	にぶ青	SK214	内外面煤付着 被熱		
155	陶器	火鉢	—	[14.4]	16.0	—	40	普通	白	SK260	瀬戸美濃系 外面施釉・型紙摺絵染付 底部二次穿孔	
156	陶器	羽釜 (9.3)	4.3	(5.6)	EIK	30	普通	にぶ青	SK260	外面上位・内面鉄軸		
157	土師質土器	燈炉	—	[17.2]	—	CHK	5	良好	にぶ青	SK260	板作り成形 外面ミガキ 窓部遺存	
158	瓦質土器	榊木鉢 (14.8)	9.0	(10.2)	CHK	40	普通	にぶ青	SK260	底部糸切痕をナゲ消し 燻す		
159	土師質土器	焙烙	16.6	5.4	13.4	EHK	95	普通	浅黄橙	SK260	底部ムシロ状圧痕をナゲ消し 内底面同心円状のナゲ 胎土石英小礫を含む 体部一部煤付着	
160	土師質土器	器台 (27.6)	7.0	(23.0)	ADEI	45	普通	橙	SK260	三河産 内面上位煤付着		
161	瓦質土器	甕 (33.0)	[21.1]	—	CHK	15	普通	灰	SK260	やや酸化焙焼成 胎土中心灰色 口唇部刷印「○○○」内面・口唇部煤付着		
162	瓦質土器	火鉢	23.6	8.4	25.3	HIK	60	普通	にぶ青	SK260	砂目底 口唇部ミガキ 燻す 胎土中心灰色	
163	陶器	徳利	2.7	[8.0]	—	IK	15	普通	黄灰	SK319	瀬戸美濃系 外面快磨 被熱(黒化)	
164	磁器	皿	—	[2.2]	(5.9)	—	10	良好	白	SK321	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面陰刻文・染付 蛇ノ目形高台 高台内焼継印(赤)	77-15
165	磁器	燗徳利	—	[16.5]	5.6	—	80	良好	白	SK321	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 底部墨書「金」	77-16
166	磁器	急須 (7.6)	5.7	6.5	—	80	良好	白	SK321	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 底部渦巻状・墨痕		
167	陶器	徳利	2.1	10.1	4.6	I	100	良好	明褐灰	SK321	瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部輪状抜き取り 注口部・頸部・肩部に重焼痕状の輪割り	
168	陶器	徳利	—	[9.3]	8.7	IK	20	良好	灰白	SK321	外面トビガンナ状施文 内外面灰釉 底部二次穿孔	

SK323



SK 1



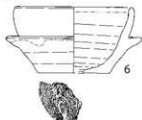
SK5



SK65



SK78



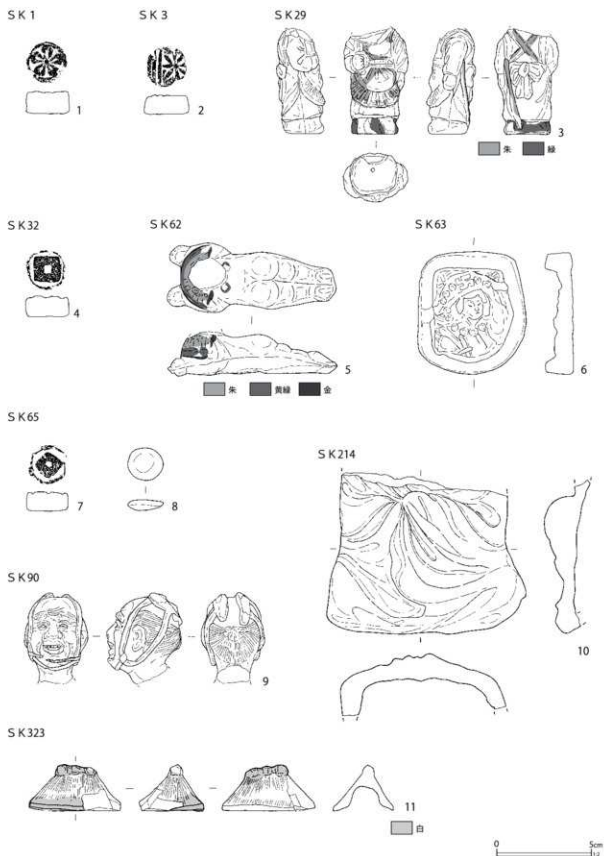
第127図 区画AC土壇出土遺物(21)

第33表 区画AC土壇出土遺物観察表(2)(第127図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	紅坯	1.9	1.0	0.8	2.9	—	良好	白	SK323	瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸	121-15
2	土製品	ミニチュア	1.1	1.4	0.8	3.4	IK	普通	にぶい橙	SK1	江戸在地系 蓋 上下合二枚型成形 外面白土・緑軸・施軸	117-5
3	土製品	ミニチュア	(1.2)	0.8	(3.2)	1.2	AHK	普通	にぶい橙	SK5	江戸在地系 蓋 型成形 内面雲母付着 上面鉄化粧 施軸(被熱・白化)	
4	土製品	ミニチュア	—	[2.9]	(4.4)	8.4	AHK	普通	橙	SK65	江戸在地系 土瓶 上下合二枚型成形 外面下位・底部白化粧 外面上位施軸 SK65-3と同一	
5	土製品	ミニチュア	(2.4)	[1.2]	—	3.0	AHK	普通	橙	SK65	江戸在地系 土瓶 上下合二枚型成形 外面施軸	
6	土製品	ミニチュア	(6.0)	3.5	(3.8)	15.1	AHK	普通	橙	SK78	蓋形土製品 底部糸切痕(右) 外面下位・底部白化粧 外面鉄軸・内面施軸	

第34表 区画AC土壇出土遺物観察表(3)(第128図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	泥面子	径1.3	1.2	7.5	AHK	良好	橙	SK1	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-11	
2	土製品	泥面子	径2.4	1.0	6.7	AHK	良好	橙	SK3	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-11	
3	磁器	人形	[5.6]	3.4	2.6	35.2	—	—	—	SK29	瀬戸美濃系 前後合二枚型成形 中空 外面施軸 彩色(赤・青緑・黄・金)	
4	土製品	泥面子	径2.3	1.1	6.3	AHK	良好	橙	SK32	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-11	
5	磁器	人形	9.0	3.7	[2.3]	48.0	—	良好	灰白	SK62	瀬戸美濃系 這子 上下合二枚型成形 中実上・側面施軸 彩色(赤・黄緑・金)	
6	土製品	土型	6.5	5.8	1.5	65.2	EIK	良好	明赤褐	SK63	胎土粗雑・硬質	117-16
7	土製品	泥面子	径2.2	1.0	5.9	AHK	良好	橙	SK65	江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	122-11	
8	土製品	碁石	径0.9	0.6	1.7	AHK	良好	橙	SK65	江戸在地系 手捻り成形	117-17	
9	土製品	人形	[4.8]	3.4	3.9	32.0	AEX	良好	灰白	SK90	京都系 彩色有り(黒・赤)	117-19
10	土製品	人形	[8.5]	10.6	1.9	148.6	AHK	良好	にぶい橙	SK214	型成形 彩色(赤) 遺存 雲母付着	119-9
11	土製品	箱庭道具	2.4	4.9	1.2	15.6	AIK	良好	橙	SK323	民家 江戸在地系 一枚型成形 開口 一部白化粧 外面施軸	120-20



第 128 图 区画 AC 土坑出土遗物 (22)

SK28



SK62



SK319



第129図 区画AC土壇出土遺物(23)

第35表 区画AC土壇出土遺物観察表(4)(第129・130図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒平瓦	[11.6]	[10.8]	1.9	[5.7]	—	AIK	良好	灰白	SK28	江戸式カ 瓦当面積狭 銀化 燻す	
2	瓦	軒棧瓦	[4.6]	[7.5]	1.8	[5.3]	—	AHK	良好	灰	SK62	江戸式 瓦当面積狭 燻す 雲母付着	
3	瓦	軒棧瓦	[12.1]	[21.7]	2.2	[7.8]	7.1	AEIKM	良好	灰白	SK319	右巻八連珠三巴文 胎土粗雑 銀化 燻す	
4	瓦	棧瓦	[15.9]	[10.8]	1.8	4.3	—	ACIK	普通	灰	SK28	弱く銀化 燻す	
5	瓦	丸瓦	28.3	[10.2]	1.9	[6.5]	—	AIK	良好	灰白	SK29	燻す	
6	瓦	軒丸瓦	[8.0]	[14.5]	2.1	—	(14.8)	AIK	良好	灰	SK32	銀化 燻す 瓦当面積文字「酉」カ	123-17
7	瓦	軒丸瓦	[7.8]	14.0	2.5	—	14.0	AIK	普通	灰白	SK32	右巻十六連珠三巴文 燻す 雲母付着	
8	瓦	棧瓦	[20.9]	27.1	1.8	4.5	—	AIK	良好	灰白	SK42	燻す	
9	瓦	兎瓦	[6.9]	[7.7]	[2.0]	—	—	ACHIK	良好	灰白	SK65	銀化 燻す	123-19
10	瓦	軒丸瓦	[5.0]	16.4	2.5	16.1	15.7	AK	良好	灰白	SK78	右巻十六連珠三巴文 銀化 燻す 雲母付着	
11	瓦	丸瓦	13.0	[13.0]	3.2	5.9	—	AIK	普通	灰	SK78	燻す	
12	瓦	丸瓦	[23.9]	[22.1]	2.2	[6.9]	—	AIK	良好	灰白	SK78	銀化 燻す 焼成前穿孔2遺存	

下駄で、全面黒漆塗りである。

第78号土壇(第106・118～122・127・130・131・132・134～136図)

F7-C5・6 グリッドに位置する。第3・4号土壇より古く、第91号土壇より新しい。第32号溝跡、第65・90号土壇と重複する。

遺構の不自然な平面形態と土層の堆積状況から複数基の土壇から成ると考えられる。少なくとも2基が確認できたため、それぞれa、bの枝番号を付した。なお、出土遺物は一括で取り上げているため、第78号土壇出土遺物として扱う。

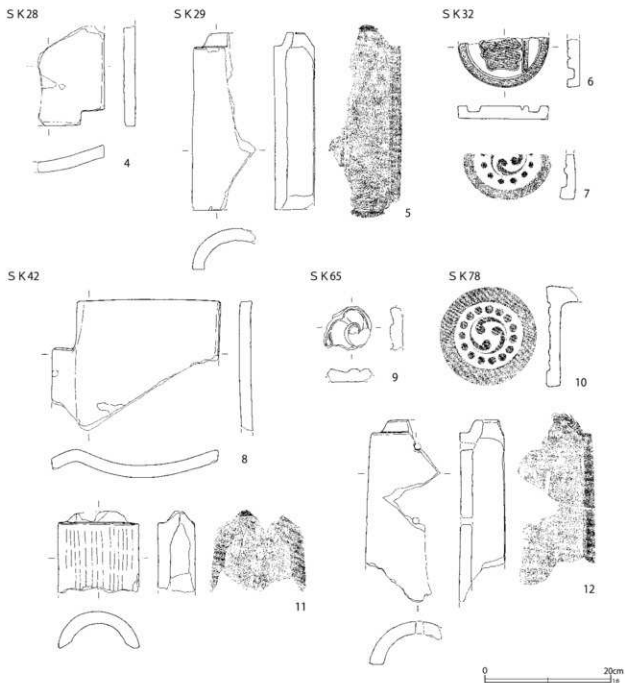
a、b共に平面形は不整形である。aの検出長軸は4.2m、短軸2.15m、深さ0.95mを測る。bは検出長軸2.2m、短軸0.6m、深さ0.4mを測る。いずれも長軸方位はN-74°-Eを指す。

aの覆土の大部分は最下層の第11層で、極めて多量の木片が混入している。木片は投棄された

ものと考えられる。上層であるaの覆土は砂質土が主体である。出土陶磁器は第89・91号土壇と接合関係にあり、bは第89号土壇と同時期の可能性がある。最新期の陶磁器は型紙摺絵染付磁器皿であり、地方窯系の陶器も多く認められる。しかし一方で端反形碗を主体とし、木型打ち込み成形そり皿、瀬戸美濃系磁器小碗がみられるため、幕末から明治初期の様相も垣間見える。

したがって、重複関係を考慮すると型紙摺絵染付段階の遺物はaに帰属する、もしくは重複する土壇からの混入と考えるのが妥当である。瀬戸美濃系磁器小碗や木型打ち込み成形そり皿段階の遺物はbに帰属すると推定される。a、b共に推定廃絶期は19世紀後葉である。

第118図102～107・第119～122図に陶磁器類、第127図6に土製品、第131図12～15・第132図16～26に木製品、第134図10～13



第130図 区画AC土壌出土遺物(24)

に金属製品、第135図2・3に銭貨、第136図6・7に石製品を図示した。

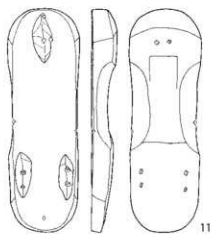
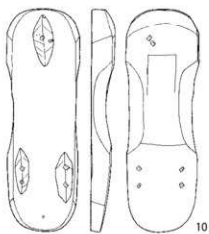
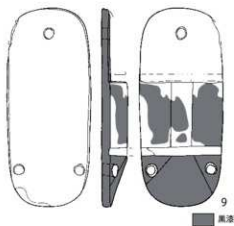
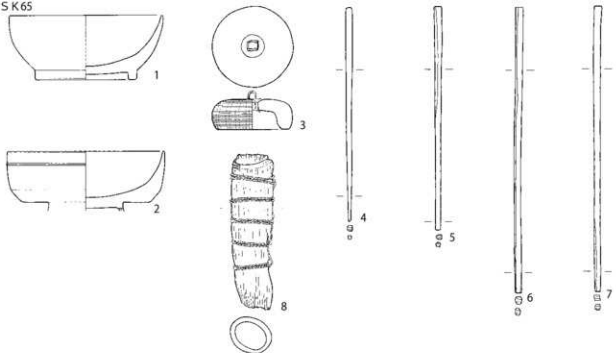
第118図102・103は瀬戸美濃系磁器の端反形碗で、102の外面に篆書体文「木」の染付を施す。103は無文で底部が露胎である。

第119図110は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形そり皿である。内面に陰刻文を施す。115は瀬戸美濃系陶器の太白手広東碗で、栗桶宿での

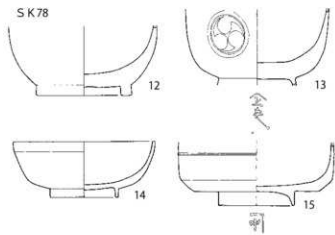
出土例は少ない。底部に二次穿孔がみられ、植木鉢に転用されたと考えられる。116は産地不詳陶器の端反形碗で、第89号土壌で同品が出土している(第94図13)。

第120図118は京都信楽系陶器の灯明皿で、油皿の内面に油受皿がタール状の黒色付着物で癒着している。油皿の露胎部全面にもタール状の黒色付着物があり、下にも重ねていた可能性がある。

SK65

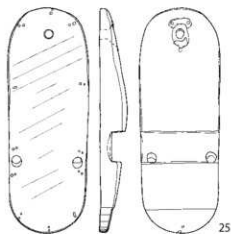
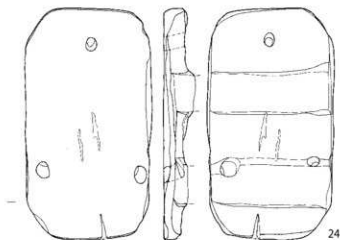
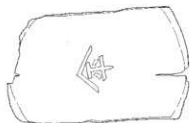
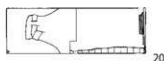


SK78

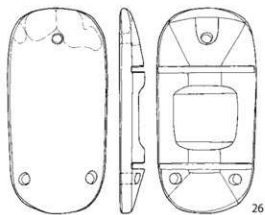


第 131 图 区画 AC 土壙出土遗物 (25)

SK78

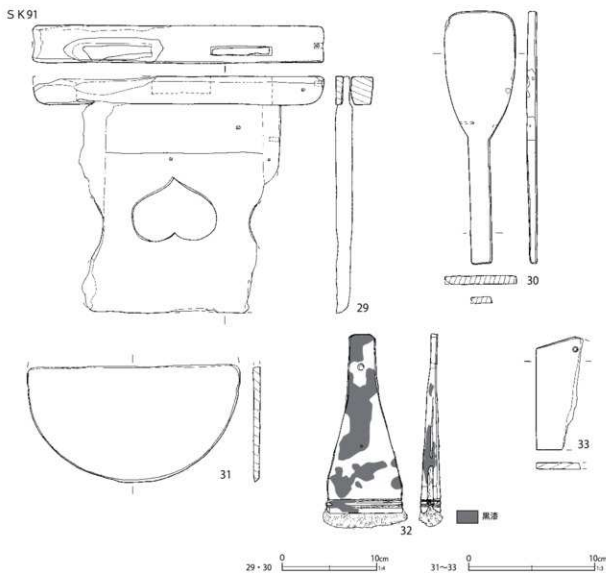


SK90



24~26 0 10cm 16~23·27·28 0 10cm

第132图 区画AC土坑出土遗物(26)



第133図 区画AC土壇出土遺物(27)

122・123は東北・北関東地方を中心に分布する頭部別造りの大型長頸壺で、所謂「すず徳利」である。いずれも頭部断面に接ぎ跡がみられ、122の外面にはトビガンナ状の施文がみられる。

第121図136は瓦質土器の脚付き火鉢である。底部無調整の砂目底で、表面は弱い酸化焙焼成により橙色気味を呈する。輪高台状の脚部には焼成前穿孔が2箇所みられる。内底面は同心円状のナデがみられ、中心付近に指頭痕状の圧痕が一周巡る。内側面下位には火箸による引っ掻き傷が残る。

第127図6はミニチュアで、羽釜である。底部に煤等の使用痕がみられなかったため、ミニチ

ュアとして扱った。底部は右回転の糸切痕が遺存し、外面下位から底部にかけて白化粧が施される。外面上位から内面にかけて透明釉が施軸される。

第131図12～15は漆碗である。13の外面には三巴の家紋が描かれ、高台内に「寛」の文字が書かれる。14は口縁部付近に稜を持つ器形である。15は外面に漆による線状の装飾がある。高台内に「甲」の文字が書かれる。第132図16・17は漆碗蓋で、揃いの漆器と考えられる。17には被熱が見られる。18・19は漆塗りの皿である。19は黒漆塗で、赤と金で文様が描かれる。底部外面に「傘」の焼印が残る。21は独楽である。

第36表 区画AC土壌出土遺物観察表(5) (第131～133図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆桶	—	—	—	12.1	5.1	9.8	横木取り	SK65	内外面赤漆 口縁部金 高台縁黒漆 炭化	127-11
2	木製品	漆桶	—	—	—	14.4	[4.7]	—	横木取り	SK65	内面赤漆 外面黒漆	127-12
3	木製品	蓋	—	—	—	5.6	3.0	—	横木取り	SK65	外面削りによる文様 銅製つまみ	127-13
4	木製品	箸	17.0	0.4	0.5	—	—	—	削出	SK65		
5	木製品	箸	17.7	0.6	0.4	—	—	—	削出	SK65		
6	木製品	箸	22.6	0.6	0.6	—	—	—	削出	SK65		
7	木製品	箸	22.6	0.5	0.4	—	—	—	削出	SK65		
8	木製品	束子	12.4	3.3	2.9	—	—	—	—	SK65	織紐を二重に巻く	
9	木製品	下駄	21.0	8.8	—	—	[2.7]	—	板目	SK65	陰印下駄 黒漆	
10	木製品	下駄	23.5	7.8	—	—	2.5	—	板目	SK65	無眼下駄 木釘残	
11	木製品	下駄	23.6	7.6	—	—	2.7	—	板目	SK65	無眼下駄	
12	木製品	漆桶	—	—	—	—	[5.5]	7.6	横木取り	SK78	下地黒色塗料 内面赤漆 外面黒漆	
13	木製品	漆桶	—	—	—	—	[6.0]	—	横木取り	SK78	内面赤漆 外面黒漆 3箇所に紋「三巴」 高台内に赤で「[」	
14	木製品	漆桶	—	—	—	(11.1)	4.4	5.4	横木取り	SK78	内外面黒漆 高台内に朱で「[」	127-16
15	木製品	漆桶	—	—	—	—	[5.0]	6.0	横木取り	SK78	内外面黒漆 高台内に朱で「[」	
16	木製品	漆桶蓋	—	つまみ径6.6	—	(12.7)	2.6	—	横木取り	SK78	内面赤漆 外面黒漆	127-17
17	木製品	漆桶蓋	—	つまみ径6.8	—	12.8	2.8	—	横木取り	SK78	内面赤漆 外面緑又は黒色の漆 被熱	
18	木製品	漆皿	—	—	—	15.7	1.5	13.0	横木取り	SK78	表裏面黒漆 炭化	128-1
19	木製品	漆皿	[9.2]	[14.4]	—	—	[0.5]	(13.7)	横木取 (板目)	SK78	内面黒漆 外面下地残存 赤と金で文様 底面に焼印「[」	
20	木製品	曲物	—	—	—	11.0	3.5	—	板目	SK78	樹皮紐 底板孔1 焼印 鉄釘穴3 銅板鉄 釘穴3 黒漆	
21	木製品	独楽	—	—	—	5.3	5.7	—	板目	SK78	鉄芯	128-2
22	木製品	将棋駒	2.5	2.0	0.6	—	—	—	板目	SK78	表面黒漆で「飛車」裏面黒漆で「龍」	128-3
23	木製品	神酒口	12.8	4.8	0.4	—	—	—	板目	SK78	扇部分に銅鍍(三巴)	128-4
24	木製品	下駄	24.5	13.4	—	—	3.4	—	板目	SK78	連歯下駄	128-5
25	木製品	下駄	23.9	8.5	—	—	2.9	—	板目	SK78	斜り下駄 表面磨板 留め金具 前穴に金 属	
26	木製品	下駄	21.8	10.5	—	—	[2.7]	—	板目	SK78	陰印下駄	
27	木製品	経木	12.4	[3.1]	0.05	—	—	—	板目	SK90	表裏面黒書 表：一石六拾四文 [] 裏： 不明	144-7
28	木製品	経木	11.8	6.0	0.08	—	—	—	板目	SK90	表裏面黒書	144-8
29	木製品	机脚部	25.0	30.8	4.0	—	—	—	板目	SK91	中央に孔	
30	木製品	不明品	26.8	7.5	0.9	—	—	—	板目	SK91	表・側面金属付着	128-9
31	木製品	曲物	—	—	0.6	16.4	—	—	板目	SK91	底板 表面黒書「梅干」	144-10
32	木製品	刷毛	15.8	6.7	1.9	—	—	—	板目	SK91	漆状の付着物 中央に鉄釘 下部両面に木 釘1つずつ	128-10
33	木製品	木札	8.7	3.5	0.5	—	—	—	板目	SK91	表面黒書「石川亀吉」	144-9

軸は鉄製である。22は将棋駒で、黒漆で「飛車」
「龍」と書かれる。23は神酒口である。三巴の銅
製の鉾が残存する。24～26は下駄である。24
は連歯下駄である。長さ24.5cm、幅13.4cmで
ある。連歯下駄の幅は9～10cm程度が主体であ
り、幅広の下駄である。台は角が落とされた形で
ある。26は陰印下駄で、台裏面の中央が窪み形
である。

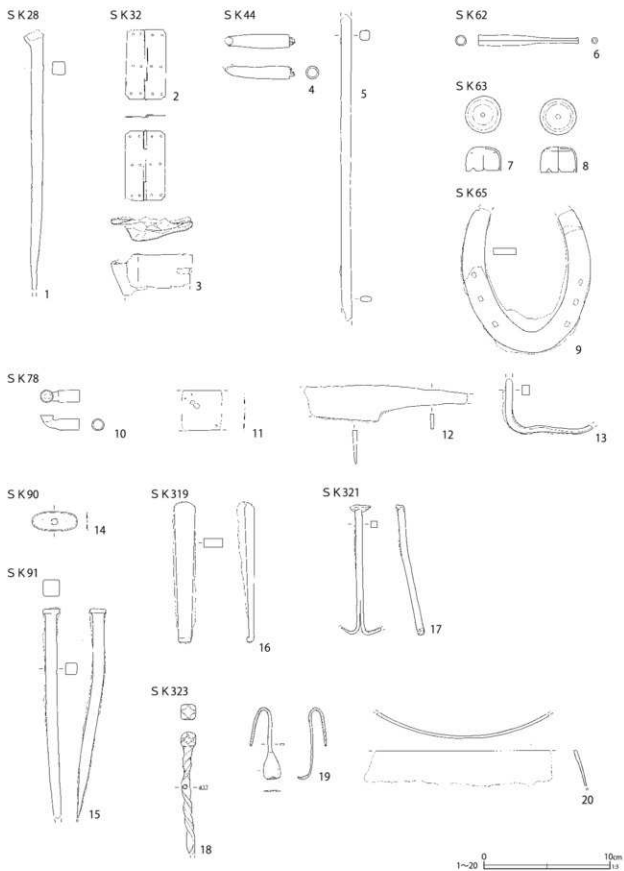
第134図10は銅製煙管の雁首である。第135

図3は文久永寶の四文銭で、初鋳年は1863年で
ある。

第136図6は白色の流紋岩製砥石である。両
側面には、中央に凸帯状の段が付くノコギリ状工
具痕がみられる。裏面や下端面には削り痕がみら
れ、刃幅の広い工具痕の可能性もある。

以上に取り上げた土壌の他にも、特徴的な遺物
が出土しているので、以下に記述していく。

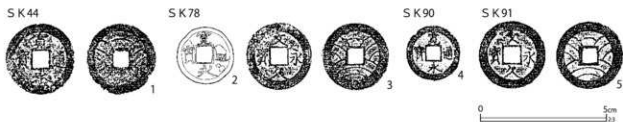
第107図3は瓦質土器の火鉢である。江戸遺



第 134 图 区西 AC 土壤出土遗物 (28)

第37表 区画AC土壌出土遺物観察表(6)(第134図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	釘か	長さ[20.7] 幅1.0 厚さ1.0 重さ96.0	SK28		
2	銅製品	螺番	長さ5.5 幅3.2 厚さ0.08 重さ3.9	SK32		
3	銅製品	不明	縦[3.3] 横[6.5] 厚さ0.1 重さ11.2	SK32	潰された状態の銅板	
4	銅製品	煙管	長さ[5.2] 小口径1.0 重さ9.8	SK44	雁首 火皿欠失 羅字残存	
5	鉄製品	不明	長さ[24.3] 幅0.8 厚さ0.4 重さ63.7	SK44		
6	銅製品	煙管	長さ7.9 小口径0.8 口付径0.5 重さ7.5	SK62	幾口	
7	銅製品	不明	径2.9×2.8 高さ1.9 厚さ0.1 重さ9.1	SK63	頂部に小孔 板の切込み5箇所	
8	銅製品	不明	径2.9 高さ2.0 厚さ0.1 重さ12.8	SK63	頂部に小孔 板の切込み5箇所	
9	鉄製品	蹄鉄	縦[11.4] 横10.2 厚さ0.5 重さ163.7	SK65	釘なし	
10	銅製品	煙管	長さ3.1 火皿径1.0 小口径0.9 重さ5.5	SK78	雁首	
11	不明	不明	縦3.2 横[3.3] 厚さ0.05 重さ4.0	SK78	錠前の一部か	
12	鉄製品	包丁	長さ[13.0] 刃長[5.9] 刃幅2.7 背幅0.4 重さ45.0	SK78		
13	鉄製品	釘か	縦[4.4] 横[7.0] 幅0.8 厚さ0.6 重さ22.6	SK78		
14	銅製品	標草入れ金具	縦1.5 横3.6 厚さ0.03 重さ1.6	SK90	袋の前金具の裏金	
15	鉄製品	釘	長さ[16.6] 幅0.9 厚さ0.9 重さ98.5	SK91		
16	鉄製品	不明	長さ11.2 幅1.5 厚さ0.7 重さ45.1	SK319		
17	鉄製品	釘	長さ[10.3] 幅0.5 厚さ0.5 重さ15.7	SK321	脚部二又	
18	鉄製品	火箸	長さ[9.7] 幅0.7 厚さ0.3 重さ14.7	SK323	箸頭面取り 持ち方損れ 中央に繋ぎ用の小孔あり	
19	銅製品	匙	長さ5.7 幅1.3 厚さ0.1 重さ3.2	SK323		
20	鉄製品	釜	径(13.5) 厚さ0.2 重さ45.9	SK323		



第135図 区画AC土壌出土遺物(29)

第38表 区画AC土壌出土遺物観察表(7)(第135図)

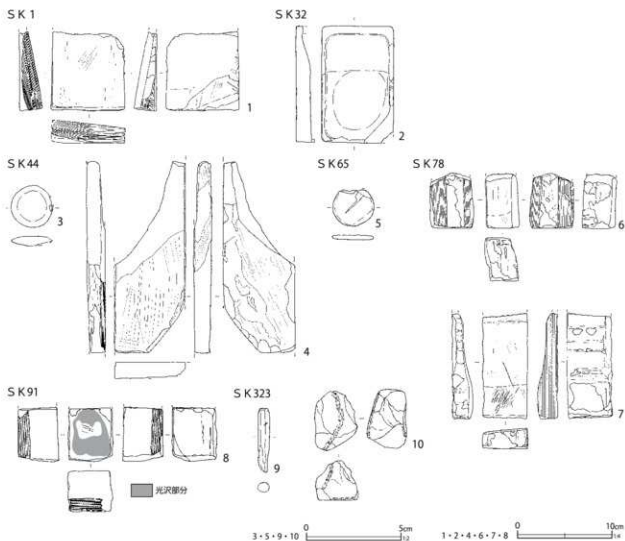
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径28.3 厚さ1.5 重さ4.3	SK44	寛永通寶(新)11枚	
2	銅製品	銭貨	径22.0 厚さ0.8 重さ1.2	SK78	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径26.7 厚さ1.2 重さ3.2	SK78	文久永寶	
4	鉄製品	銭貨	径21.8 厚さ1.1 重さ2.0	SK90	寛永通寶(新)	
5	銅製品	銭貨	径27.3 厚さ1.4 重さ3.6	SK91	文久永寶	

跡でみられる丸火鉢に類似する器形だが、円形や角形の透かし彫りがあり、器台の可能性も考えられる。10は、備前系陶器の人形徳利である。体部を2箇所凹ませ、凹みに型成形の人形を貼り付けている。外面上位は糸目状沈線がみられる。焼継痕がみられ、底部には朱書きで「□□□□/大黒屋」とみえる。

第125図159は土師質土器の把手付焙烙であ

る。底部はムシロ状の圧痕をナデ消しており、内底面に同心円状のナデがみられる。胎土に石英や小礫が多く含まれる特徴があり、遠隔地からの搬入品の可能性が高い。

第126図165は瀬戸美濃系磁器の爛徳利である。底部に墨書「舎」がみえ、第6地点区画Jの『絵図』にみえる「住吉屋/餅菓子屋/餅吉」(埴埋文2019c)、もしくは第7地点区画AK1にみえ



第136図 区画AC土壌出土遺物(30)

第39表 区画AC土壌出土遺物観察表(8)(第136図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[8.4]	7.8	2.4	183.6	粘板岩	SK1	側面ノコギリ痕 砥面2 裏面刃物痕あり	
2	石製品	碗	[12.4]	[7.6]	—	293.1	粘板岩	SK32	器高1.9cm 被熱・煤付着	
3	石製品	碁石	径2.2	0.5	3.5			SK44		138-4
4	石製品	砥石	[20.3]	7.6	1.9	396.7	粘板岩	SK44	側面ノコギリ痕 砥面4 裏・側面酸化鉄付着	139-13
5	石製品	碁石	径2.2	0.2	1.9			SK65		138-4
6	石製品	砥石	[5.8]	3.7	4.6	150.8	流紋岩	SK78	側面ノコギリ痕 裏面幅広工具痕カ・刃物痕 端部割痕 砥面3	
7	石製品	砥石	[11.2]	4.8	2.2	171.8	流紋岩(緑色)	SK78	側面ノコギリ痕 側・裏面幅広工具痕 表面刃物痕 砥面1	139-13
8	石製品	砥石	[5.7]	[4.8]	[4.3]	236.8	ホルンフェルス	SK91	側面ノコギリ痕 裏面刃物傷 砥面1 被熱(一部黒化・光沢)	
9	石製品	石筆	3.4	0.6	0.6	1.9	滑石(白)	SK323	両端使用	
10	石製品	火打石	3.2	2.3	2.1	18.0	石英	SK323	使用痕あり	

る「森田屋/炭薪商/北島半次郎」、未調査区である区画AIの『絵図』にみえる「樞鈍屋/吉左衛門」のいずれかの屋号である可能性が考えられる。

第127図1は瀬戸美濃系磁器で、極小の紅帯である。型成形で貝殻状の筋が施文される。

第130図6は軒丸瓦である。上半部が欠失しているが、「吾」の屋号を表した瓦当面である。既報告である第5地点（埴埋文2020c）に位置する「米穀糸蘭商/原勢屋/小林佐助」の屋号と同一だが、位置がかなり離れているため、第8地点内の屋号の可能性が考えられる。

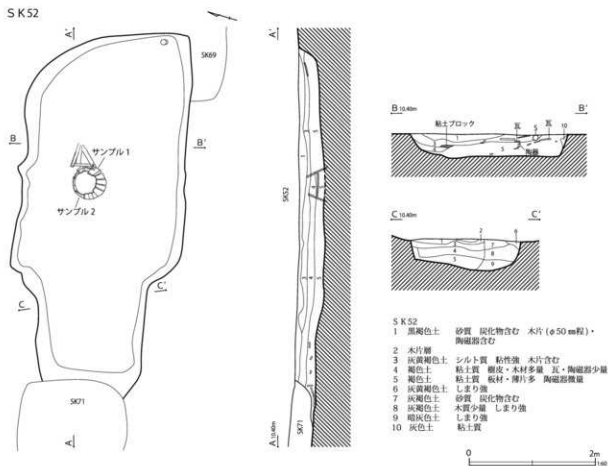
第132図27・28は経木である。27には「一石六拾四文 []」の墨書が残る。第133図29は机の脚部と考えられる。板と横木の二つの材を組み合わせている。板材には猪目の穴があけられている。30は杓子形の木製品である。受部の窪みが見られず、側面に金属の痕跡があることから、杓子としなかった。31は曲物の蓋である。墨書で「梅干」と推定される文字が書かれている。32は刷毛である。持ち手には黒漆が残り、刷毛の端部は漆が付着している。

第134図14は銅製の煙草入れ金具で、袋の前金具の裏面である。17は鉄製の頭巻釘で、先端

第40表 第一面区画AD土壌一覧表

単位：m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	方位	備考	種別
37	F7-D6	楕円形	(0.80)	0.85	0.25	N-21°-W	SK39より新	148
38	F7-D6	隅丸長方形	1.40	1.00	0.45	N-75°-E		148
39	F7-D6	楕円形	1.60	1.35	0.25	N-70°-E	SK37より古 桶3・4・7より新	148
40	F7-D6	隅丸長方形	1.80	1.55	0.40	N-70°-E	桶4より新 SK50と重複	148
41	F7-D6	楕円形	0.75	0.60	0.40	N-27°-E	埴土土壇5c・SK76より新	148
50	F7-D6	楕円形	0.70	(0.45)	0.20	N-83°-E	SK40と重複	148
51	F7-D6	円形	0.80	0.75	0.20	N-19°-W		148
52	F7-C6・D6・7	不整形	(5.75)	2.70	0.50	N-75°-E	SK69・71より古	137
53	F7-D6	隅丸長方形	(1.10)	0.70	0.80	N-70°-E	SD2より新	148
54	F7-C7	隅丸長方形	1.10	0.55	0.25	N-73°-E		148
56	F7-C7	隅丸長方形	1.60	1.50	0.40	N-15°-W	SK57より古	149
57	F7-C7	隅丸長方形	1.70	1.50	0.15	N-13°-W	SK56より新	149
58	F7-D7	隅丸長方形	2.00	1.35	0.70	N-75°-E		149
59	F7-C・D7	隅丸長方形	2.90	2.40	0.25	N-73°-E	SK69と重複	149
66	F7-D7	隅丸長方形	1.50	0.75	0.45	N-70°-E	SD2より新	149
69	F7-D7	不明	1.70	(0.85)	0.10	N-76°-E	SK52より新 SK59と重複	149
71	F7-D6	隅丸長方形	1.70	1.50	0.35	N-18°-W	SK52より新	150
76	F7-D6	隅丸長方形	0.80	0.75	0.40	N-45°-W	SK41より古 埴土遺構5cと重複	148
247	F7-D7・8	隅丸長方形か	3.80	(0.80)	0.20	N-73°-E	SD2より新	150
280	F7-C7・8	隅丸長方形	1.75	1.60	0.70	N-73°-E	SK289より新	150
281	F7-C8	隅丸長方形	1.20	1.00	0.50	N-28°-W	SK300より新	150
284	F7-C8	隅丸長方形	2.65	2.30	0.35	N-20°-W	SK292より古 SK317・328より新 SK293と重複 SK288と隣接	151
288	F7-C7・8	隅丸長方形	2.90	1.20	0.50	N-68°-E	SK317より新 杭列3・SK284と重複	151
289	F7-C7	不整形	1.70	0.70	0.35	N-18°-W	SK280より古	150
292	F7-C8	隅丸長方形	1.25	0.75	0.65	N-20°-W	SK284より新	151
293	F7-C8	隅丸長方形	1.20	0.60	0.25	N-20°-W	SK317より新 SK284と重複	151
294	F7-C7・8	隅丸長方形	1.10	0.95	0.20	N-23°-W		150
300	F7-C・D8	楕円形	1.95	1.05	0.10	N-77°-E	SK281より古	150
317	F7-C8	不整形	(1.65)	0.70	0.45	N-70°-E	SK284・288・293より古	151
324	F7-C8	隅丸長方形	1.50	1.30	0.85	N-73°-E		150
328	F7-C8	楕円形	0.65	0.50	0.15	N-53°-W	SK284より古	151



第137図 区画AD土壌(1)

が二股となっている。20は鉄釜の口縁部である。

第136図1は粘板岩製の砥石で、側面に極めて密なノコギリ状工具痕がみられる。8はホルンフェルス製の砥石で、側面に極めて密なノコギリ状工具痕がみられる。被熱し、砥面は一部黒化・光沢が認められる。

④区画ADの土壌(第137～178図)

区画ADは第3号杭列・第1号溝跡より南、第2号溝跡より北に位置し、『絵図』にみえる「煮賣屋/兵藏」、『営業便覧』にみえる「田口龍太郎」の区画である。『営業便覧』の時期には隣接する区画ACを含めた一つの区画となっている。

土壌は31基検出された。うち第53・66・247号土壌は第2号溝跡と重複する。遺構は調査区の中央から東側に集中し、西側には大きく空間ができています。大型土壌が数基みられるが、多くは中・

小型の土壌である。平面形態は長方形・方形が多く、長軸方向は日光道中と直交・平行のいずれかだが、傾向は掴み難い。また、出土遺物については、煮賣屋に関わるような釘書き資料は見出せなかったが、第52号土壌は碗・坏類が豊富であることから煮賣茶屋的な様相がみえる。

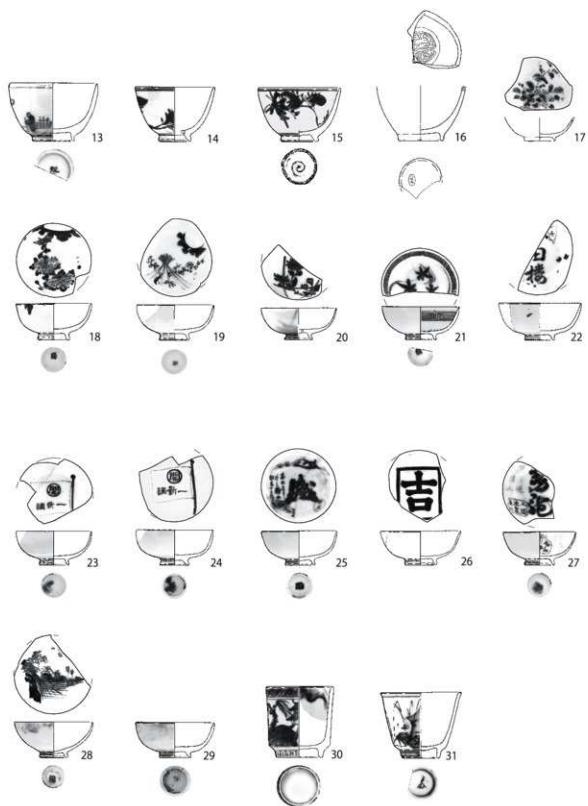
第40表に位置・規模等の基本的な情報を示した。

本区画で抽出した土壌は、第52号土壌である。先行して第137図に遺構図、第138～147図に遺物図を示した。また、非抽出となった土壌は第148～151に遺構図、第152～177図に遺物図を示した。

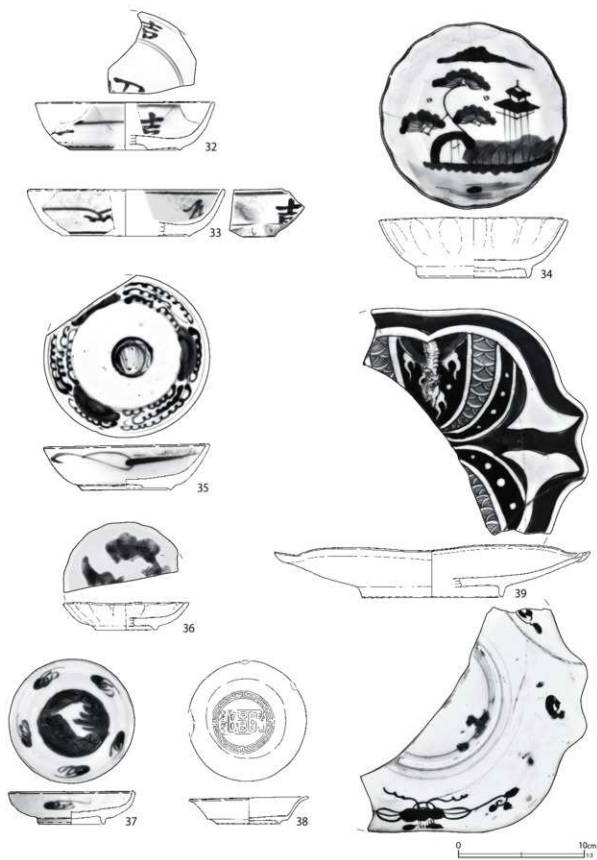
非抽出の土壌については、特徴的な土壌・遺物について記述していく。



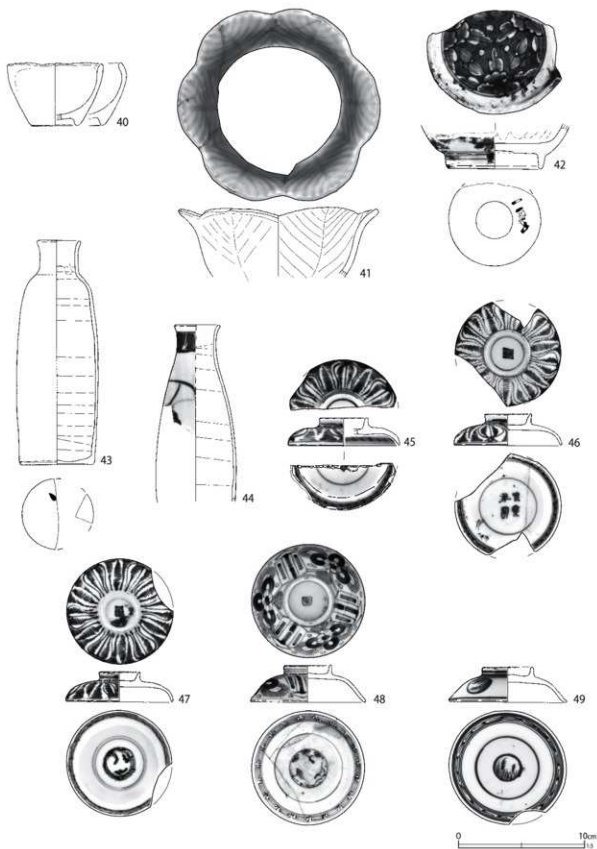
第138图 第52号土坑出土遗物(1)



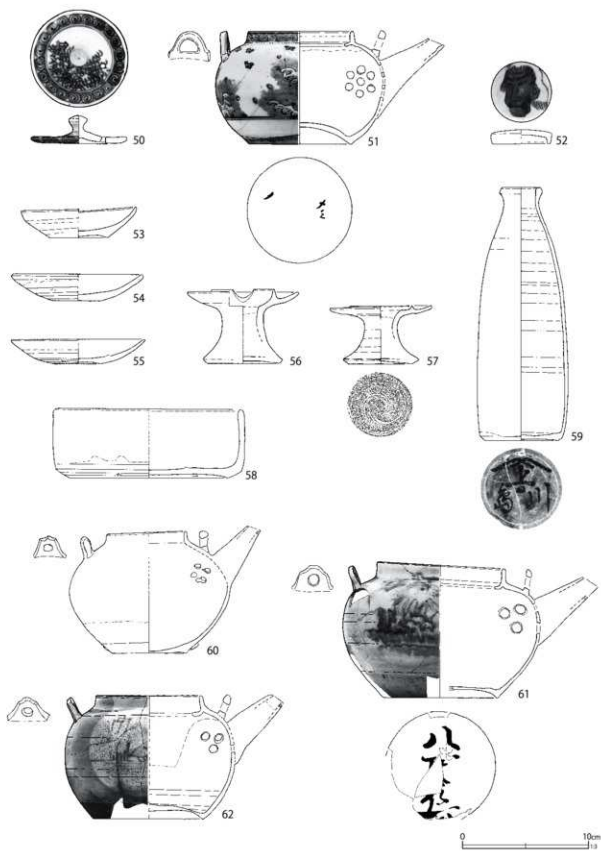
第 139 图 第 52 号土壙出土遗物 (2)



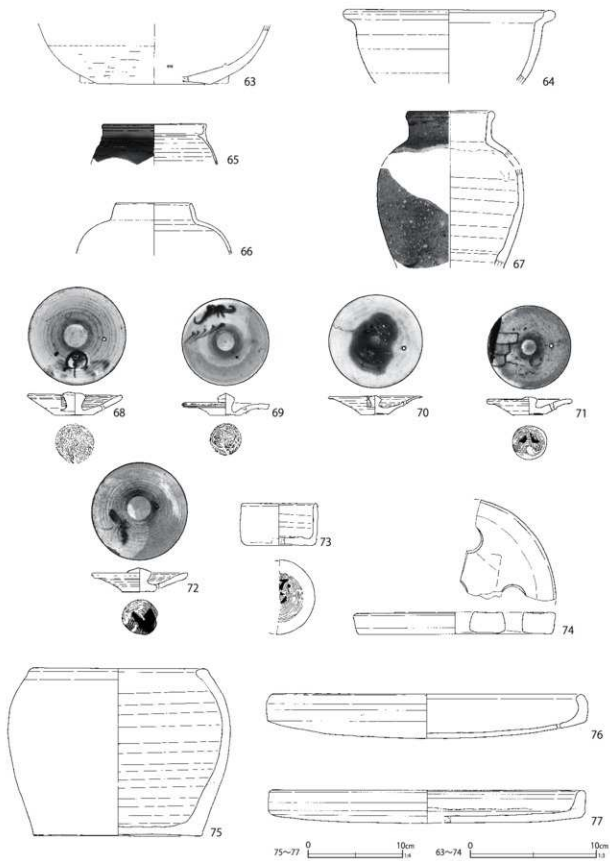
第140图 第52号土坑出土遗物(3)



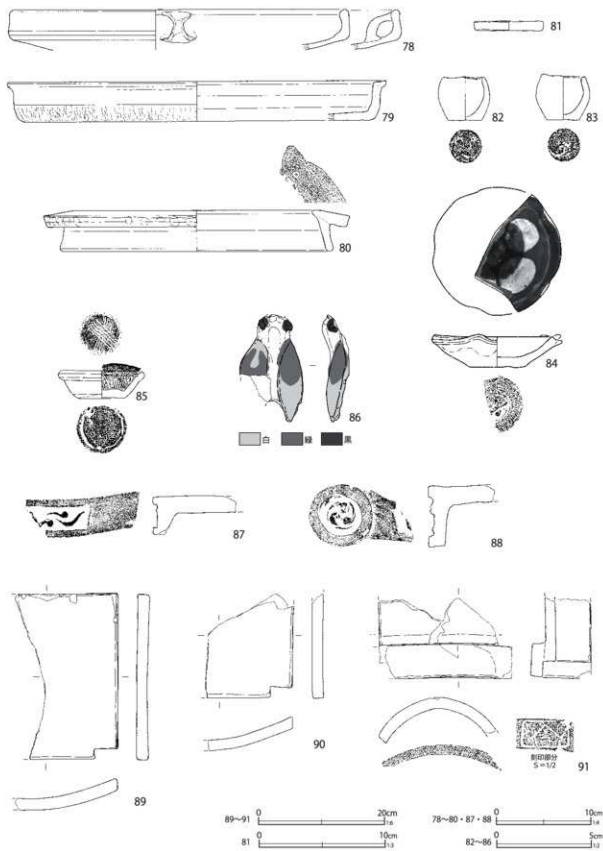
第 141 图 第 52 号土壙出土遗物 (4)



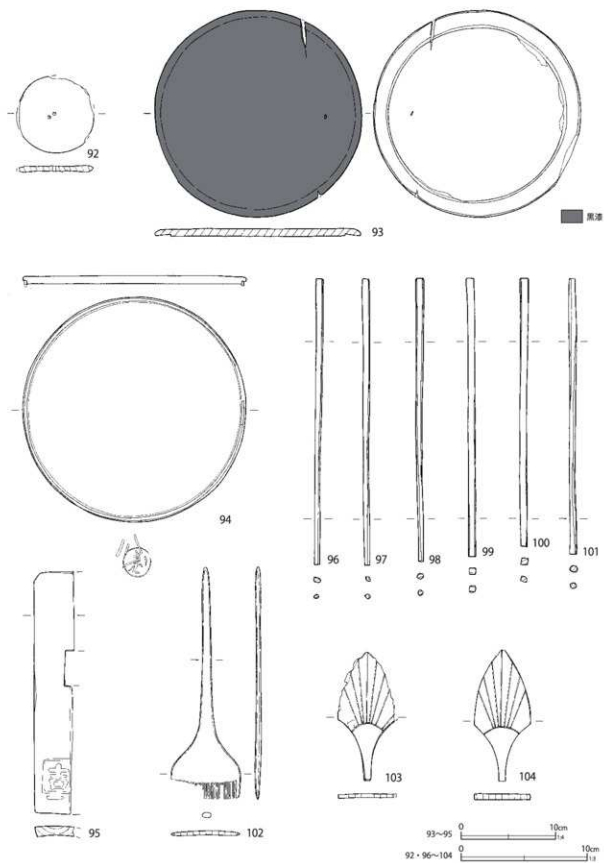
第142图 第52号土坑出土文物(5)



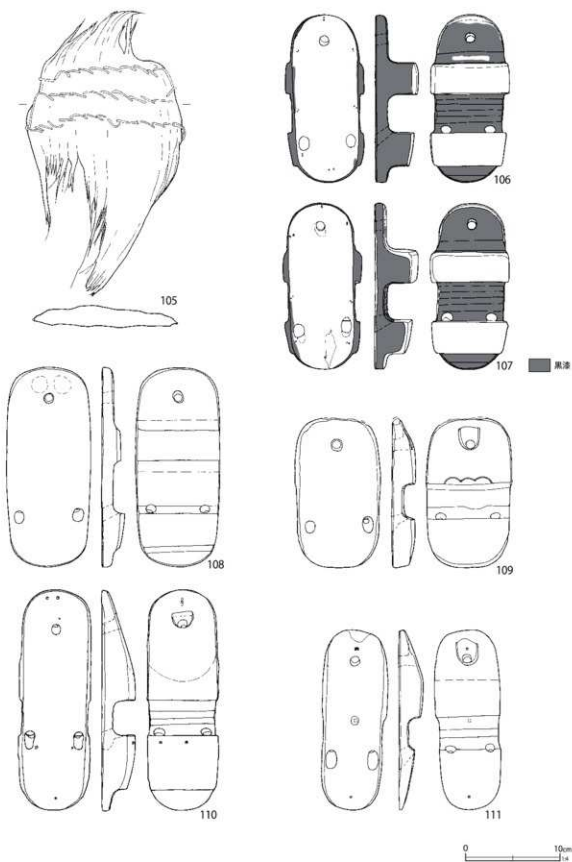
第 143 图 第 52 号土壙出土遺物 (6)



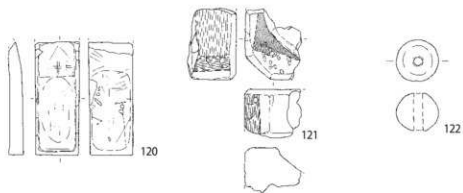
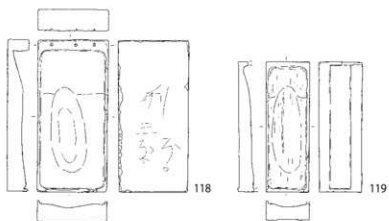
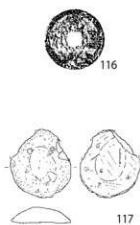
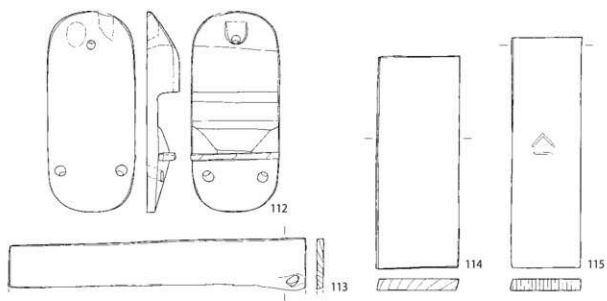
第144图 第52号土坑出土遗物(7)



第 145 图 第 52 号土坑出土遗物 (8)



第146图 第52号土壙出土遺物(9)



第147图 第52号土坑出土遗物(10)

第41表 第52号土坑出土遺物観察表(第138～147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.3)	6.1	3.5	—	35	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼継印(赤)	73-1
2	磁器	碗	10.3	5.7	4.1	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 同文別個体1あり	73-2
3	磁器	碗	(9.3)	5.3	(3.4)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅	
4	磁器	碗	10.0	5.9	3.7	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 内面上位陰刻文	
5	磁器	碗	10.6	5.7	3.5	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
6	磁器	碗	10.7	6.0	3.6	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
7	磁器	碗	—	[2.5]	(4.0)	—	10	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼継印(赤)	72-11
8	磁器	碗	(9.8)	5.2	3.5	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	
9	磁器	碗	(10.8)	[4.0]	—	—	15	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 染付 被熱 欠失部二次利用カ	
10	磁器	碗	(6.2)	4.9	3.1	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 被熱(弱)	
11	磁器	碗	6.8	5.5	3.3	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱(弱)	
12	磁器	碗	6.8	4.9	2.8	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 同文別個体1あり	
13	磁器	碗	(6.8)	4.6	3.2	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
14	磁器	碗	(6.2)	4.3	(2.4)	K	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 渦巻高台	
15	磁器	碗	6.4	4.2	2.8	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面被熱	
16	磁器	坏	—	[4.3]	3.4	K	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押陰刻文 高台内刻印「カワラ」カ	72-20
17	磁器	坏	—	[1.9]	2.4	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面上給付(赤・緑・黒・黄・青緑) 被熱(弱)	
18	磁器	坏	5.9	2.9	2.4	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)	
19	磁器	坏	(6.0)	2.8	2.4	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)・(赤「中田」)	
20	磁器	坏	(5.9)	2.5	(2.1)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青が黒化)	
21	磁器	坏	6.1	2.6	2.4	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)	
22	磁器	坏	(6.5)	2.9	(2.2)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青)	72-12
23	磁器	坏	5.9	2.7	2.2	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青) (◎/一新講)	72-13
24	磁器	坏	(6.0)	2.8	2.1	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青) (◎/一新講)	72-14
25	磁器	坏	(5.9)	2.7	2.3	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青・金)「名酒/原勢製/醸造/盛」	72-15
26	磁器	坏	(6.3)	2.7	2.4	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青) (国)	72-16
27	磁器	坏	(5.7)	2.6	2.3	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上給付(青・金)「名酒/原勢製/醸造/盛」	72-17
28	磁器	坏	6.1	2.8	2.0	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付・煤付着 内面上給付(青)	
29	磁器	坏	6.1	2.8	2.4	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 同文別個体1あり	
30	磁器	坏	(5.2)	5.6	3.7	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付 腰部輪割落	
31	磁器	坏	6.3	5.2	2.8	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
32	磁器	皿	(14.0)	2.8	(8.6)	—	35	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付文字「吉/田」	67-2
33	磁器	皿	(15.4)	3.7	(10.0)	—	10	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 内面染付文字「吉[田]屋」 蛇/目凹形高台 被熱(弱)	66-12
34	磁器	皿	14.7	4.7	8.6	—	100	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅	
35	磁器	皿	12.9	3.6	7.0	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
36	磁器	皿	(9.5)	2.2	(4.8)	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面染付・型押陰刻文	
37	磁器	皿	9.7	2.6	5.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 内面型押陰刻文	
38	磁器	皿	9.4	2.1	5.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押陰刻文	
39	磁器	皿	(24.8)	4.1	(11.0)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり	
40	磁器	鉢	(7.3)	5.0	(3.4)	—	40	良好	灰白	三田系カ 内外面青磁軸 口縁部至まる巻 渦巻高台	
41	磁器	鉢	15.4	[4.7]	—	—	95	良好	白	肥前系カ 型成形 内外面青磁軸・陰刻文	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
42	磁器	鉢	—	[3.6]	7.2	—	90	良好	白	肥前系 内外面青磁釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)・輪状重燒痕 煤付着	
43	磁器	燗德利	3.2	17.6	5.6	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉 頸部隆起線 底部墨痕 同製品別個体2あり	
44	磁器	燗德利	3.4	[13.9]	—	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 焼継痕あり 同文別個体1あり	
45	磁器	蓋	(3.6)	2.2	(8.7)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 欠失部二次利用(割離・潰れ)	
46	磁器	蓋	3.6	2.5	8.4	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり	
47	磁器	蓋	3.1	2.3	8.4	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
48	磁器	蓋	3.6	2.9	8.9	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
49	磁器	蓋	3.9	2.9	9.2	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
50	磁器	蓋	—	2.2	5.7	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 上・下面施釉 上面酸化コバルト染付 最大径7.6cm	
51	磁器	土瓶	8.1	8.9	8.1	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉(軸白濁) 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)	
52	磁器	蓋	—	1.1	4.6	—	100	良好	白	肥前系 内外面施釉 上面染付	
53	陶器	灯明皿	9.0	2.2	4.6	IK	90	良好	灰白	内外面灰釉 外面上位タール付着 口縁部歪む	
54	陶器	灯明皿	10.2	2.1	3.8	IK	75	普通	にぶい黄橙	瀬戸美濃系 内外面施釉 体部下位軸拭き取り	
55	陶器	灯明皿	(10.5)	1.9	(3.6)	K	30	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 内面ビン痕1 遺存 外面上位タール付着	
56	陶器	灯火具	4.9	5.8	5.8	IK	85	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 底部輪状重燒痕 被熱(弱) 最大径(8.8)cm	
57	陶器	灯火具	4.9	4.6	5.1	—	85	良好	灰白	内外面灰釉(軸白色化) 底部糸切痕(中心・左) 最大径8.1cm	
58	陶器	産物	14.5	5.5	12.5	IK	90	良好	灰	内外面灰釉 内面ビン痕3 被熱	
59	陶器	燗德利	2.9	20.0	7.3	IK	60	良好	灰白	京都信楽系 外面灰釉 底部墨書「△」川島	72-18
60	陶器	土瓶	6.1	10.0	5.9	IK	95	良好	灰白	外面青緑釉 裏胎部煤付着 脚3	
61	陶器	土瓶	9.9	10.7	9.1	IK	90	良好	灰白	外面灰釉・白土染付 底部墨書「八百兵」カ	72-19
62	陶器	土瓶	8.2	9.8	8.6	IK	90	普通	灰白	外面施釉・白土染付 体部下位・底部煤付着	
63	陶器	鍋	—	[4.8]	(9.0)	IK	10	普通	にぶい黄橙	松岡系カ 内外面鉄釉 外面ケズリ 内面長方形目跡2 遺存	
64	陶器	鍋	(16.0)	[5.8]	—	EIK	10	普通	橙	松岡系 内外面海鼠釉	
65	陶器	急須	(8.0)	[3.3]	—	—	20	良好	灰白	胎土拓器質 外面中位烽70の身	
66	陶器	土瓶カ	(5.8)	[4.1]	—	IK	20	良好	明焼灰	胎土拓器質 外面施釉 被熱カ(軸白濁)	
67	陶器	壺	(6.5)	[12.4]	—	EK	10	良好	灰白	信楽系 外面輪軸 胎土石英 接点のない3片から復元 SK148・226と接合	
68	陶器	蓋	—	3.1	3.2	I	95	普通	灰白	底部糸切痕 上面施釉・絵付(緑・白・青・茶) 最大径7.5cm	
69	陶器	蓋	—	1.7	2.5	IK	100	良好	灰白	底部糸切痕 上面灰釉・白土染付 穴は軸で塞がる 下面墨痕 最大径6.9cm	
70	陶器	蓋	—	1.5	2.3	—	100	良好	にぶい黄橙	胎土拓器質 上面部分的に施釉 底部糸切痕ナゲ酒し 65の蓋 最大径7.4cm	
71	陶器	蓋	—	1.4	2.7	K	100	良好	灰白	底部糸切痕(左)・墨書「八」 上面灰釉・白土染付 最大径6.8cm	73-3
72	陶器	蓋	—	1.9	2.8	IK	100	良好	灰白	底部糸切痕(右)・墨痕 上面施釉・緑釉・鉄絵・白土 最大径7.6cm	
73	陶器	銅入れ	(5.8)	3.3	(5.0)	IK	45	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 底部糸切痕・墨痕	
74	瓦質土器	目皿	(15.6)	1.8	(15.4)	CIK	20	普通	灰白	下面砂目 煤ナ	
75	瓦質土器	火消壺	(18.0)	17.7	17.8	CIK	70	普通	灰白	砂目底・板状圧痕 煤ナ 内面上位煤付着 被熱(剥落)	
76	土師質土器	焙塔	(32.4)	[4.7]	(33.8)	CHK	25	普通	にぶい橙	砂目底 体部下位ケズリ 体部煤付着 補修痕1 遺存 接点のない5片から復元	
77	土師質土器	焙塔	32.7	3.4	32.9	HIK	75	普通	灰白	底部シワ状痕 全面に黄灰色付着物 煤付着	
78	土師質土器	焙塔	(35.0)	[4.2]	(35.0)	EIK	25	普通	灰白	底部シワ状痕 体部下端ケズリ 内耳1遺存 外面煤付着	
79	瓦質土器	焙塔	(39.7)	4.2	(36.7)	CMHK	5	普通	にぶい橙	底部・体部下位シワ状痕 内耳極僅かに遺存	67-1
80	瓦質土器	壺罍	(24.4)	4.4	(28.0)	CI	30	普通	にぶい橙	煤ナ 内面煤付着 剥落著しい 上面刻印「〇」	
81	土師質土器	蓋	5.4	0.7	5.5	AHK	100	普通	浅黄橙	江戸在地系 胎土粉質 焼成色の蓋	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
82	土師質土器	小壺	2.1	2.3	1.8	AIK	—	普通	にぶい暗	底部糸切痕(左) 重さ9.2g	121-14
83	土師質土器	小壺	2.2	2.4	1.8	AIK	—	普通	にぶい暗	底部糸切痕(左) 重さ10.3g	121-14
84	施釉土器	皿	(6.1)	1.7	(3.2)	CHI	45	普通	橙	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面透明釉 内面白土・緑釉 重さ13.0g	117-11
85	土製品	ミニチュア	4.4	1.5	2.5	—	—	良好	橙	江戸在地系 摺鉢 胎土粉質 底部糸切痕(左) 内外面鉄化被 被熱・煤付着 重さ9.6g	117-12
86	土製品	人形	長さ5.7 幅3.4 厚さ0.9 重さ9.9			AIK	—	良好	橙	江戸在地系 獅一枚型成形 中実 上面施釉・白土・緑釉	117-13
87	瓦	軒椼瓦	長さ[8.8] 幅[12.1] 厚さ1.8 高さ[5.8]			ADIK	—	良好	灰白	江戸式 一部銀化 燻す	
88	瓦	軒椼瓦	長さ[6.9] 幅[12.0] 厚さ1.8 高さ[7.6] 径6.8			AIK	—	良好	灰白	右巻三巴文 燻す 粗雑なつくり 上面ミガキ状の光沢 粒径2~3mmの黒色粒子多量	
89	瓦	椼瓦	長さ26.6 幅[16.4] 厚さ1.9 高さ5.1			ADIK	—	良好	灰白	銀化 燻す 煤付着	
90	瓦	椼瓦	長さ[16.6] 幅[13.6] 厚さ1.8 高さ[5.7]			AIK	—	良好	灰白	銀化 燻す	
91	瓦	道具瓦	長さ[12.8] 幅[21.4] 厚さ3.9 高さ7.3			HIK	—	良好	灰白	銀化 燻す 刻印あり「長門」「倉」雲母・煤付着	123-18 124-15
92	木製品	曲物	厚さ0.5 径6.2							蓋 表面墨書 表面に漆付着 中央に木釘 板目	143-15
93	木製品	蓋	厚さ0.8 径21.8							表面黒漆 釘穴1板目	
94	木製品	蓋	径23.6 高さ0.9							銅板残存 裏・裏黒漆 表に焼印「△」「◎」板目	
95	木製品	樽	長さ25.6 幅[4.3] 厚さ1.1							銅板 焼印「田」板目	
96	木製品	箸	長さ22.7 幅0.5 厚さ0.5							削出し	
97	木製品	箸	長さ22.2 幅0.4 厚さ0.4							削出し	
98	木製品	箸	長さ22.4 幅0.5 厚さ0.5							削出し	
99	木製品	箸	長さ22.0 幅0.5 厚さ0.5							削出し	
100	木製品	箸	長さ21.2 幅0.6 厚さ0.6							削出し	
101	木製品	箸	長さ21.8 幅0.6 厚さ0.5							削出し	
102	木製品	箸	長さ18.3 幅5.5 厚さ0.4							板目	
103	木製品	神酒口	長さ[10.1] 幅[4.4] 厚さ0.3							板目	
104	木製品	神酒口	長さ10.3 幅4.4 厚さ0.5							板目	
105	木製品	筥	長さ30.1 幅17.0 厚さ1.9								
106	木製品	下駄	長さ17.6 幅7.2 高さ4.5							漆面下駄 黒漆 墨書「二乙」表外周釘穴 107と一対板目	143-14
107	木製品	下駄	長さ17.6 幅7.1 高さ4.6							漆面下駄 黒漆 106と一対板目	
108	木製品	下駄	長さ21.2 幅8.9 高さ2.4							漆面下駄 板目	
109	木製品	下駄	長さ[15.8] 幅9.0 高さ2.5							判り下駄 板目	
110	木製品	下駄	長さ23.3 幅6.7 高さ3.3							判り下駄 板目	
111	木製品	下駄	長さ19.0 幅7.0 高さ2.5							判り下駄 木釘・鉄釘残 板目	
112	木製品	下駄	長さ21.2 幅9.3 高さ3.4							後部下駄 板目	
113	木製品	板	長さ[5.5] 幅31.5 厚さ0.7							表裏面墨書 板目	
114	木製品	木札	長さ16.8 幅6.5 厚さ0.9							表面墨書 人の顔の絵か 板目	
115	木製品	木札	長さ18.1 幅5.5 厚さ0.9							焼印 裏面に墨書 板目	
116	銅製品	銭貨	径24.6 厚さ1.6 重さ3.1							寛水通寶(古)	
117	石製品	磨石	長さ7.2 幅6.4 厚さ1.6 重さ28.3							角閃石安山岩 多孔質 自然面遺存 使用面1 被熱・煤付着	140-3
118	石製品	硯	長さ16.2 幅7.5 重さ379.5							凝灰岩 器高2.2cm 表面穿孔(貫通無し) 3 裏面刻書 黒色塗布物付着	141-2
119	石製品	硯	長さ13.8 幅4.6 重さ241.3							粘板岩 器高2.0cm 墨付着	141-2
120	石製品	硯	長さ[12.0] 幅4.7 重さ193.1							粘板岩 器高[1.5]cm 両面刃物傷 黒色塗布物付着	141-2
121	石製品	燈台	長さ[11.4] 幅[9.1] 厚さ[7.8] 重さ459.0							凝灰岩 軟質 側・上面ノコギリ痕 上面刺突状痕・幅広工具痕 被熱・煤付着	138-6
122	硝子製品	臂の玉	長さ2.3 径2.0 厚さ2.0 重さ17.3							被熱 透明 孔径0.5cm	142-2

第52号土壇図(第137～147図)

F7-C6・D6・D7グリッドに位置し、第69・71号土壇より古い。平面形は不整形で、検出長軸5.75m、短軸2.7m、深さ0.5mを測る大型の土壇である。長軸方位はN-75°-Eを指す。

板材・樹皮等の木質が多量に投棄されており、粘土質な土が主体である。最上層は炭化物を含む砂質土である。土壇の中央では桶が検出されているが、投棄されたものと考えられる。

出土遺物は極めて多量である。ゴム判染料付磁器、多色刷り銅版転写染料付磁器がみられるが、遺構の規模と重複関係から混入と考えられる。酸化コバルト染料付磁器は少量みられるが、型紙摺絵染料付磁器がないことから、遺構に伴うと考えられる。推定廃絶期は19世紀後葉、具体的には1870～1880年代と考えられる。

第138～147図に出土遺物を図示した。陶磁器類は碗・坏類が非常に多く、土瓶、燗徳利もみられ、煮賣茶屋のような様相が垣間見える。

第138図1・2・7は肥前系、3～6は瀬戸美濃系磁器の端反形碗である。1・2・7には朱書きの焼継印がみられ、長い間使用されていたことが窺える。4の内面上位には陰刻文染付がみられ、5は高台内の削り込みが深い特徴がある。2は非掲載遺物に同文製品が1個体みられる。

8は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、酸化コバルト染付が施される。

10は瀬戸美濃系、11は肥前系磁器の湯呑形小碗である。いずれも弱く被熱し、11は腰が張り、高台内の削り込みが深い。

12・第139図13～15は瀬戸美濃系磁器の小碗である。見込みに絵付けがみられないため碗として扱った。12は非掲載遺物に同文製品が1個体みられる。13は高台内の削り込みが深く、底面が薄い特徴がある。14・15は同文の酸化コバルト染付がみられ、底部の造りも同じである。露

胎の渦巻高台がみられる。

16は瀬戸美濃系磁器で木型打ち込み成形の坏である。内面に陰刻文がみられ、底部には刻印「カワラ」がみえる。地方窯系の可能性も考えられる。

17は肥前系、18～29は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。瀬戸美濃系の製品は高台畳付けに段が付く。17は輪高台で、極めて薄い。内面には赤・緑・黒・黄・青緑と多彩な上絵付が施される。

23・24は見込みに江戸絵付けで、旗の中に「㊦」、「一新講」の文字がみえる。「一新講」とは、明治六年(1873)に東海道筋の宿屋を中心に設立された「講」である。

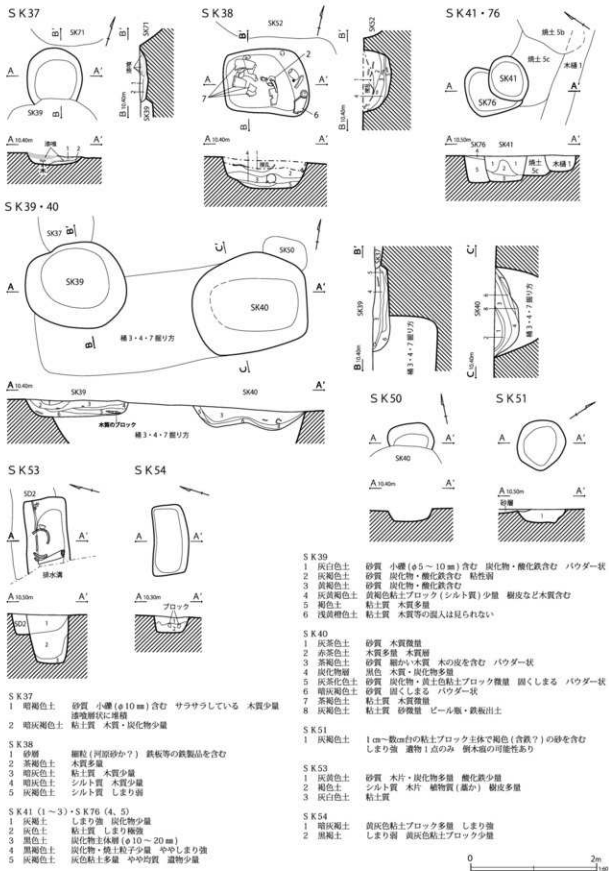
25は見込みに江戸絵付けで、「名酒/原勢製/醸造/盛」の銘がみえる。「原勢製」は第5地点に位置する『営業便覧』にみえる「原勢屋/米穀余蘭商/小林佐助」を指すと考えられる。「盛」は近隣の酒造では比企郡小川町に大正二年(1913)頃創業の「松盛」、市川市に「関東盛」、東松山市に明治三十九年(1906)創業の「敷島盛」がある。しかし、「原勢製」の銘のように販売する酒屋を示したものもあるため、必ずしも酒造を示すとは限らないことを留意したい。

26は見込みに江戸絵付けで「固」がみえる。既報告である本陣跡(埴理文2019a)や第3地点(埴理文2018b)でみられる屋号で、安政二年(1855)に編纂された『東講商人鑑』に「固」、「酒造店/原瀬屋/勘兵衛」とあり、これを示す可能性がある。

30は瀬戸美濃系磁器の筒形坏である。酸化コバルト染付が施され、腰部の釉が剥落している。

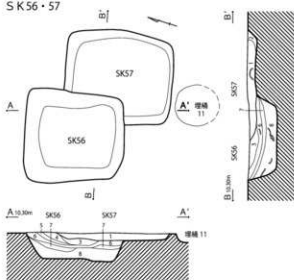
31は瀬戸美濃系磁器の端反形坏である。酸化コバルト染付が施され、体部は屈曲するように立ち上がり、鐮状文が施される。

第140図32・33は肥前磁器の五寸皿である。高台高が低い蛇ノ目凹形高台で、32は内面に染付銘「吉/田」、33は「吉[田]屋」がみえる。

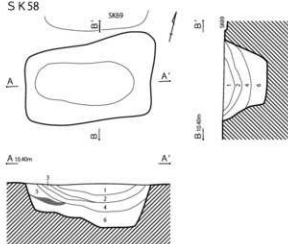


第148図 区画AD土壌(2)

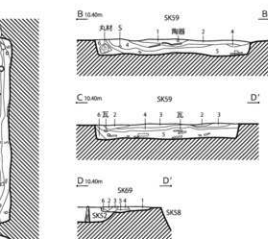
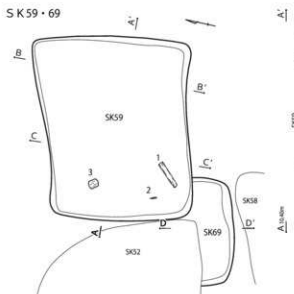
SK56・57



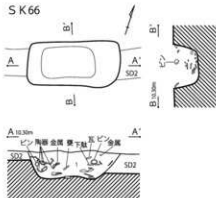
SK58



SK59・69



SK66



SK66

1 暗灰褐色土 しまり礫面 粘性強 炭化物多量

SK56 (3-8)・SK57 (1, 2)

- 1 黒褐色土 シルト質土主体 礫土・炭化物を部分的に懸状
- 2 灰褐色土 シルト質 炭化物少量 しまり面
- 3 暗灰褐色土 灰粘土多量 炭化物少量 しまり強 遺物含む
- 4 灰褐色土 均質 しまり礫面 ブロック状
- 5 暗灰色土 炭化物粒子多量 砂質
- 6 灰白色土 シルト質 しまり弱 均質
- 7 暗褐色土 一部炭化した木片多量
- 8 暗灰褐色土 シルト質 比較的均質 炭化物少量 遺物多量

SK58

- 1 灰褐色土 砂質 しまり弱 陶器片少量 プラスチック含む
- 2 黒褐色土 砂質 木材・樹皮多量 瓦少量
- 3 灰白色土 粘土質 水漬痕入 しまり弱
- 4 灰黄褐色土 シルト質 木片少量
- 5 灰色土 シルト質 しまり強
- 6 灰褐色土 粘土質 木片混入 遺物少量

SK59

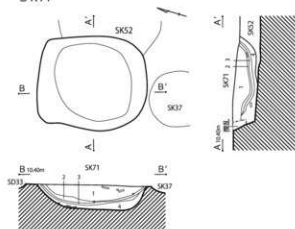
- 1 暗灰褐色土 均質 炭化物少量 しまり強 遺物(陶器、板硝子)含む
- 2 黒色土 粘性強 極めて多量の炭化物を懸状に含む しまり礫面
- 3 暗灰褐色土 やや砂質 炭化物含む しまり強
- 4 暗灰褐色土 粘性強 木片少量 部分的に砂礫が見られる しまり弱
- 5 暗褐色土 礫皮炭化物(砂)多量 しまり弱 板材等少量
- 6 暗灰色土 しまり弱 粘性強 部分的に大型の木材等を含む

SK69

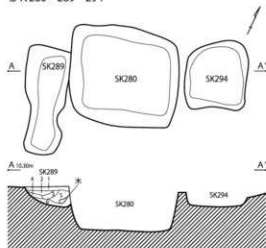
- 1 黒褐色土 砂質 炭化物少量 しまり強 瓦含む
- 2 黒褐色土 砂質 炭化物含む
- 3 黄褐色土 シルト質
- 4 黒褐色土 シルト質 炭化物少量
- 5 灰白色土 粘土質 白色粘土ブロック少量
- 6 水漬層 別遺構か

第149図 区画AD土壇(3)

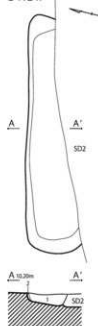
S K 71



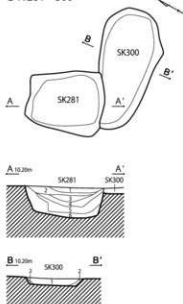
S K 280・289・294



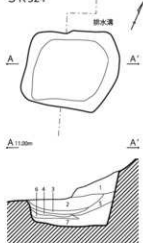
S K 247



S K 281・300



S K 324



S K 71

- 1 灰褐色土 砂質 しまり面 瓦含む
- 2 赤褐色土 粘土質 木質多量
- 3 灰黄褐色土 シルト質 しまり面
- 4 黒色土 粘土質 木質・木製品多量

S K 247

- 1 暗褐色土 糠皮片極多量 木片少量
- 2 暗灰色土

S K 281

- 1 灰黄色土 砂質 炭化物少量 漆喰混入
- 2 暗褐色土 粘土質 木質多量
- 3 浅黄褐色土 粘土質 木質少量
- 4 褐色土 粘土質 木質主体層
- 5 灰褐色土 粘土質 炭化物・木質少量
- 6 灰色土 粘土質 炭化物・木質微量

S K 289

- 1 灰褐色土 砂質 酸化鉄・炭化物少量
- 2 灰褐色土 シルト質 炭化物含む 円形の浅黄褐色粘土ブロック(φ10mm)含む
- 3 黄褐色土 粘土質 酸化鉄含む 円形の浅黄褐色粘土ブロック(φ10mm)含む
- 4 灰褐色土 粘土質 酸化鉄・炭化物少量 円形の浅黄褐色粘土ブロック(φ10mm)含む
- 5 灰褐色土 粘土質 酸化鉄微量 木質少量
- 6 灰褐色土 粘土質 炭化物含む

S K 300

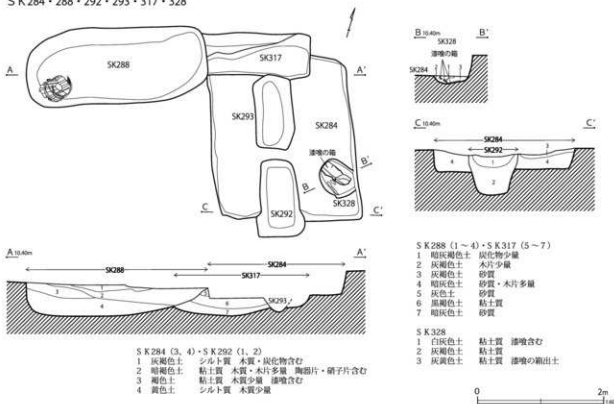
- 1 灰褐色土 砂質 瓦多量
- 2 黄褐色土 砂質

S K 324

- 1 灰黄色土 砂質 炭化物少量
- 2 灰褐色土 粘土質 炭化物微量
- 3 暗褐色土 粘土質 木質多量
- 4 暗褐色土 粘土質 木質多量 炭化物混入
- 5 黒色土 粘土質 炭化物多量 陶磁器片出土
- 6 暗褐色土 粘土質 木質多量 ゴミ混入・木片含む
- 7 黒色土 粘土質 炭化物・木質多量 硝子瓶出土



第150図 区画AD土壇(4)



第151図 区画AD土壌(5)

同じ「吉」の字がみえるため、別個体である。区画AEの「旅籠屋/太左衛門」が注文生産し、所有していたものと考えられる。33は弱く被熱する。

38は瀬戸美濃系磁器の木型打ち込み成形のすり皿である。内面に型押し陰刻文がみられる。

第141図40は青磁釉の鉢で、濃い青磁釉の釉調から三田系の可能性が考えられる。口縁部を歪ませ、底部は渦巻高台である。41は肥前系磁器の青磁釉鉢である。型成形で、内外面に葉脈状の陰刻文が施文される。

42は肥前系磁器の鉢である。青磁釉に染付が施される。焼継痕がみられ、底部に朱書きで焼継印が認められる。蛇ノ目凹形高台で、高台内に輪状の重ね焼き痕がみられる。被熱によるものか、煤が付着する。

43・44は瀬戸美濃系磁器の欄徳利である。43の頸部には隆線が1条廻り、底部に墨痕がみられ

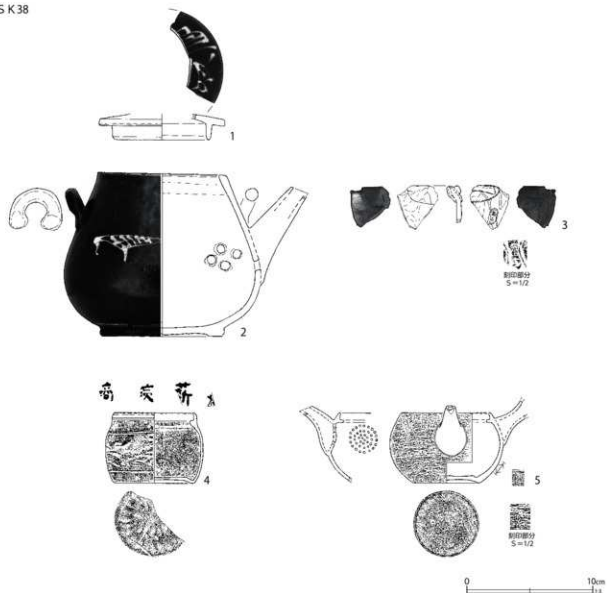
る。非掲載遺物に同製品が2個体ある。44は酸化コバルト染付で、焼継痕がみられる。非掲載遺物に同製品が1個体ある。

45~49は瀬戸美濃系磁器の碗蓋である。45~47は丸碗の蓋で、外面は同文である。45は欠失部に二次利用痕跡がみられる。46と内外面同文の製品が非掲載遺物に1個体みられる。48・49は端反形碗の蓋である。

第142図50は瀬戸美濃系磁器の土瓶もしくは急須の蓋である。染付文の類似性から51の蓋の可能性も考えられる。上面は酸化コバルト染付である。

51は瀬戸美濃系磁器の土瓶である。外面は酸化コバルト染付で、釉は白濁化している。把手は環状である。焼継痕がみられ、底部に朱書きで焼継印が認められる。

53は地方窯系と考えられる産地不詳陶器の灯明皿で、灰釉が施軸される。底部は上げ底状で、



第152図 区画AD土壌出土遺物(1)

外面上位にタール状の付着物がみられる。

54は瀬戸美濃系、55は京都信楽系の灯明皿である。54は柿釉が施釉され、体部下位に拭き取り痕がみられる。55は内面に窯道具痕が1箇所遺存し、外面上位にタール状物質が付着する。

56は京都信楽系陶器の灯火具である。底部に輪状の重ね焼き痕が遺存し、弱く被熱している。

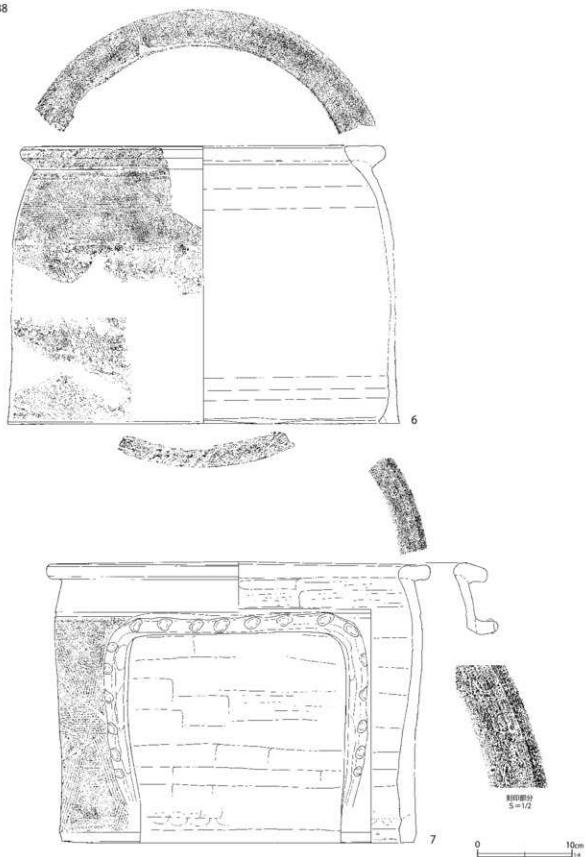
57は地方窯系と考えられる産地不詳陶器の灯火具である。白色化している灰釉を施釉し、底部は左回転の離し糸切痕が遺存する。

59は京都信楽系陶器の爛徳利である。底部に

墨書「全」、「島川」がみえる。栗橋宿では初出の屋号であり、屋号の特定が課題となる。

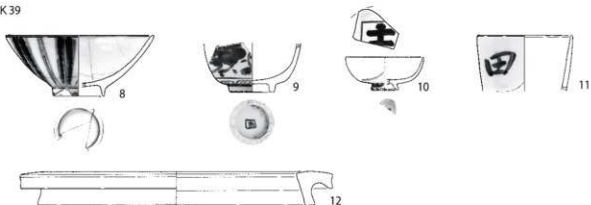
60～62は産地不詳陶器の土瓶である。いずれも把手は型成形である。60は青土瓶で、外面に青緑釉が施釉される。露胎部に使用痕と考えられる煤が付着する。61は灰釉に白土染付を施された土瓶である。底部に「八百兵」と推定される墨書がみられる。同様の墨書が第300号土壌で出土している(第163図101)。62は透明釉に白土染付を施された土瓶である。露胎部に使用痕と考えられる煤が付着する。

SK38

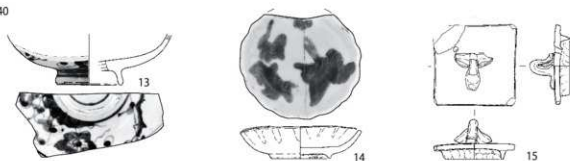


第153图 区画AD土壙出土遗物(2)

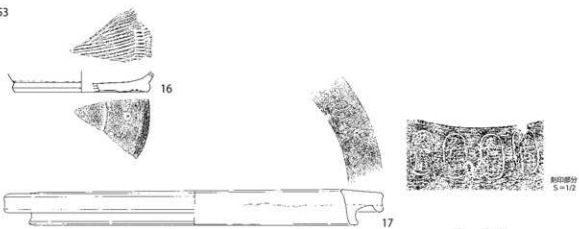
SK 39



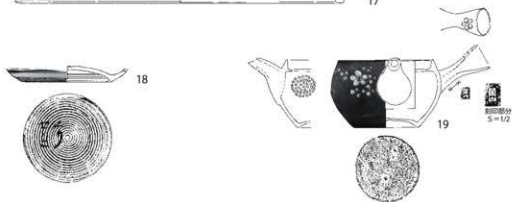
SK 40



SK 53

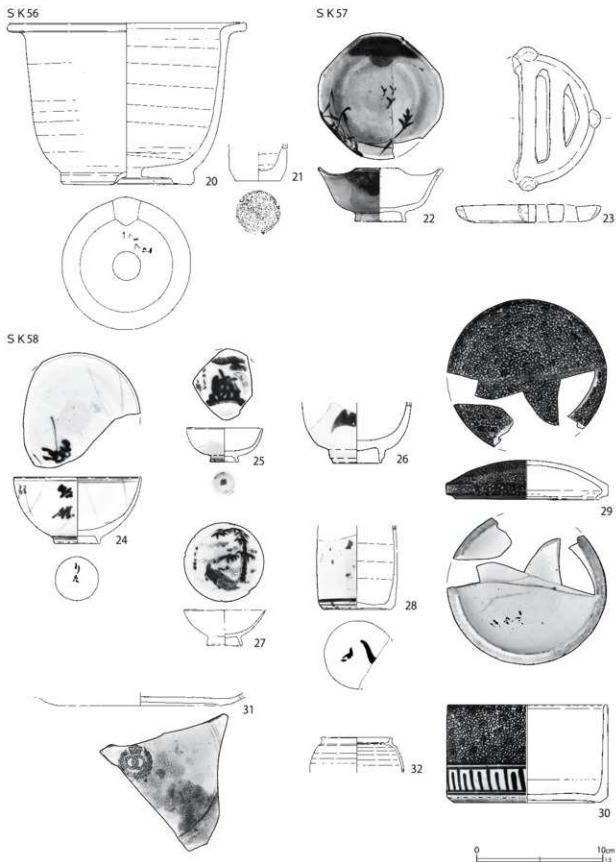


SK 56



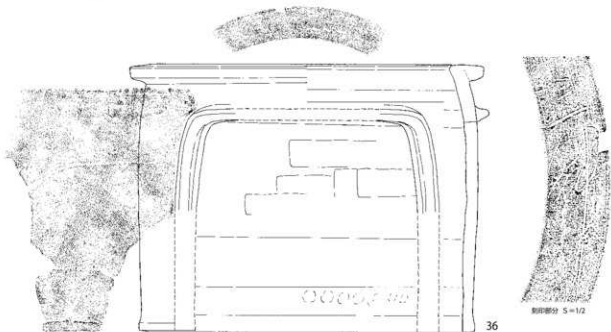
12・17 0 10cm 1/4 8~11・13~16・18・19 0 10cm 1/3

第154图 区画AD土坑出土遗物(3)



第 155 图 区画 AD 土壙出土遺物 (4)

SK58

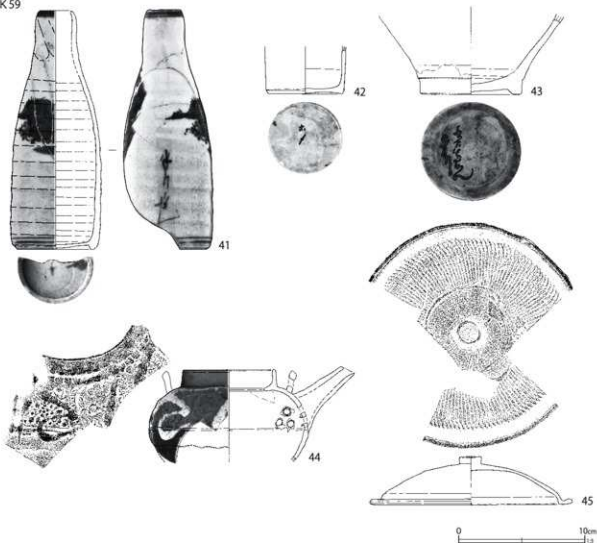


SK59



第156图 区画AD土坑出土文物(5)

SK59



第157図 区画AD土壌出土遺物(6)

第143図63は、松岡系陶器に類似した胎土を呈する鉄軸鍋である。外面はケズリによる粒子の動きが明瞭である。内面に長方形の目跡が遺存する。

64は松岡系陶器の鍋である。極粗粒な胎土で、海鼠釉が施軸される。

65は産地不詳陶器の急須である。外面に火襷がみられ、柘器質な胎土である。70の蓋の身と考えられる。

66は胎土柘器質の袋物で、土瓶もしくは壺甕類と考えられる。備前系陶器に類似する。

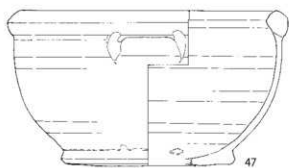
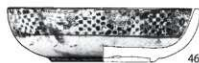
67は信楽産陶器の壺である。石英質な胎土で、外面に錆軸状の釉がみられる。第148・226号土

壺と接合する。挿図は接点のない3片から復元している。

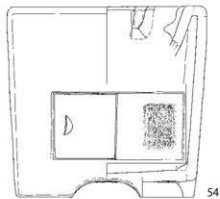
68～72は産地不詳陶器の急須の蓋である。蓋は多く出土しているものの、対応する身はほとんど出土していない。71の底部に墨書「八」がみえる。本陣跡の「煮賣茶屋/佐野屋」を示す可能性がある。69・72にも墨痕がみられるが、判読し得なかった。

74・75は瓦質土器で、74は目皿である。燻により表面は灰色で、下面は無調整の砂目が残る。75は火消壺である。底部無調整の砂目底で、圧痕がみられる。内面上位に煤が付着し、被熱により剥落している。いずれも胎土に角閃石が含まれ、

SK66

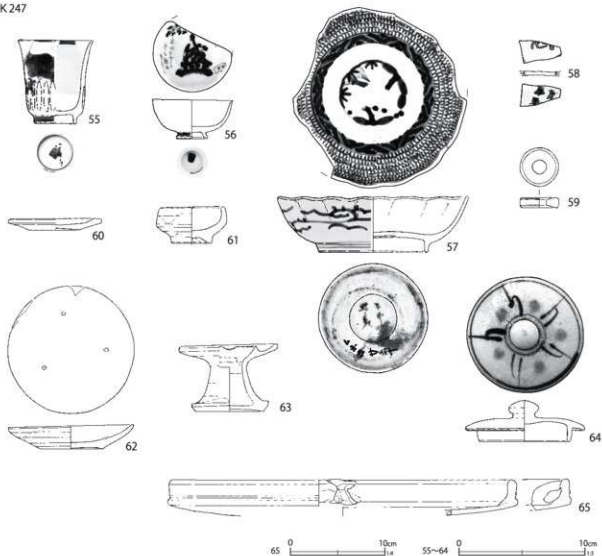


SK71



52~54 0 10cm 1/4 46~51 0 10cm 1/3

第158图 区画AD土坑出土遗物(7)



第159図 区画AD土壇出土遺物(8)

在地産と考えられる。

76～第144図78は土師質土器の丸底焙烙である。76は底部無調整の砂目底で、体部下位にケズリ状の工具ナデが施される。底部の丸みは弱く、口縁は内湾する。体部に煤が付着し、底部に補修痕と考えられる二次穿孔が1箇所遺存する。胎土に角閃石が多く含まれ、在地産と考えられる。挿図は接点のない5片から復元した。

77は底部無調整でシワ状痕が残る。底部の丸みが極めて弱く、扁平な形状である。内面全面に黄灰色の附着物がみられる。第144図78は底部無調整でシワ状痕が残る。底部の丸みは77より強い。内耳が1箇所遺存し、外面に使用痕と考

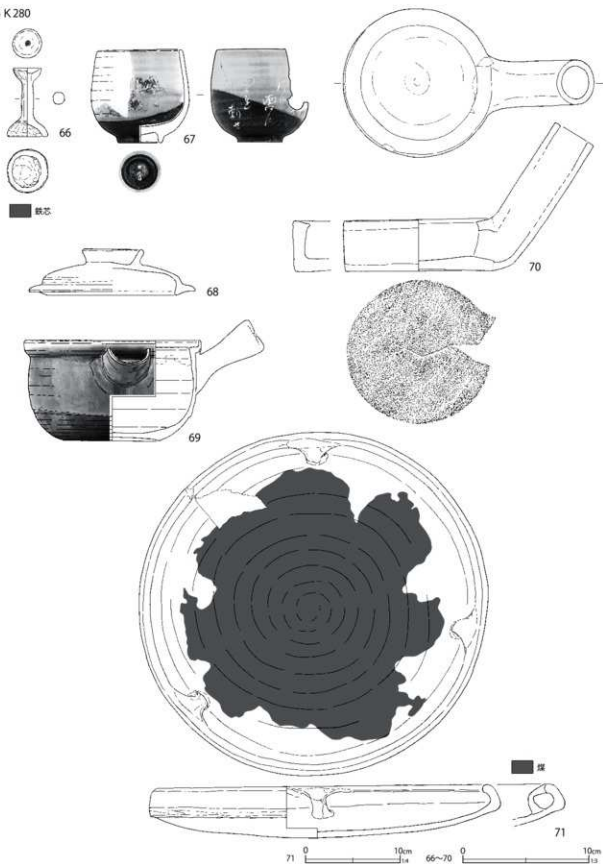
えられる煤が付着する。

79は瓦質土器の平底焙烙である。底部から体部下位にかけて無調整のシワ状痕が遺存し、体部下位まで一枚の粘土で成形したと推定される。口縁部は鐙状に外反しており、稀な器形である。内耳の痕跡が僅かに遺存する。

80は瓦質土器の竈罏である。器高が高く、外面上位に指頭状圧痕がみられる。内面に使用痕と考えられる煤が付着する。口唇部に刻印「〇」がみえ、大きさを表していると推定される。

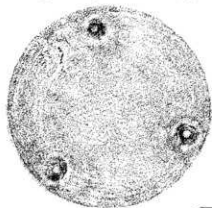
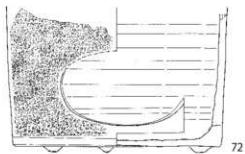
81は土師質土器の焼塩壺の蓋である。雲母細粒を含む粉質胎土の江戸在地系で、断面は逆台形を呈する。

S K 280



第160图 区画AD土坑出土遗物(9)

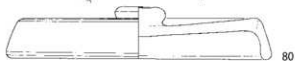
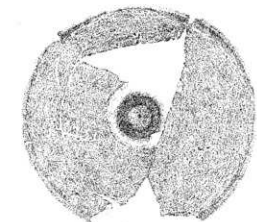
SK281



SK284

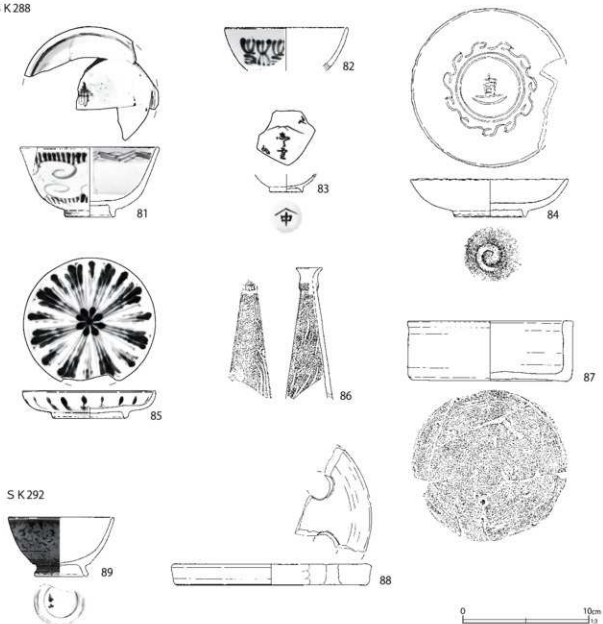


朱漆



72·80 0 10cm 14 73~79 0 10cm 13

第161图 区画AD土壙出土遗物(10)



第162図 区画AD土城出土遺物(11)

82・83は土師質土器の小壺である。京都系の所謂「つぼつぼ」に類似するが、底部に左回転の糸切痕が遺存し、橙色の胎土である。19世紀後半に多くみられる。

86は蟬を模した江戸在地系の土製人形である。中実の一枚型成形で、上面に透明釉を施釉し、白土と緑釉で彩色される。

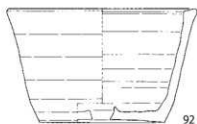
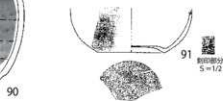
87は江戸式と推定される軒杖瓦である。唐草文のみが遺存する。一部銀化光沢がみられる。

91は道具瓦である。端面に刻印「長門」、「舎

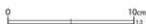
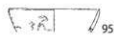
がみえる。

第145図93は曲物の蓋である。表面は黒漆塗りである。94は曲物の蓋で、表裏面黒漆塗りである。側板が残存する。裏面に焼印が2つ重ねて押されている。「△」と「◎」である。95は樽の側板である。上部に方形の穴があけられている。表面には、「固」の焼印が押される。102は櫛で、髪を結う際、鬢や髻を整える櫛である。103・104は神酒口である。放射状の段が削り出されている。第146図105は櫛で、柄は残存し

S K 293



S K 300



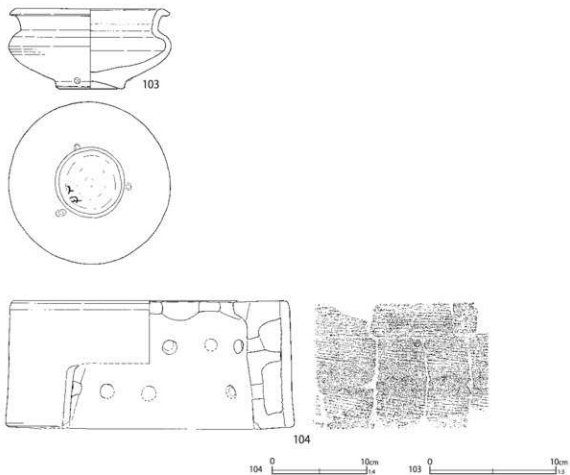
第163図 区画AD土壇出土遺物(12)

ない。銅線で穂先を固定している。106～112は下駄である。106・107は連歯下駄で、一組である。台の表面と歯の平坦部を除いた部分を黒漆塗りにしている。裏面の中央部は横方向の削り痕が残る。109は斜り下駄で、前歯の平坦面に文様状の工具痕が見られる。前歯の周辺にくぼみが作られる。110は斜り下駄である。表面に釘固定の痕跡が見られる。裏面の中央部は横方向の削り痕が見られる。前歯周辺にくぼみが作られる。111は斜り下駄である。表面のつま先、中央部、踵部に木釘と鉄釘が残存する。第147図112は斜り下

駄で、後歯のみ歯を差し込む形である。前歯周辺にくぼみが作られる。113～115には墨書が見られる。114には人の顔のような絵が描かれている。

第147図116は銅製の古寛永通寶である。栗橋宿では稀だが、第8地点は他地点と比べて多い。

117は多孔質の角閃石安山岩転石製磨石である。使用面は平坦だが、中央が僅かに凹む。118は凝灰岩製硯で、上端部に未貫通の穿孔が3箇所みられる。内面中央は使用により凹む。裏面に刻書がみえるが判読できない。黒色塗布物がみられる。121は軟質凝灰岩製の焔炉の口縁部である。



第164図 区画AD土壇出土遺物(13)

口縁部は八角形と推定される。側面、上面にノコギリ状工具痕がみられる。上面には工具による削り痕がみられる。被熱し、煤が付着する。

122は硝子製品で、簪の玉と考えられる。透明硝子で、被熱している。

第39号土壇(第148・154・167・174図)

F7-D6グリッドに位置する。第37号土壇より古く、第3・4・7号埋設桶より新しい。平面形は楕円形で、長軸1.6m、短軸1.35m、深さ0.25mを測る。長軸方位はN-70°-Eを指す。

下層は木質を含む粘質土、上層は炭化物を含む砂質土である。最上層には小礫が含まれる。

出土遺物は陶磁器、瓦、土製品、金属製品があり、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付平碗(第154

図8)を最新とする。推定廃絶期は19世紀後葉である。

第154図8～12に陶磁器類、第167図1～3に土製品、第174図1に金属製品を図示した。

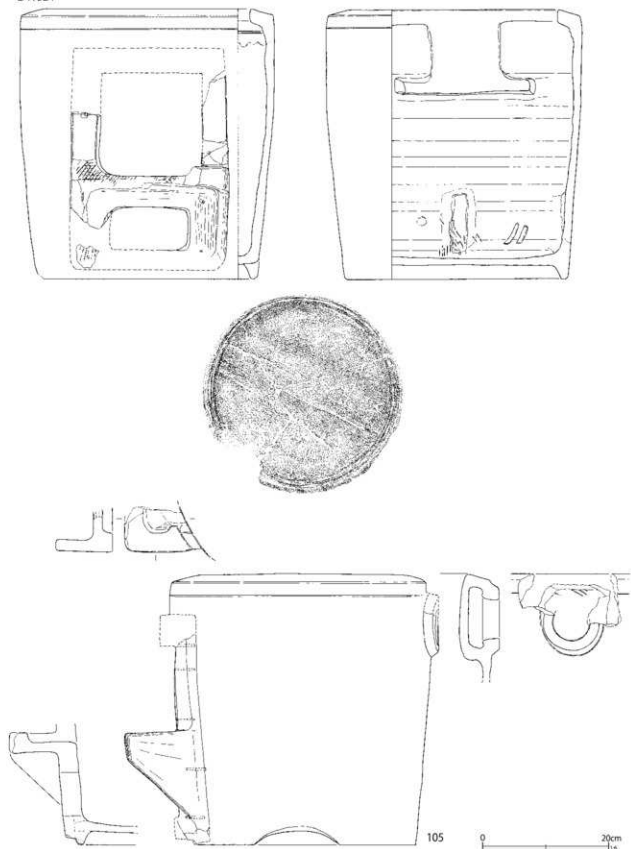
第154図10は瀬戸美濃系磁器の卵殻手環である。内面に江戸絵付けで「固」の屋号がみえる。第52号土壇で出土した製品(第139図26)と同品である。

11は肥前系磁器の蕎麦猪口である。外面に染付銘「田」がみえ、第8地点内で出土する各種染付銘磁器から銘「吉田屋」と推定される。

第288号土壇(第151・162・168・173・176図)

F7-C7・C8グリッドに位置する。第317号土壇より新しく、第3号杭列、第284号土壇と重複する。平面形は隅丸長方形で、長軸2.9m、

SK324



第 165 图 区画 AD 土壙出土遗物 (14)

第42表 区画AD土壌出土遺物観察表(1)(第152~165図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	蓋	—	[2.0]	(7.3)	IK	30	良好	灰白	SK38	上面鉄軸・イッチン描き文 2の蓋 最大径(10.0) cm	
2	陶器	土瓶	9.7	12.9	9.5	—	100	良好	灰白	SK38	外面鉄軸・イッチン描き文 底部煤付着 1の身 №14	
3	陶器	不明	—	[3.0]	—	—	5	良好	灰褐	SK38	萬古系 胎土器質 内面緑軸 外面刻印「萬古」 口縁部装飾貼付	72-4
4	陶器	急須	(6.2)	6.4	(6.1)	—	35	良好	黒褐	SK38	萬古系 型成形 胎土器質 内面布目瓦板 外面型押施文・施軸文字「口森灰商」 口縁部緑軸	72-7
5	陶器	急須	7.0	6.4	5.1	—	95	良好	灰赤	SK38	萬古系 胎土器質 底部布目瓦板 口縁・注口部先端緑軸 体部下位刻印「萬古」 外面ウロコ状文 把手透かし彫り	66-10 72-8
6	瓦質土器	甕	(33.0)	29.5	(41.2)	EHIK	40	普通	灰黄褐	SK38	外面柳排状施文 横す 被熱(剝落顯著・煤付着) No. 19	
7	瓦質土器	甕	39.3	29.8	34.2	CHIK	75	普通	緑褐	SK38	外面柳排状施文 横す 口唇部刻印「○○○○」 No. 1・4・5・6	
8	磁器	碗	11.7	4.8	3.9	—	65	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	
9	磁器	碗	—	[3.8]	3.5	—	50	良好	白	SK39	肥前系 内外面施軸 外面色絵(赤・青・緑・黒)	
10	磁器	坏	(6.1)	2.6	(2.0)	—	20	良好	白	SK39	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青) 図	72-9
11	磁器	猪口	(7.4)	[4.4]	—	—	5	良好	白	SK39	肥前系 内外面施軸 外面染付文字「田」	72-10
12	瓦質土器	甕罎	(27.6)	3.6	29.4	HIK	10	普通	灰白	SK39	やや酸化焼成 上面煤付着	
13	磁器	蓋物	—	[4.0]	5.0	—	30	良好	白	SK40	肥前系 内外面施軸(内面薄掛け) 外面染付 被熱(弱)	
14	陶器	皿	9.3	2.5	4.6	—	90	良好	白	SK40	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面刻文・染付 高台内砂付着 SK2と接合	
15	陶器	蓋	—	3.1	4.6	—	90	良好	明褐色	SK40	備前系カ 胎土器質 上面被熱 土瓶の蓋カ 最大径6.4 cm	
16	陶器	播鉢	—	[2.2]	(14.0)	HI	10	良好	灰白	SK53	益子系 内面播目 外面稀軸 底部刻印「〇」	67-3
17	瓦質土器	甕罎	31.3	3.8	33.2	C	95	普通	黄灰	SK53	横す 口唇部刻印4あり「久保田」 外面煤付着	
18	磁器	急須	—	[1.2]	7.2	—	10	良好	白	SK56	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)・墨書「くら」	73-5
19	陶器	急須	7.4	6.6	5.1	—	95	良好	褐灰	SK56	萬古系 底部布目瓦板 胎土器質 口縁・注口・把手端部施軸 把手上面透彫・下面刻印「萬古」 外面彩色(赤・金・黒・白磁)	73-4
20	陶器	榎木鉢	18.5	12.8	10.2	IK	90	良好	洗黄褐	SK56	内外面鉄軸 高台快り1 内底面重焼痕 底部墨書SK59と接合	
21	土質土器	焼塩壺	—	[2.9]	3.5	AHIK	30	普通	橙	SK56	江戸在地区 底部糸切痕(左) 胎土器質 外面被熱(剝落)	
22	陶器	鉢	9.7	4.2	3.9	K	95	良好	灰白	SK57	内外面施軸 口縁部青緑軸流し掛け 内面兵須(酸化コバルト)・鉄絵	
23	土質土器	日皿	幅11.4	1.4	—	AIK	55	良好	橙	SK57	上面ヘラナダ 下面被熱(白色化)	
24	磁器	碗	(10.0)	5.3	3.5	—	50	良好	白	SK58	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	73-7
25	磁器	坏	(5.7)	2.7	2.2	—	50	良好	白	SK58	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「盛/名酒」	73-6
26	磁器	碗	—	[4.8]	(3.9)	K	40	良好	白	SK58	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
27	磁器	坏	6.4	2.8	2.8	—	95	良好	白	SK58	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(緑・金・赤・黒)	
28	磁器	燗徳利	—	[6.7]	5.4	—	10	良好	白	SK58	瀬戸美濃系 外面施軸・酸化コバルト染付 底部墨書「八」 外面煤付着	73-8
29	磁器	蓋	—	3.1	11.2	—	70	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸 外面型紙摺給染付 焼継痕あり 内面焼継印(赤) 30の蓋 最大径12.8 cm	
30	磁器	段重	(12.5)	7.7	11.5	—	65	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸 外面型紙摺給染付 29の身	
31	硬質陶器	皿	—	[1.0]	(13.0)	—	5	普通	白	SK58	裏銘ゴム印版(緑)	
32	陶器	急須	(5.5)	[2.8]	—	I	10	普通	赤褐	SK58	胎土器質	
33	陶器	甕	—	[4.8]	3.8	K	20	良好	灰白	SK58	京都信楽系 胎土磁質 外面鉄軸 底部墨書	73-9
34	土質土器	焙烙	(30.8)	4.1	—	CHIK	45	普通	洗赤橙	SK58	砂目底 体部下位ケズリ	
35	瓦質土器	甕罎	(30.6)	3.7	(31.1)	HIK	10	普通	灰黄	SK58	やや酸化焼成 口唇部・体上位煤付着	
36	瓦質土器	甕	32.3	28.3	(33.0)	CIK	45	普通	灰白	SK58	外面柳排状施文 横す 口唇部ヘラ書き 内面煤付着	73-10
37	土製品	羽口	長さ10.7 内径3.2 重さ310.3	—	—	CHI	—	良好	灰白	SK58	土師質 ナゾ状調整 外面調整手持ち	
38	磁器	碗	(10.6)	5.9	4.2	—	45	良好	白	SK59	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	73-11
39	磁器	碗	10.2	5.5	3.7	—	100	普通	白	SK59	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
40	磁器	鉢	(14.4)	[5.0]	—	—	40	普通	白	SK59	淡路原平焼 内外面黄色釉 焼継痕あり	
41	磁器	燗徳利	2.4	18.8	6.0	—	70	普通	灰白	SK59	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 底部焼継印(赤)	
42	磁器	燗徳利	—	[3.8]	5.8	—	20	良好	白	SK59	瀬戸美濃系 外面施釉 黒書	
43	陶器	片口鉢	—	[6.4]	7.7	EKL	45	良好	灰白	SK59	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面目跡3 高台内黒書	73-12
44	陶器	土瓶	7.2	[7.5]	—	K	45	普通	灰白	SK59	上下合わせ二枚型成形 外面型押縮文・白釉流し掛け 内面施釉 外面下位煤付着	
45	陶器	蓋	—	3.8	14.2	K	55	良好	灰白	SK59	外面下位トビガンナ施文・上位灰釉軟らし 内面釉軸最大径16.0cm	
46	磁器	皿	14.8	4.2	8.0	—	95	良好	白	SK66	瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺絵染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 2・黒書	
47	陶器	片口鉢	20.2	12.2	(13.0)	IK	60	良好	に灰噴	SK66	内外面施釉 口縁部青緑釉流し掛け 内面目跡2遺存煤付着	
48	磁器	碗	7.1	2.9	2.4	—	95	良好	白	SK71	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 口紅	
49	磁器	坏	6.0	2.9	2.2	—	55	良好	白	SK71	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 内面上給付(青) ④ / 本店	73-17
50	磁器	坏	(6.1)	[2.1]	—	—	10	良好	白	SK71	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上給付	
51	陶器	土瓶	—	[10.0]	—	IK	5	普通	に灰噴	SK71	吉見焼々 胎土器質 外面鉄軸(黒) 内面鉄化粧	67-6
52	瓦質土器	甕罎	27.6	3.0	29.2	IK	50	普通	灰白	SK71	焼十 口唇部刻印「○○」 被熱・煤付着	
53	瓦質土器	甕罎	(30.8)	3.3	32.0	IK	20	普通	灰白	SK71	焼十 煤付着	
54	土師質土器	燈炷	20.0	20.2	18.4	AHK	60	普通	に灰噴	SK71	板作り成形 胎土粉質 外面ミガキ 刻印「[]尾/[] /造証/名産」 扉付 内面上位・上面煤付着	73-16
55	磁器	坏	(5.8)	6.6	3.2	—	45	普通	白	SK247	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 体部下位縁 高台内焼継痕(赤)	
56	磁器	坏	6.3	3.1	2.4	—	55	普通	白	SK247	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付	
57	磁器	皿	(15.2)	4.4	8.6	—	60	普通	白	SK247	肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	
58	磁器	蓋	—	[0.4]	—	—	5	普通	白	SK247	瀬戸美濃系 内外面施釉 下面染付 上面焼継印(赤)	
59	磁器	戸車	径3.1 孔径1.1 厚さ0.8			—	100	普通	白	SK247	肥前系 側面施釉 孔径1.1cm	
60	磁器	不明	—	1.2	8.2	—	95	普通	白	SK247	瀬戸美濃系 無釉 円形	
61	陶器	坏	4.9	2.9	3.0	IK	95	普通	黄灰	SK247	瀬戸美濃系 内外面施釉 口唇部露胎	
62	陶器	灯皿	9.8	1.9	4.9	K	95	普通	黄灰	SK247	内外面施釉 内面ピン痕3あり 口縁部黒化 一部歪みあり	
63	陶器	灯火具	4.2	5.4	5.4	K	80	普通	灰白	SK247	京都信楽系 内外面施釉 最大径7.8cm	
64	陶器	蓋	—	3.3	7.0	K	100	普通	浅黄	SK247	上面白化粧残施釉・鉄軸・緑彩彩 最大径9.5cm	
65	土師質土器	焙塔	(36.0)	[3.9]	(36.6)	CHK	15	普通	灰白	SK247	底部シワ状痕 体部～底部・内底面煤付着	
66	磁器	燗台	2.2	5.4	3.1	—	100	良好	白	SK280	瀬戸美濃系 型成形 外面施釉 鉄芯遺存	
67	陶器	碗	6.5	7.4	3.3	K	85	良好	灰白	SK280	大塚粗馬系 胎土磁質 内面輪白釉 外面輪白・鉄軸上下掛け・上給付(被熱赤色)・イッチン文字「久谷」	70-5
68	陶器	蓋	4.5	3.6	10.0	K	95	良好	灰白	SK280	内面施釉 外面青緑釉 69の蓋 最大径13.2cm	
69	陶器	行平鍋	13.7	8.0	7.6	K	95	良好	灰白	SK280	内面施釉 内面上位青緑釉流し掛け 外面青緑釉 外面下位煤付着 68の身	
70	土師質土器	被炭おこし	11.6	11.7	11.6	AHK	95	良好	赤褐	SK280	底部静止糸切痕 把手内面布目圧痕 内面・口唇部被熱(白色化)	
71	土師質土器	焙塔	35.8	5.2	—	AHK	95	普通	橙	SK280	砂目底 内底面渦巻状のナデ 胎土小纏含む 底部・内底面煤付着	
72	瓦質土器	燈炷	—	[15.4]	21.6	CHI	45	普通	灰白	SK281	砂目底 外面スタンプ施文をナデ消し 側部周囲ナデ 横十 胎土中心灰色 内底面中間取跡(径11cm)	
73	磁器	灯火具	4.1	5.1	4.3	—	100	良好	白	SK284	肥前系 内外面施釉 上面染付 口唇部煤付着 最大径8.4cm	
74	磁器	徳利	(1.3)	10.6	3.3	—	95	良好	白	SK284	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面色給(赤・青・緑・黒)	
75	磁器	急須	—	[0.4]	—	—	5	良好	白	SK284	瀬戸美濃系 内面施釉 焼継痕あり 底部焼継印(赤)・黒痕	
76	陶器	皿	(29.0)	7.3	(17.6)	CIK	30	良好	灰黄	SK284	内外面施釉 内面目跡5遺存	
77	陶器	蓋	—	2.4	5.8	I	90	良好	に灰噴	SK284	胎土土器質 上面鉄軸 下面鉄化粧 被熱(黒化) 最大径9.5cm	
78	陶器	蓋	—	[1.6]	7.0	AJK	80	普通	橙	SK284	胎土土器質 上面鉄軸(黒) 下面鉄化粧・釉軸(剥落著しい) 最大径9.2cm	
79	土師質土器	椀木鉢	15.7	10.2	11.3	AHK	95	普通	橙	SK284	江戸在地系 底部糸切痕(左)・挟り3あり 胎土粉質	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
80	瓦質土器	蓋	—	5.6	27.2	AH1	60	普通	灰黄褐	SK284	上面ヘラナダ 燻す 内面煤付着 被熱	
81	磁器	碗	(10.8)	5.6	(3.8)	—	40	普通	白	SK288	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
82	磁器	碗	(9.6)	[3.4]	—	—	20	普通	白	SK288	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
83	磁器	坏	—	[1.5]	2.6	—	45	良好	白	SK288	瀬戸美濃系 内外面施釉・上絵付(青)「命」	
84	磁器	皿	12.3	3.0	5.4	—	85	良好	白	SK288	瀬戸美濃系 内面陰刻文 内外面青磁釉 高台内鉄軸	
85	磁器	皿	10.3	2.2	5.4	—	90	良好	白	SK288	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 口紅	
86	陶器	徳利	2.0	[10.4]	—	I	70	良好	灰赤	SK288	備前系 板作り成形 胎土拓器質 外面陰刻文・塗土	70-7
87	施釉土器	鉢	12.9	4.8	12.2	HK	90	普通	褐	SK288	底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面施釉	
88	瓦質土器	日皿	(15.4)	1.7	(15.0)	AK	20	良好	灰白	SK288	下面シワ状痕 燻す 上面雲母光沢 胎土中心灰色	
89	陶器	碗	(8.2)	4.7	4.0	—	40	良好	白	SK292	瀬戸美濃系 内面・高台内施釉 外面鉄軸斑状 高台内酸化コバルト染付	
90	陶器	甕	12.4	11.8	8.0	IK	80	良好	黄灰	SK293	笠間系 内面灰釉 外面二彩釉(緑・白) SK294と接合	70-8
91	陶器	急須	—	[3.5]	(5.4)	—	30	良好	褐灰	SK293	萬古系 胎土拓器質 底部布目痕 体部刻印「萬古」	
92	瓦質土器	榎木鉢	(14.6)	9.0	10.0	CIK	50	普通	灰黄褐	SK293	底部糸切痕をナゲ消し 胎土中心灰色	
93	瓦質土器	榎木鉢	(12.2)	8.9	6.9	AIK	70	普通	黄灰	SK293	底部糸切痕(左) 口縁部燻す	
94	磁器	碗	(8.1)	[2.5]	—	—	5	普通	白	SK300	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
95	磁器	紅坏	(7.1)	[1.8]	—	—	10	良好	白	SK300	肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤)	
96	磁器	坏	—	[1.9]	—	—	5	普通	白	SK300	肥前系 内外面施釉 外面色絵(赤)	
97	磁器	合子	(4.7)	2.8	(2.8)	—	50	良好	白	SK300	肥前系 内外面施釉 外面染付	
98	陶器	坏	(6.3)	3.8	3.0	EIK	65	良好	灰白	SK300	瀬戸美濃系 内外面灰釉 体部下位・破断面に黒色塗布物付着	
99	陶器	灯明皿	(10.4)	1.9	(6.0)	K	30	良好	灰白	SK300	瀬戸美濃系 内外面施釉 体部下位・底部軸抜き取り 内面重焼痕	
100	陶器	灯明皿	(7.4)	1.4	(3.5)	IK	45	良好	黄灰	SK300	瀬戸美濃系 内外面施釉 底部軸抜き取り 内面重焼痕	
101	陶器	燗徳利	—	[3.8]	7.6	IK	80	良好	白	SK300	外面灰釉 底部墨書「兼仲 / 八百兵」	
102	かわらけ	小皿	(4.0)	0.7	2.6	AH1K	70	普通	白	SK300	江戸在地系 底部糸切痕(左) 胎土粉質 焼成前穿孔1あり	
103	磁器	香炉	11.6	6.3	4.9	—	95	良好	白	SK324	瀬戸美濃系 内面上位・外面酸化クロム青磁釉 底部墨書「せと」 内面黒色付着物	
104	土師質土器	煤炉	(29.9)	[13.6]	(29.5)	AH1K	60	不良	明赤褐	SK324	三河産 外筒内側帯目 内面被熱(白色化) 上・下内黒化 意は推定	
105	瓦質土器	甕	33.4	43.8	33.8	AH1K	70	普通	褐灰	SK324	内底面砂目・櫛歯状の圧痕 外面ミガキ 燻す 高台挟り2あり 釘孔5遺存(内鉄釘1遺存) 内面下部五徳痕(突起)3あり 内面上位煤付着 意は推定	

短軸 1.2 m、深さ 0.5 m を測る。長軸方位は N - 68° - E を指す。

覆土は砂質土を主体とし、木片が多量に含まれている。最上層には炭化物が含まれる。遺構の南西部には桶が投棄されている。出土遺物は混ざりがなく、瀬戸美濃系磁器の酸化コバルト染付皿(第162図85)を最新とする。推定廃絶期は19世紀後葉である。

第162図81～88に陶磁器類、第168図6に軒棧瓦、第176図33・34に金属製品を図示した。

第162図82は瀬戸美濃系磁器の丸碗である。外面に篆書体文「木」の染付がみられる。83は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。底部は輪高台

で、高台内に江戸絵付けで「命」の屋号がみえる。第7地区区画AQ「茶屋/勘兵衛店/幸七」に位置する第111号土壇(埧埋文2019d)の荷札に同様の屋号がみられる。

86は備前系陶器の角徳利である。4枚粘土板による板作り成形で、肩部と口縁部は別作りである。外面に陰刻文と塗土がみられる。

第168図6は軒棧瓦である。やや砂質な胎土で、江戸式に類似する瓦当文様である。中心弁は六枚である。

第173図28・29は桶の側板である。28は焼き印「北総上花輪邑/無類格別仕入/本家高梨改」、「㊦」とある。墨書「上」に「取」がみえ、上花

SK 59



1



2



SK 38



3



SK 281



4



第166図 区画AD土壌出土遺物(15)

第43表 区画AD土壌出土遺物観察表(2)(第166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	紅坯	2.1	1.2	1.0	2.0	—	良好	白	SK59	瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉	121-15
2	土師質土器	小壺	(2.4)	2.5	1.8	9.5	AHK	普通	にぶい橙	SK59	底部糸切痕(中心) 胎土粉質	121-14
3	土製品	ミニチュア	(3.2)	[0.9]	—	3.6	AKM	普通	灰白	SK38	京都系 壺形 型成形 外面黒色塗付物	
4	陶器	ミニチュア	(6.0)	3.1	(2.4)	12.1	IK	良好	灰	SK281	鍋 内外面施釉	

輪軸の名主の高梨兵左衛門が寛文元年(1661)に生産開始した醤油醸造所の商標である。現キッカーマンの前身であり、「上取」の使用期間は不詳であるが、大正六年(1917)の野田醤油株式会社設立以前のものであることは間違いない。

29は「ジガミ」に「サ」の墨書、「鈍子」、「廣庄改」、「寅改正」、「萬代」の焼き印がある。安政五年(1858)の鈍子領内の醤油醸造家に「荒野村/廣屋庄右衛門」がみえ、「ジガミ」に「サ」の商標を用いている(船杉・渡辺1998)。鈍子の造醤油屋である廣屋庄右衛門謹製の桶と考えら

れる。「ジガミ」の廣屋庄右衛門は明治二十六年(1893)に「ヤマサ」(現ヤマサ醤油株式会社)に買収されており、本製品は同年以前のもと考えられる。

第300号土壌(第150・163・168・169図)

F7-C8・D8グリッドに位置し、第281号土壌より古い。平面形は楕円形で、長軸1.95m、短軸1.05m、深さ0.1mを測る。長軸方位はN-77°-Eを指す。

覆土は砂質土で、多量の瓦が含まれている。瓦は40270.0g出土している。出土遺物は、18世紀

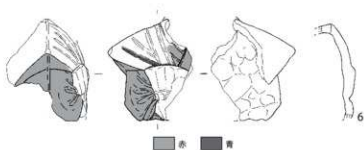
第44表 区画AD土壌出土遺物観察表(3)(第167図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	芥子面	2.6	2.0	0.8	3.7	HK	良好	橙	SK39	胎土粉質 一枚型成形	122-13
2	土製品	芥子面	2.6	2.4	0.9	4.5	AHK	良好	橙	SK39	江戸在地系 一枚型成形	122-13
3	土製品	芥子面	1.9	2.1	0.8	2.9	AHK	良好	橙	SK39	江戸在地系 一枚型成形	122-13
4	磁器	人形	4.6	4.2	0.3	13.5	—	—	白	SK56	瀬戸美濃系 大前後合二枚型成形 開口彩色(朱・黒) 刻印あり	
5	土製品	人形	2.3	[7.5]	[2.1]	17.1	—	良好	にぶい橙	SK56	京都系 鯉 左右合二枚型成形 中実 黒色塗付物	117-14
6	土製品	人形	[4.8]	[4.6]	0.8	19.2	AHK	良好	灰白	SK56	京都系 持人形 小轆含む 前後合二枚型成形 開口 彩色(青・赤)	
7	土製品	人形	[2.4]	[5.5]	0.8	12.4	AEI	良好	灰白	SK56	京都系 持人形 小轆含む 前後合二枚型成形 開口 彩色(赤) 6と同一個体	
8	土製品	人形	2.2	1.5	0.8	1.4	A	良好	橙	SK247	江戸在地系 蛙 二枚型成形 白化粧 上面縁軸 下面施釉	119-16
9	磁器	サイコロ	1.7	1.7	1.7	10.3	—	良好	白	SK284	瀬戸美濃系 施釉彩色(青) 遺存	
10	磁器	サイコロ	2.4	[2.3]	2.4	8.1	—	良好	白	SK284	瀬戸美濃系 型成形 中空 彩色(桃赤) 遺存	

S K 39



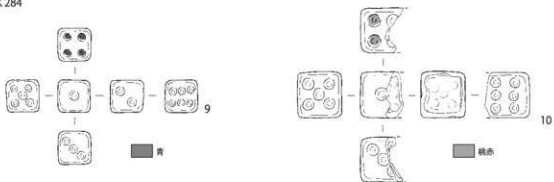
S K 56



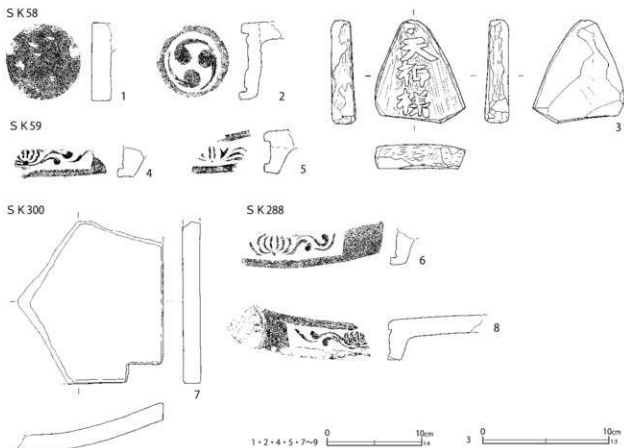
S K 247



S K 284



第 167 图 区画 AD 土坑出土遗物 (16)



第168図 区画AD土壌出土遺物(17)

第45表 区画AD土壌出土遺物観察表(4)(第168・169図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	—	8.2	2.0	—	8.0	AIK	良好	灰白	SK58	石持瓦 銀化 燻す	
2	瓦	軒棧瓦	—	[9.3]	1.9	[8.3]	7.8	AIK	良好	灰白	SK58	左巻三巴文 弱く銀化 燻す 肌雑なつくり	
3	瓦	転用瓦	7.9	7.1	1.9	—	—	ACIK	普通	灰白	SK58	裏面刻書「天神塚」裏・側面線条痕 磁具転用	124-16
4	瓦	軒棧瓦	2.8	[10.3]	2.2	3.1	—	AK	普通	灰白	SK59	江戸式 弱く銀化 燻す	
5	瓦	軒棧瓦	[3.3]	[7.2]	2.3	[5.0]	—	AIK	良好	灰白	SK59	銀化 燻す	
6	瓦	軒棧瓦	[2.5]	[15.7]	2.2	[5.4]	—	AIK	普通	灰白	SK288	江戸式 胎土やや砂質 燻す	
7	瓦	棧瓦	[17.2]	[15.4]	1.8	[5.2]	—	AIK	良好	灰白	SK300	弱く銀化 燻す	
8	瓦	軒棧瓦	[10.2]	[16.3]	2.9	[6.6]	—	AIK	普通	灰白	SK300	江戸式 弱く銀化 燻す	
9	瓦	丸瓦	[14.0]	[12.6]	2.1	5.6	—	AK	良好	灰白	SK59	弱く銀化 燻す	
10	瓦	棧瓦	26.5	[15.0]	1.9	[4.3]	—	AIK	良好	灰	SK59	燻す 雲母付着	
11	瓦	軒丸瓦	[7.6]	[15.5]	2.1	[8.1]	[16.0]	AIK	良好	灰白	SK300	上面ヘラナダ 左巻十六連珠三巴文 銀化 燻す	

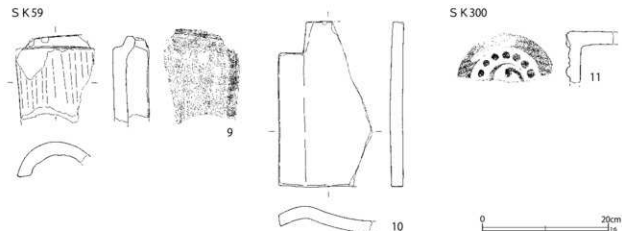
後葉の陶磁器を主体としており、第2号溝跡出土陶磁器と接合関係にある。瀬戸美濃系磁器の端反形碗(第163図94)と産地不詳陶器の爛徳利(第163図101)が最新期の陶磁器である。推定廃絶期は19世紀前半である。

第163図94～102に陶磁器類、第168図7・8・第169図11に瓦を図示した。

第163図94は瀬戸美濃系磁器の端反形碗であ

る。小破片で、最新期の陶磁器である。95・96は肥前系磁器の坏で、赤い上絵付で文字が書かれている。京都を中心に販売・流行していた商標銘の坏で、所謂小町紅と推定される。江戸遺跡でも一定量出土しており、その盛行は18世紀後半～19世紀頃と指摘されている(角谷2005)。

98は瀬戸美濃系陶器の坏である。灰釉で、体部下位と破断面に黒色塗布物が付着する。転用



第169図 区画AD土壌出土遺物(18)

が示唆される。99・100は瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。99は体部下位から底部にかけて、100は底部の釉を拭き取っている。内面に重ね焼き痕がみられる。

101は産地不詳陶器の燗徳利である。底部に墨書「栗仲 / 八百兵」がみえる。「栗仲」は栗橋仲町、現在の第8地点周辺を指すと考えられる。「八百兵」の意味は明らかにし難い。しかし、「兵」は本区画の「煮賣屋 / 兵藏」の「兵」を指す可能性について留意しておきたい。

102は底部中央に焼成前穿孔がみられるかわらけ小皿である。左回転の糸切痕が遺存し、粉質胎土の江戸在地系である。

以上に取り上げた土壌の他にも、特徴的な遺物が出土しているため、以下に記述する。

第152図3は萬古系陶器で、器種は不詳である。内面に緑釉を施軸し、萬古系陶器では稀である。外面に刻印「萬古」がみえる。

第153図6は瓦質土器の甕である。底抜けて、外面に櫛歯状工具による施文がみられる。口縁端部と底部の端部に粘土切斯時のものか、斜めに線条痕がみえる。薄手で、胎土は石英が目立ち、栗橋宿でみられる甕では稀な胎土を呈している。利根川流域外からの搬入品の可能性がある。被熱による剥落が著しい。

第154図17は瓦質土器の甕罎である。口唇部

に刻印「久保田」がみえる。刻印の数は大きさを示すものと推定される。胎土に角閃石が含まれ、利根川流域の在地産と考えられる。

第155図28は瀬戸美濃系磁器の燗徳利である。外面に酸化コバルト染付がみられ、底部に墨書「八」がみえる。佐野屋を示す可能性がある。『絵図』にみえる本陣北側に位置する「煮賣茶屋 / 十平次」であろうか。

第157図44は産地不詳陶器の土版である。上下合わせの型成形で、外面に陽刻状文がみられる。外面井白釉が流し掛けられている。

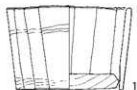
第158図49は瀬戸美濃系磁器の卵殻手坏である。外面に酸化コバルト染付が施され、内面に江戸絵付けで「固」、「本店」の銘がみえる。原勢屋製の坏で、第39・52号土壌で同様の坏が出土している(第139図26、第154図10)。

第158図51は胎土土器質の黒軸土版で、現吉見町で19世紀に焼かれていた吉見焼の可能性がある。注口部はS字状を呈する。

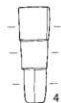
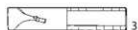
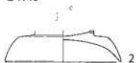
第160図71は土師質土器の丸底焙烙である。底部無調整の砂目底で、内底面に渦巻状のナデがみられる。胎土に多量の赤色粒子と金雲母、小礫を含む特徴がある。内底面には煤が付着する。

第161図73は肥前系磁器の灯火具、もしくは坏台である。内面に1箇所孔がみられ、口唇部に煤の付着が認められるため、灯火具である可能性

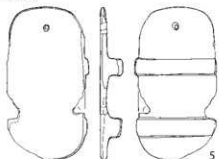
SK38



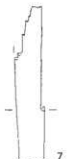
SK40



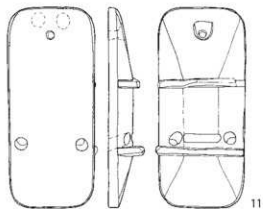
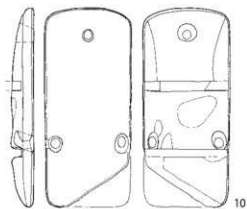
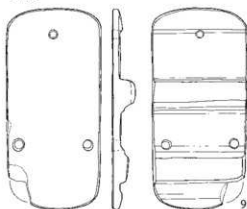
SK53



SK56



SK58



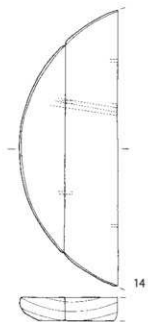
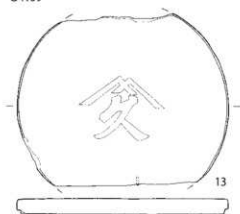
12

黑漆

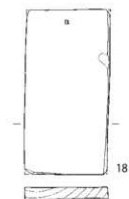
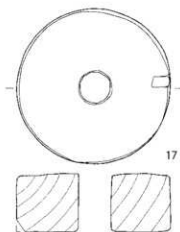
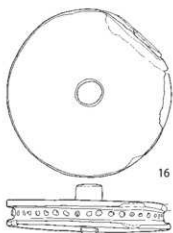
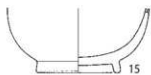
1-5-9-11 0 10cm 2-4-6-8-12 0 10cm

第170图 区画AD土壤出土遗物(19)

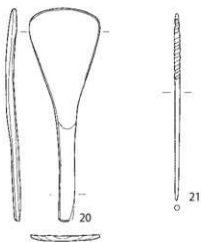
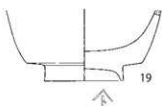
SK59



SK66

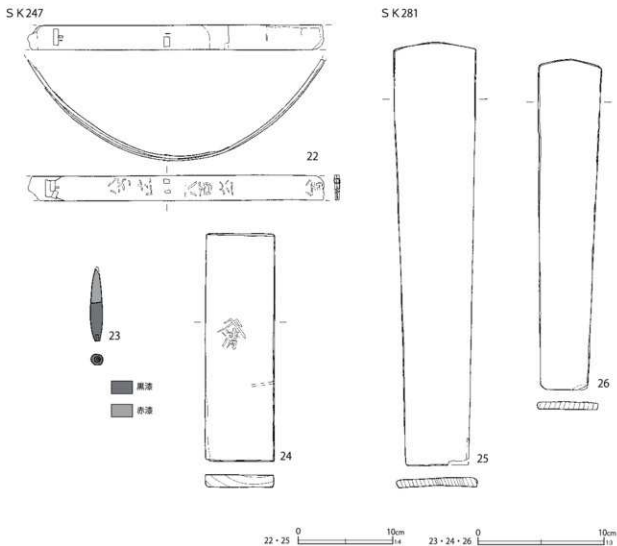


SK71



0 10cm 0 10cm
14 13·15~21 13

第171图 区画AD土坑出土遗物(20)



第172図 区画AD土壇出土遺物(21)

が高い。

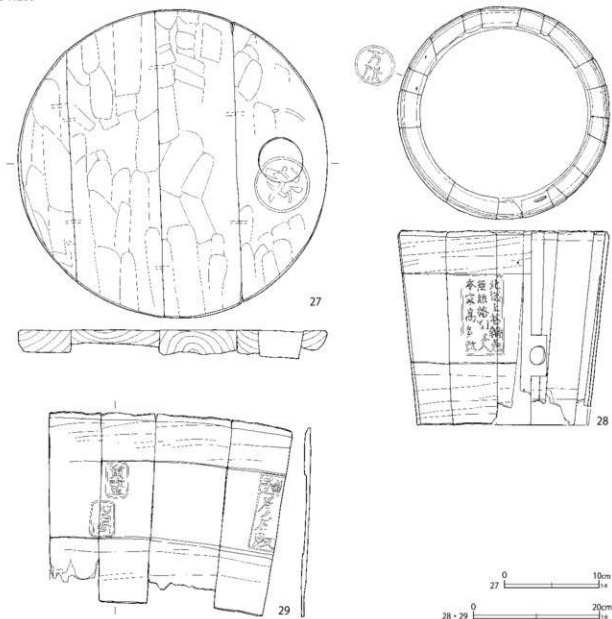
第163図90は笠間系陶器の甕である。外面は二彩釉流し掛けで、内面は灰釉である。第294号土壇出土製品と接合する。

第164図104は土師質土器の円筒形焜炉である。胎土に金雲母や石英が多量に含まれることから三河産と推定される。底部は底抜けで、正面にアーチ状の窓が付くと考えられる。挿図では窓の形を推定復元した。外筒の内壁には三河産箱形焜炉にみられるような櫛歯状工具による櫛描きが無数にあり、中筒の粘土と接着しやすくするためにつけられたと考えられる。

第165図105は瓦質土器の竈である。内底面

に無調整の砂目と櫛歯状の圧痕がみられ、通常の瓦質土器とは無調整部分が逆転している。外面はミガキ調整がみられ、高台に2箇所の手まりがある。内面下位には突起が剥がれた痕跡があり、3箇所には五徳状の突起がついていたと考えられる。背面には円形の孔が開いており、煙出しの役割をはたしていると考えられる。舌状の受皿がついており、上下に窓がみられる。挿図では窓の欠損部を推定復元した。また、鉄釘が窓の周囲に穿たれていることから、扉が附属していたと推察される。

第166図1は瀬戸美濃系磁器の極小紅環と考えられる。型成形で外面に陽刻状文がみられる。2は土師質土器の小壺である。胎土は粉質で、底



第173図 区画AD土壇出土遺物(22)

部に離し糸切痕が遺存する。3は京都系の土製品で、焜炉のミニチュアである。上部が遺存し、外面に黒色塗布物がみられる。

第167図5は京都系の土製人形で、鯉を模している。左右合わせの二枚型成形で、中実である。彩色と思われる黒色塗布物が付着する。6・7は京都系の土製人形で、同一個体の埴人形である。6は正面、7は背面である。前後合わせの二枚型成形で、下面是開口している。胎土に小礫を含む

特徴がある。青と赤で彩色されている。

第168図2は軒棧瓦である。粗雑な作りで、通常より一回り以上大きな三巴文が施文される。3は転用瓦で、刻書「天神様」がみえる。宿内における信仰との関係性を示唆する資料である。全面に使用痕がみられ、線状痕が明瞭に認められる。4は江戸式の軒棧瓦である

第170～172図1～24は木製品である。1は桶である。2は漆碗蓋で内外面黒漆塗りである。

第46表 区画AD土城出土遺物観察表(5)(第170～173図)

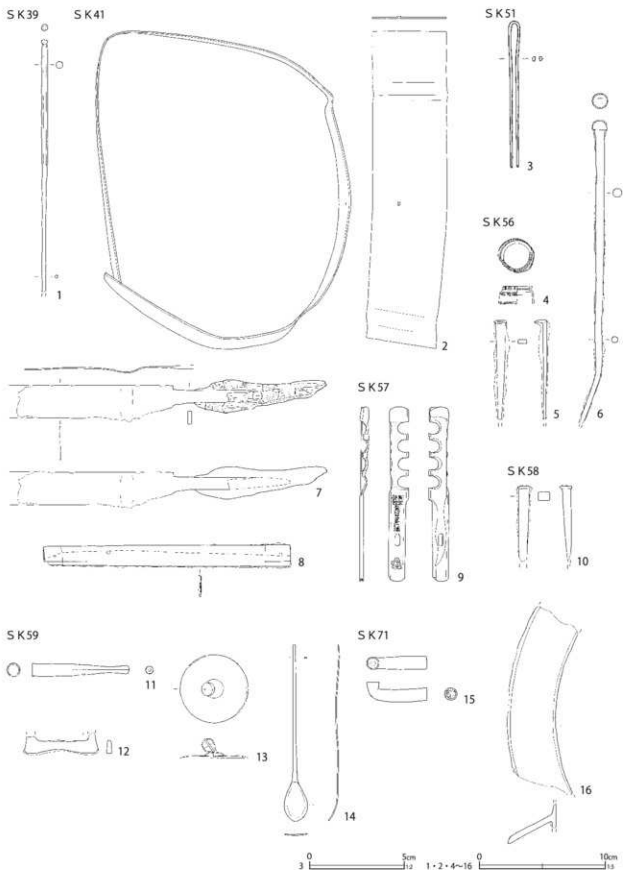
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	桶	—	—	—	13.3	8.8	11.4	板目	SK38	タガ瓶2段	
2	木製品	漆桶蓋	—	—	—	9.1	[2.6]	—	横木取り	SK40	内外面黒漆 つまみ内赤で文字	
3	木製品	曲物	—	—	—	9.4	1.8	9.4	板目	SK40		
4	木製品	栓	7.1	2.4	2.3	—	—	—	削り出し	SK40		
5	木製品	下駄	16.1	[8.3]	—	—	—	2.4	板目	SK53	連歯下駄	
6	木製品	経木	12.4	[5.4]	0.05	—	—	—	板目	SK56	表裏面黒書 表「十三 〇三口 六〇〇 五十」裏不明	143-16
7	木製品	経木	12.3	[2.2]	0.05	—	—	—	板目	SK56	表裏面黒書 表「多九ろ口〇〇」裏不明	143-17
8	木製品	経木	12.2	[2.4]	0.05	—	—	—	板目	SK56	表裏面黒書 表「太郎口」裏「十三口」	144-1
9	木製品	下駄	21.2	10.0	—	—	—	2.5	板目	SK58	連歯下駄	
10	木製品	下駄	(21.0)	9.2	—	—	—	2.4	板目	SK58	陰仰下駄	
11	木製品	下駄	21.1	9.2	—	—	—	3.8	板目	SK58	陰仰下駄	
12	木製品	瓢箪	—	—	0.3	4.5	[5.9]	—	—	SK58	表面黒で文様	127-10
13	木製品	漆蓋	—	—	1.2	16.6	—	—	板目	SK59	表裏面黒漆 木釘 表面金で「灸」	
14	木製品	樽	—	—	2.5	(31.0)	—	—	板目	SK59	蓋 表面に墨書	144-2
15	木製品	漆桶	—	—	—	—	[5.1]	6.5	横木取り	SK66	内面赤漆 外面黒漆	127-14
16	木製品	滑車	17.7	17.4	5.2	—	—	—	板目	SK66	側面に金属	
17	木製品	不明品	—	—	4.5	12.2	—	—	板目	SK66	炭化	
18	木製品	木札	13.0	6.6	1.0	—	—	—	板目	SK66	表面墨書 札1	144-5
19	木製品	漆桶	—	—	—	—	[5.6]	(6.3)	横木取り	SK71	内外面黒漆 高台内赤で「个」	
20	木製品	杓子	16.8	5.5	0.6	—	—	—	板目	SK71		127-15
21	木製品	甕	14.7	0.4	0.4	—	—	—	削出	SK71	らせん状の削り	
22	木製品	曲物	—	31.4	0.5	—	2.6	—	板目	SK247	側板 樹皮紐残存 表裏面焼印	
23	木製品	浮子	[5.8]	1.0	0.9	—	—	—	不明	SK247	黒漆と赤漆	129-14
24	木製品	木札	17.9	5.5	1.0	—	—	—	板目	SK247	焼印「罇」鉄釘1	
25	木製品	お札カ	44.6	8.8	1.0	—	—	—	板目	SK281	表面墨書	148-1
26	木製品	お札	35.0	6.7	0.8	—	—	—	板目	SK281	表面墨書	148-2
27	木製品	樽	—	—	3.0	32.6	—	—	板目	SK288	蓋 墨書 焼印「罇」板毎に厚みが異なる 口径4.7cm厚さ2.8cm	152-8
28	木製品	桶	—	—	—	(34.0)	31.0	[27.6]	板目	SK288	側板19枚 木釘2 木釘跡2 丸い札1 墨書1 焼印2	152-9
29	木製品	桶	[30.5]	[39.1]	0.9	—	—	—	板目	SK288	側板墨書シガミヤ印 焼印「鏡子」「廣庄改」「直改正」「萬代」	152-10

つまみ中央部が楕円状に窪んでいる。3は小型の曲物である。5は連歯下駄である。6～8は経木である。9は連歯下駄である。裏面の爪先と踵部分に段が作られ、特異な形である。12は瓢箪で、表面に黒漆で文様が描かれている。13は表裏面黒漆塗りの蓋である。木釘でつないだ痕跡が残る。表面に金で「灸」の文字が書かれる。15は漆桶で、内面赤漆塗り、外面黒漆塗りである。16は滑車と考えられる。中央部には軸が付いている。側面には浅い溝が作られ、鉄釘状のものが埋め込まれている。18は木札である。墨書で「臺〇十六街/〇益御〇〇/15つり」と書かれる。19は漆桶である。内外面黒漆塗り、高台内に赤で

「个」と書かれる。20は杓子である。受部の外形が逆三角形である。受部の窪みは浅く、平坦である。21は甕である。上下端部が細く作られ、上部はらせん状に削られる。22は曲物の側板である。表面には「八百六」の焼印が3箇所残る。23は浮子で、上半は赤漆、下半は黒漆塗りである。下面に金具取付の穴があいている。24は木札で、「罇」の焼印が押される。

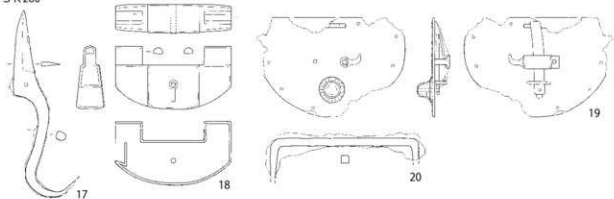
第175図18・19は鉄製錠前で開錠状態である。19は引き出しに伴う錠前である。20・32は鉄製の錠である。建物などの構築に使用されたと推察される。

第178図1はホルンフェルス製の砥石である。

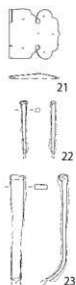


第174图 区画AD土坑出土遗物(23)

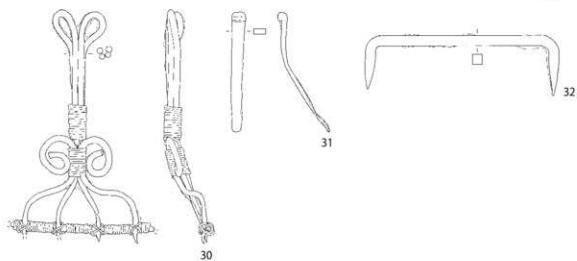
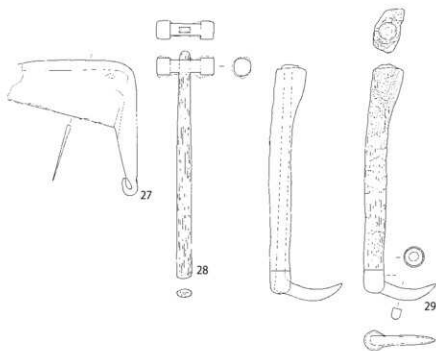
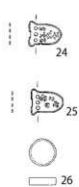
SK 280



SK 281

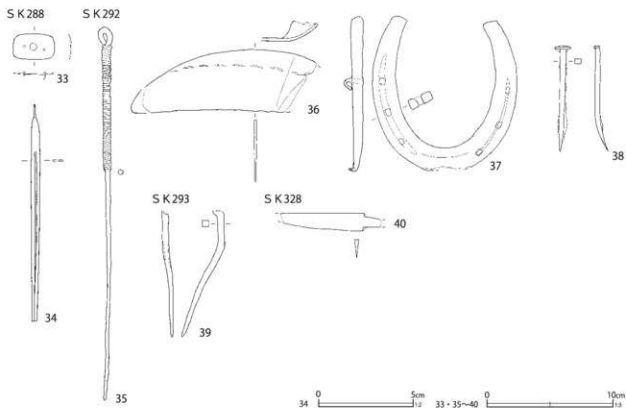


SK 284

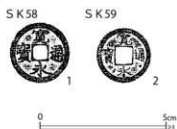


24·25 0 5cm 17~23·26~32 0 10cm

第 175 图 区画 AD 土壙出土遗物 (24)



第176図 区画AD土壌出土遺物 (25)



第177図 区画AD土壌出土遺物 (26)

下端面に密なノコギリ状工具痕が遺存し、表・裏面にランダムな削り痕がみられる。破損したものを再加工した様子が窺える。側面は砥面で、刃ならし状の傷が多数みられる。3は凝灰岩製の切石材である。表・側面はノコギリ状工具痕に類似する平行する深い溝がみられる。6はホルンフェルス製の砥石で、下端面に密なノコギリ状工具痕がみられる。表面には刃物傷がみられ、裏面には無

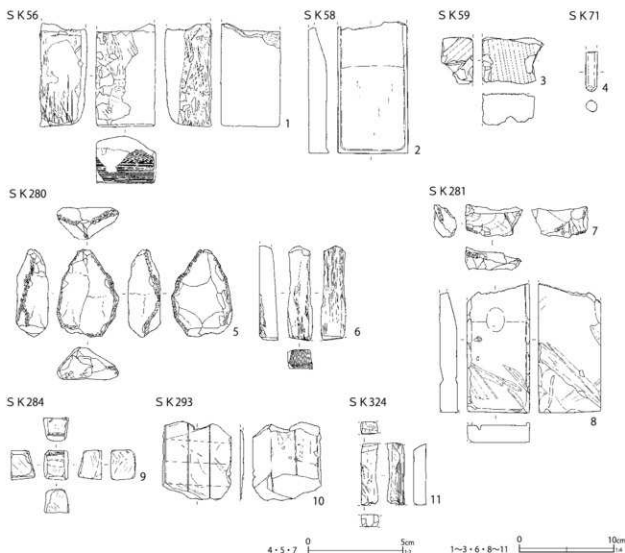
数の線条痕が認められる。5・7は玉髄製火打石である。5は稜の潰れが著しく、使い込まれている。7は打ち割り痕跡が認められる。8は凝灰岩製の硯で、両面に削り痕がみられる。再加工を意図したものであろうか。9は流紋岩製砥石で、サイコロ状に使い込まれている。11はホルンフェルス製の砥石で、裏面に密なノコギリ状工具痕が摩耗している。

第47表 区画AD土壇出土遺物観察表(6)(第174~176図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	火箸	長さ[20.0] 厚さ0.5 重さ17.7	SK39	持ち代を八角に面取り	
2	銅製品	不明	縦25.2 横20.3 幅5.9 厚さ0.15 重さ421.9	SK41	銅板の長さは約75cm 径2mmの小孔1点あり	
3	銅製品	簪	長さ7.8 幅0.5 厚さ0.2 重さ3.9	SK51		
4	銅製品	不明	径2.8×2.7 高さ1.4 厚さ0.1 重さ10.3	SK56	キャップか	
5	鉄製品	釘	長さ[7.9] 幅0.7 厚さ0.3 重さ10.4	SK56		
6	鉄製品	火箸	長さ[24.2] 厚さ0.7 重さ50.1	SK56	箸頭半球形	
7	鉄製品	不明	長さ[24.6] 幅2.6 厚さ0.1 重さ43.2	SK56	木柄付き コテ状の工具か	
8	鉄製品	不明	長さ19.6 幅1.7 厚さ0.2 重さ18.0	SK56	小孔3箇所あり 縁金か	
9	銅製品	鉛筆削り	長さ13.8 幅最大1.6 厚さ0.3 重さ14.3	SK57	「新案特許第五四三三九號」	
10	鉄製品	釘	長さ[6.0] 幅0.9 厚さ0.7 重さ22.2	SK58		
11	銅製品	煙管	長さ7.7 小口径1.0 口付径0.6 重さ7.4	SK59	吸口	
12	鉄製品	火打金	長さ[1.7] 幅6.8 厚さ0.4 重さ12.5	SK59		
13	銅製品	蓋	径5.4 高さ1.9 厚さ0.05 重さ10.4	SK59	つまみ部中空	
14	銅製品	匙	長さ14.0 幅1.9 厚さ0.05 重さ3.3	SK59		
15	銅製品	煙管	長さ4.8 火皿径1.0 小口径0.6 重さ9.2	SK71	扉首 内部に扉首残存	
16	鉄製品	釜鏝	縦[15.0] 横[5.7] 厚さ0.4 重さ130.7	SK71		
17	鉄製品	鉄	長さ14.8 刃幅1.5 背幅0.3 重さ42.8	SK280	剪定鉄か	
18	鉄製品	錠前	縦5.0 横9.2 厚さ2.3 重さ76.6	SK280	開錠状態	
19	鉄製品	錠前	縦7.9 横11.8 厚さ2.5 重さ75.2	SK280	引出しの錠前 開錠状態	
20	鉄製品	錠	長さ11.8 幅0.6 厚さ0.6 重さ41.0	SK280		
21	銅製品	螺番	長さ3.9 幅4.1 厚さ0.03 重さ10.7	SK281		
22	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.3	SK281		
23	鉄製品	釘	長さ[8.6] 幅1.0 厚さ0.4 重さ14.5	SK281		
24	銅製品	こはぜ	長さ1.3 幅1.7 厚さ0.08 重さ0.5	SK284	「23.5 九七」	
25	銅製品	こはぜ	長さ1.3 幅1.7 厚さ0.08 重さ0.5	SK284	「おこのみ」	
26	鉄製品	口金	径2.1 幅0.6 厚さ0.1 重さ3.6	SK284	27の鎌に付属するか	
27	鉄製品	鎌	刃長[10.0] 刃幅4.6 背幅0.3 重さ51.6	SK284		
28	鉄製品	金鎖	長さ18.0 頭長4.5 頭幅1.4 重さ42.2	SK284	木柄付き	
29	鉄製品	自在鉤	長さ18.7 幅0.7 厚さ0.9 重さ72.2	SK284	木柄付き	
30	鉄製品	不明	縦18.6 横[11.5] 厚さ0.4 重さ142.4	SK284	4本の鉄棒を組み合わせた針金で固定	
31	鉄製品	不明	長さ9.5 幅1.0 厚さ0.4 重さ15.7	SK284		
32	鉄製品	錠	長さ15.5 幅0.8 厚さ0.8 重さ73.0	SK284		
33	銅製品	煙草入れ金具	縦2.0 横3.3 厚さ0.08 重さ3.5	SK288	袋の前金具の裏金	
34	銅製品	簪	長さ11.5 幅0.5 厚さ0.1 重さ3.2	SK288	王欠失	
35	鉄製品	火箸	長さ29.6 厚さ0.4 重さ34.0	SK292	箸頭楕状 持ち方コイル巻き	
36	鉄製品	鎌	刃長[13.9] 刃幅4.9 背幅0.2 重さ36.8	SK292		
37	鉄製品	踏鉄	縦12.3 横11.5 厚さ0.8 重さ193.7	SK292	釘1本残存	
38	鉄製品	釘	長さ[8.3] 幅0.5 厚さ0.4 重さ7.9	SK292		
39	鉄製品	釘	長さ[10.1] 幅0.5 厚さ0.5 重さ11.8	SK293		
40	鉄製品	刀子	長さ[8.0] 刃長[6.5] 刃幅1.4 背幅0.3 重さ8.7	SK328		

第48表 区画AD土壇出土遺物観察表(7)(第177図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径24.4 厚さ1.2 重さ3.4	SK58	寛永通寶(古)	
2	銅製品	銭貨	径21.9 厚さ1.0 重さ2.0	SK59	寛永通寶(新)	



第178図 区画AD土壌出土遺物(27)

第49表 区画AD土壌出土遺物観察表(8)(第178図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[10.9]	6.3	5.0	658.2	ホルンフェルス	SK56	側面ノコギリ痕・刃ならし痕多数 表裏面ランダムな削痕 砥面2	
2	石製品	硯	[13.9]	7.5	—	354.5	凝灰岩(中粒)	SK58	器高2.1cm	
3	石製品	切石材	[5.0]	[6.5]	[3.4]	112.8	凝灰岩	SK59	表・側面ノコギリ痕カ(深い幅広)	
4	石製品	石筆	[2.1]	0.6	0.6	1.4	滑石(白)	SK71	下部部使用	
5	石製品	火打石	4.7	3.3	1.7	26.5	玉髓	SK280	稜の潰れ著しい	
6	石製品	砥石	[10.0]	[2.6]	2.0	86.7	ホルンフェルス	SK280	側面ノコギリ痕 砥面2 線条痕・刃物痕あり	
7	石製品	火打石	3.0	1.6	1.2	5.2	玉髓	SK281	使用痕あり	
8	石製品	硯	[13.8]	6.6	—	246.4	凝灰岩	SK281	器高2.1cm 表面二次穿孔(未貫通) 表・裏面削痕	
9	石製品	砥石	3.2	2.6	2.5	33.7	流紋岩	SK284	砥面6 削痕あり	
10	石製品	石板	[8.3]	[7.3]	0.3	36.4	粘板岩	SK293	表裏面算線	138-3
11	石製品	砥石	6.5	[1.8]	1.3	30.6	ホルンフェルス	SK324	裏面ノコギリ痕 砥面4 遺存 刃物痕あり	

報告書抄録

ふりがな	くりはししゅくあと							
書名	栗橋宿跡VI							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第473集							
編著者名	水村 雄功							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2022(令和4)年3月22日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 °"	東経 °"	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
栗橋宿跡 (第8地点)	埼玉県久喜市 栗橋中央2丁目 3517-3 他	112321	011	36°08'26"	139°42'11"	20160401～ 20170331 20170401～ 20170930	5226.00	堤防強化 記録保存 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
栗橋宿跡 (第8地点)	宿場跡	江戸時代	建物跡	6棟	陶磁器	町屋跡を調査した。 18世紀末前葉の火災処理土壌を 検出した。 18世紀初頭の土壌を検出した。 18世紀前葉の火災層を検出した。 浅間A降下軽石を検出した。		
			基礎状遺構	6基	土師質土器			
			埋設桶	20基	瓦質土器			
			埋設甕	1基	土製品			
			井戸跡	8基	瓦			
			杭列	4条	木製品			
			木樋	1基	金属製品			
			溝跡	28条	羽口			
			高跡	3箇所	鉄滓			
			小鍛冶遺構	2基	石製品			
			性格不明遺構	2基	硝子製品(筭)			
			焼土遺構	9基	骨製品			
			土壇	484基	繊維製品			
			ピット	77基				
要約	<p>栗橋宿跡は利根川右岸に立地する日光道中7番目の宿場街「栗橋宿」の町屋跡である。発掘調査で検出された遺構は19世紀後半以降を中心とする第一面、18世紀後半～19世紀前半の遺構を中心とする第二面、18世紀前半以前を中心とする第三面に分けられる。</p> <p>調査の結果、第一面では町屋の裏空間に立ち並ぶ土蔵跡と考えられる建物跡とそれらに平行する敷地壇と考えられる杭列、溝跡、木樋が検出された。第3・7・8号埋設桶は自然科学分析の結果、便槽としての機能が示唆された。第二面では建物跡が少ない一方で、井戸跡や土壇が多く、第一面とは土地利用が異なっている。第三面では浅間A降下軽石に被覆されている高跡が検出された。また、多量の羽口や鉄滓が出土し、小鍛冶遺構が検出されたことから鍛冶屋の存在が示唆された。調査区南側では、18世紀前葉に比定される火災層とその直下から18世紀初頭の土壌が検出された。また、18世紀前葉に遡る火災処理土壌が検出され、栗橋宿跡最古級の火災痕跡が認められた。</p> <p>遺物では、僅かなヨーロッパ産、中国産陶磁器類に加え、国産陶磁器が多く検出された。土器類では、江戸で生産されたものがみられたほか、江戸のものとは異なる在地の製品が多く認められた。加えて、18世紀の遺構からは常陸地域の製品が一定量見られ、大甕や火鉢、が確認された。土壇を中心に出土した多種多様な一括遺物は、近世宿場町の実態を示す良好な資料であり、特に18世紀前葉以前の遺構群から出土した遺物は栗橋宿跡の空白期間を埋める貴重な資料となった。</p>							

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第473集

栗橋宿跡Ⅵ

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第1分冊)

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社